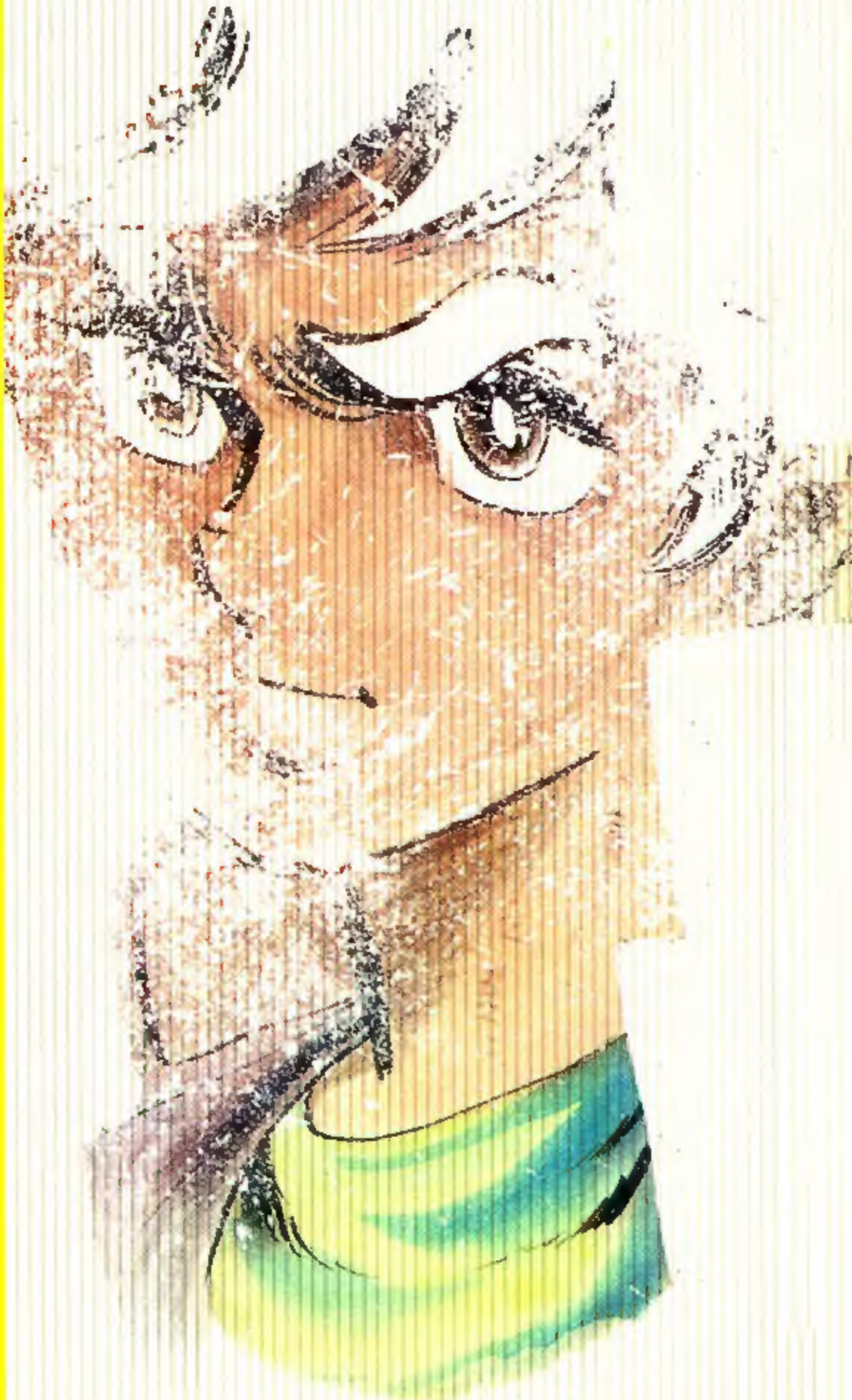
男一匹ガキ大将

バク進万吉一家の巻



第10巻

本宮ひろ志

日本全国の
はんば共を
まとめあげたる
ことじゃ……

男一匹ガキ大将

■バク進万吉一家の巻

●第10巻●

本宮ひろ志

物紹介

前巻までのあらすじ

ケンカがメシより大好きな暴れん坊戸川万吉は、西海村に一千人の子分をもつ大番長だ。

浮浪者の総大将、カスミの大三郎、坊屋光五郎としりあった万吉は、全国の浮浪者を味方に引き入れ、株の世界で活躍、二億円の大金を手中にした。

だが、仲台の暗躍で、西海村は焼かれ、日本財界の大物、白川宇太郎の悪だくみで、火つけ犯人として警察に追われた万吉は、一千人の子分とともに赤姫山に籠城、その名を全国に響かせた。

少年院へ送られた万吉は、銀次、綱村と特少を支配する影の総部屋長、鬼頭政次に挑戦、その以外な正体に泣いた。

やがて西海村へ帰った万吉は、銀次たちに全国から男をさがすよう命令した。

四国、九州、山陰からぞくぞくと男たちが西海村へ集まってきた。だが万吉は、ワナともしらずあゆみとの甘い恋によいしれていた。

戸川万吉　眼帯の銀次

土佐源　菊村大助

登場人

ドクター佐々木

神島虎八

大島光克

和尚

水戸正江　仲台

そのころ、ひそかに西海をねらっていた山陰の山崎は、千人の子分をひきつれ西海へのりこんできた。綱村の必死の願いもむなしく、万吉はあゆみとともに東京へ旅立っていった。

親分を失った銀次、綱村は万吉一家さいごのケンカに死を決意し、嵐の中で山陰の山崎と激突した。一方、嵐で鉄橋がくずれ、車中で苦脳しつづけていた万吉は、くずれた鉄橋にバク進する下り列車をしり、ついに男の血が爆発した。

ケンカ場のまっただ中にとびこんだ万吉は、子分をひきつれ、未曽有の人柱で鉄橋をささえる。絶叫する男たちの頭上を轟音とともに列車は通過した。

だがつぎの一瞬！くずれおちる材木の中に万吉、綱村の姿はきえた。

生か死か！

目次

男一匹ガキ大将 10
バク進万吉一家の巻

綱村はどこだの巻……8
壮烈！立ち往生の巻……29
ドクター佐々木の巻……54
バク進万吉一家の巻……78
金沢の菊村の巻……106
紀伊山中放浪の巻……130
東北の実力者の巻……154
激突!!北陸の空の巻……183

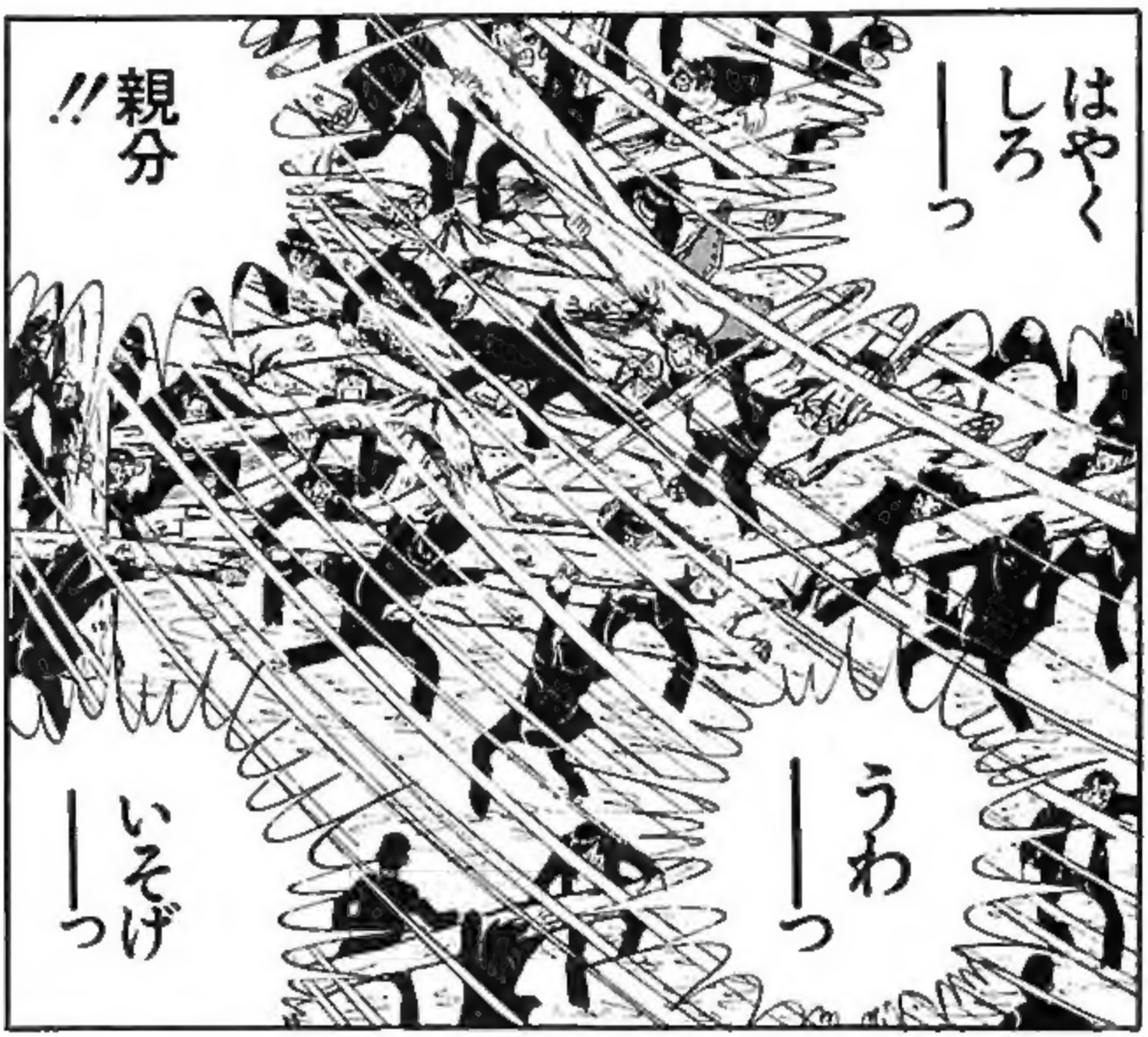
男一匹ガキ大将

綱村はどこだの巻

うっわあーっ
親分!!

綱村!!
大将!!

助けろ
材木をどかせ
ぼやぼや
するな
——っ

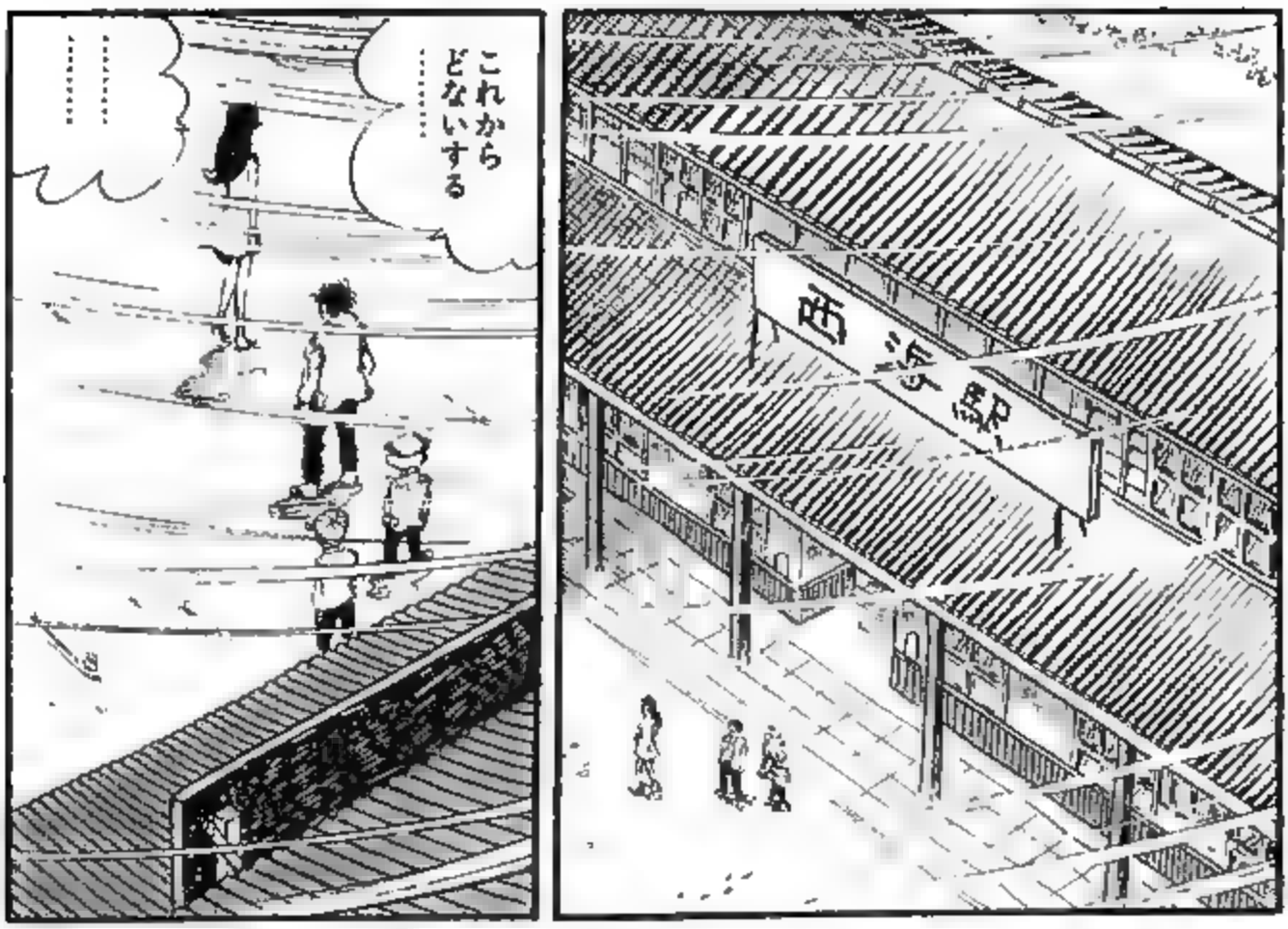

はやく
しろ
——っ
親分
!!
うわ
——っ
いそげ
——っ

親分!!
死ぬな
死んだら
だめだよ
――っ

神さま仏さま
べんてんさま
おおーっ
助けてくれっ
親分を……
綱村を　助けて
くれ――っ

おれの命と
ひきかえに
してくれ
よ――っ!!
うわ
――っ

ああ
――っ
!!


これから
どないする
……
……
西淀駅

鉄橋が
ぶっこわれ
汽車は
とおれんで……
とうぶん
……
……

そないに
いそがんでも
ええやんか
親分たち
もうじき
くるぞ……
帰って

ラッパさん……
友子ちゃん……

いまニュースできいたんだけど……
まっ……万吉さんたちは……

はっはは だいじょうぶや
汽車は鉄橋をつうかしよった

その後……どうなったか…わいらの列車もすぐひき返してきたから……わからんけど…
いま…大わらいしながら帰ってきよるやろ

よかったわ……

あゆみさん…

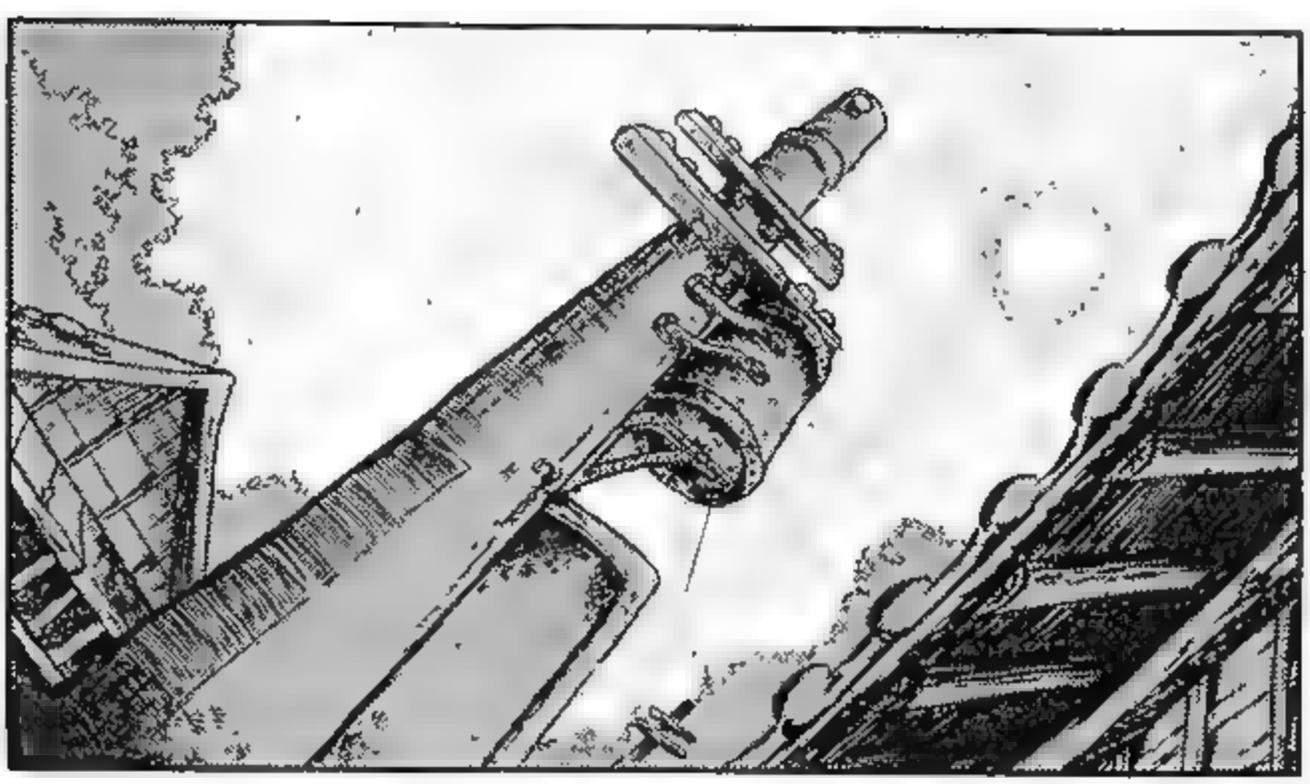
万吉さんを
だいじにしてあげてね……
わたし……
このまま……
船で　東京へ
帰ります
ふふ……
あはは
はは……
あっはは
はっはは……
あっ……
あゆみさん
……
ふん……

もう…
用はないわよ
あんなやつ…
もともと
万吉を
ふぬけにするのが
わたしの 目的
だったんだ
もん……
それが
今度のことで
……
……
とにかく…
もう
用ずみよ…
さようなら
……
やっ…
やっぱり
それが 目的
だったのね
……
あの…
あばずれ…
でも… 友子ちゃん…
よかったわーっ
これで 万吉さん
帰ってくるのよ
あなたの
ところへ…
あゆみさん
……

綱村ーっ
てっ…
てめえ
〜〜〜っ

はよう
だせーっ
親分を
ひきずり
だすんだ…
おお
ーーっ

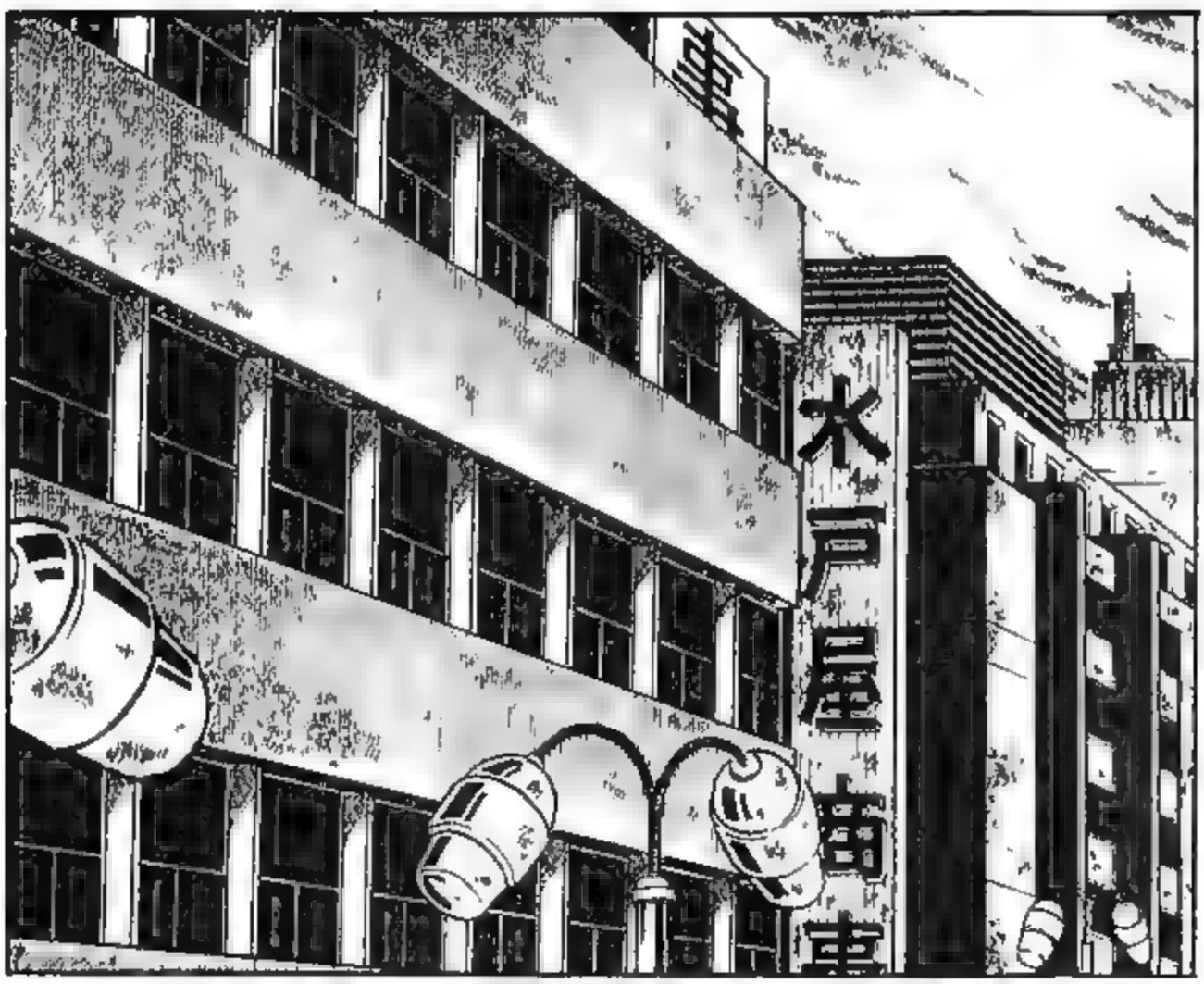
綱村〜〜っ
てめえ
きょうから
おれっちの
兄き分だぜ



ひゃあーっ
万吉はん…
またやった
のうーっ
みてみい…
この新聞
ほんま
すごいでえ

まったく
わいらも
ハナが
高いでえ
くっ
しかし
まだ眠った
ままらしい
のう…

なあーに
万吉はんのこっちゃ
すぐ ピンピン
しやはるで
せやな…
はっはは
はは……


水戸屋商事

ふふ……
おしいところまでいったようだのう…あゆみ……
おばあちゃん…
わあ――っ!!
はっははは……
泣け 思いっきりなけば…すっきりする…
お前が 泣くだけの価値はある男じゃ…
万吉(まんきち)という男は……

会長……
うまくいったか…
はっ…
やりました 四十パーセント以上です
しかも昭和ハウスの社長は まだ気がついておりません……
ふっふふ… やはりあの男… 経営者としてはヒヨコじゃのう……
はっはははは
わあっはははは
これで昭和ハウスもわしのものか……

あゆみ……
すきなものを
いってみなさい
……
なんでも
買うたるぞ
……
すくなくとも
万吉(まんきち)が
ふぬけになっとる
あいだに……
昭和(しょうわ)ハウスは
わしのものと
なったでのう
おばあ
ちゃん
なんじゃ
なにが
ほしい
わたし
外国へ
行きたい…
よかろう
ゆっくり
遊んでくるが
よい…
一年でも
二年でも
な…

あゆみ…

すまん
わいは…
わいは…
こういう
生き方しか
できん男や…

親分……
いやあ…気がついたんですか……
ン…
よかったほんとによかったぜ……
へへへっ
どないしたんやおまえ……目が真赤やんか……
えっへっ
泣いてたのか……

ガラ
ン…
なんや…みんなおったんかいな……
へっ？
万吉親分……
なんや…あ……あらたまって…

へい…
その
あらため
まして…
わいら
一同…

子分にさして
もらいまっさ…

ちょっと
まってくれ
……
そのまえに
わいは…
みんなに
あやまらな
ならん…

特に綱村…
おまえには
ほんまに
すまんことをした
ン…
綱村は
どないした
……
おれへん
のか…
なっ…
なんや…
おっ…
おい…
どうか
したんか…

なにいっ!!
壮烈!!
立ち往生の巻
死んだ!!

う……
うそだ
……
はっはは
うそ……やろ
うそに
きまっとるな
銀次
りっぱだった
ぜ……
野郎……

う
ああ
まさか……
まさか……
こっ…これが…

鋼村の
野郎……
親分を
かばって
……

うう……

綱村
――っ
おんどれ――っ

ようやったようやった…
きょうからてめえおれっちの兄貴分にしてやるぜえ――っ

おい……
どうした
何とか
いえよっ
もう
いいんだぜ……
あ
は
は
は
ー
野郎
その
まんま……
死んで
いやがっ
たんだよ
おお〜〜〜〜

その万吉ちゃうやつに あいたい人じゃがのう！
わしゃあ……
わしゃあ万吉にだけは手を出すなと言われとるけえ
ええ
ええ
ええ

てっ……
なぜ……
なぜ……
ここは……
ここは……
その一心で
それだけで
こんなところまで来たんだ
おらあ
あーっ
おらあ
あーっ
おらあ
あーっ!!
おらあ
あーっ!!
はじらかすな!!
頭に血がのぼってやりやすくなるんじゃ
おおーっ!!
同じめしを食い
同じ釜をたたいて
同じけんかをやり
なぜわしよりきわがれるんじゃ

うわあああ!!っ

あああっ

細村(ほそむら)!!っ

目をあけろ!!っ

目をあけ!!っ

どんな……
どんな　みにくくても
かまわね——っ
おお!!っ
目だけ
あけて
くれ——っ

笑えよ
——っ
笑ってくれ
——っ
綱村(つなむら)
あ——っ
!!

ちいくしょお
お——っ
!!
わあ!!っ

わいは
お前に
なんちゅうて
わびたら
ええんねっ
どないしたら
ええのん
や――っ
くっそ
――っ
あっ
わわ
ああ
――っ
親分!!

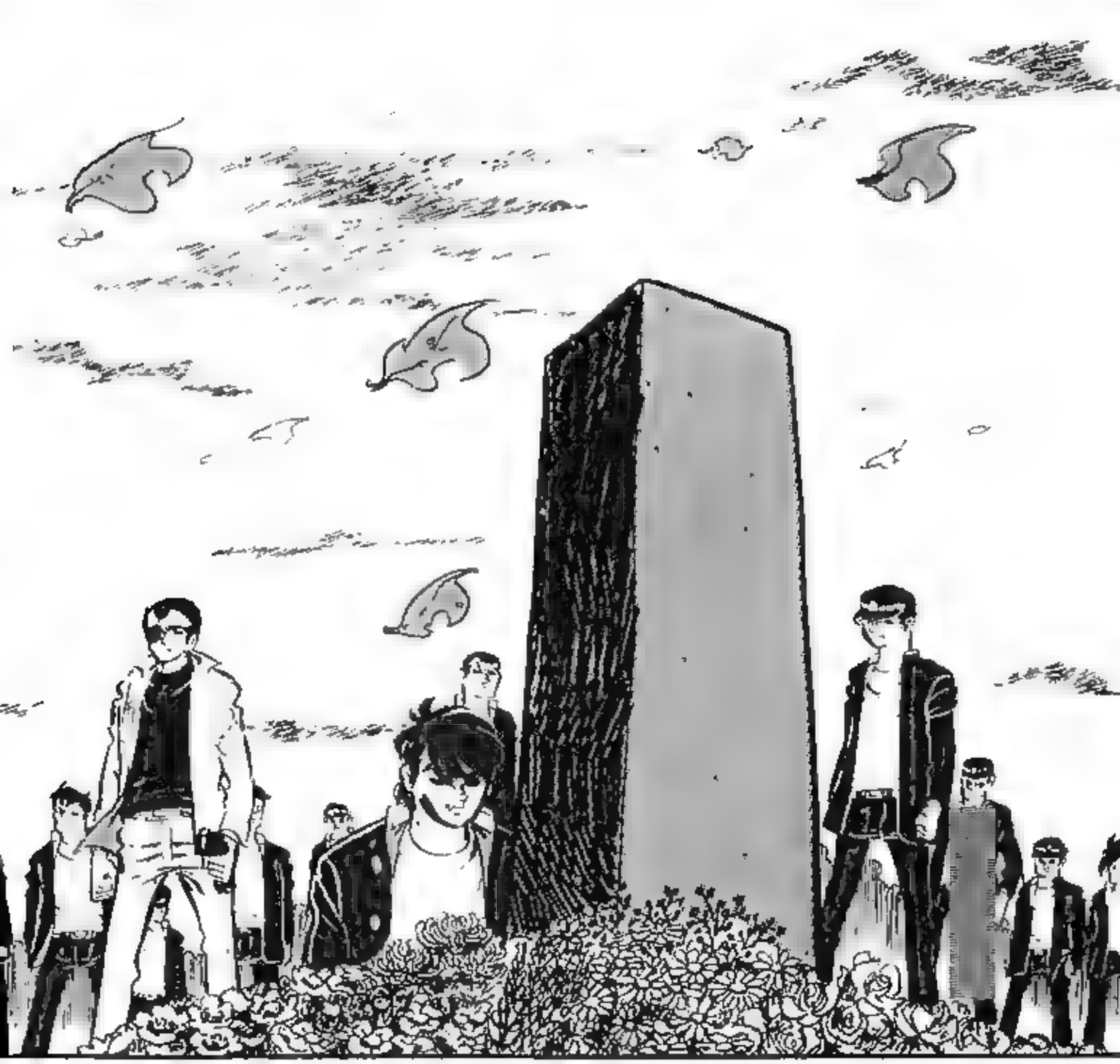
やめろ
やめるんだ
――っ
こんなことしたって
綱村は　生きかえっちゃ
こねえよ――っ
じゃか
ましい
――っ
うっ

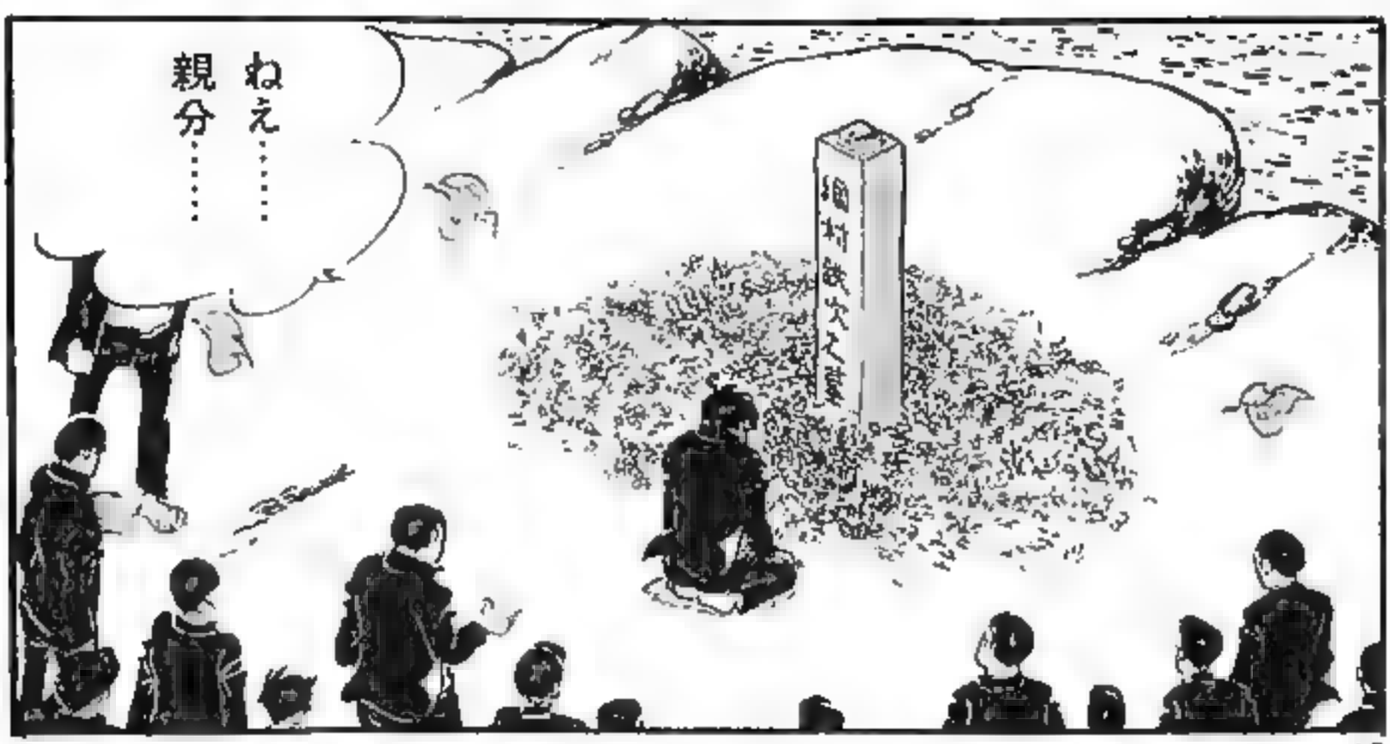
う
じゃま
さらすな
おんどれ
――っ
親分
みぐるしい
ぞっ
そんなことを
したって
綱村が
よろこぶと
思うかっ

うっ～～
うう～～～
ううあ
あ……
ああ
あう
～～っ
その綱村の
気持ちを
うらぎって…
いま くたばっち
まったら
どうなるってんだ……
綱村が なぜ
あんたの身がわりに
なったと思う…
あんたの
明日のため
だが……
万吉さん
……
あんたの将来の
ために 綱村は
よろこんで
身がわりに
死んだんだ……

わしにしたってそうだ……
いまのわしなら万吉さん……
あんたに勝てる……
だがな……
明日になれば負けるだろう……
わしはあんたの明日にかけて……
子分になるんだ……

ここにいる
みんなに
したって
おなじことだ
……
うっ
……
綱村(つなむら)
あ
あ～～～
おおお
～～～～
ああ
～～～




ねえ……
親分……

いつまで……
こうしても……
やつが
生きかえるわけで
なし……
わかっと
る……

網村のためにもな……
やらなあかん……
やったらな…
あかん……

わっ
親分
大将!!

ドゴ〜ン

ゾ

いくか…
おれたちも……
おお……

まて……
いまは
ひとりにしといて
やれ……
ひとりにな

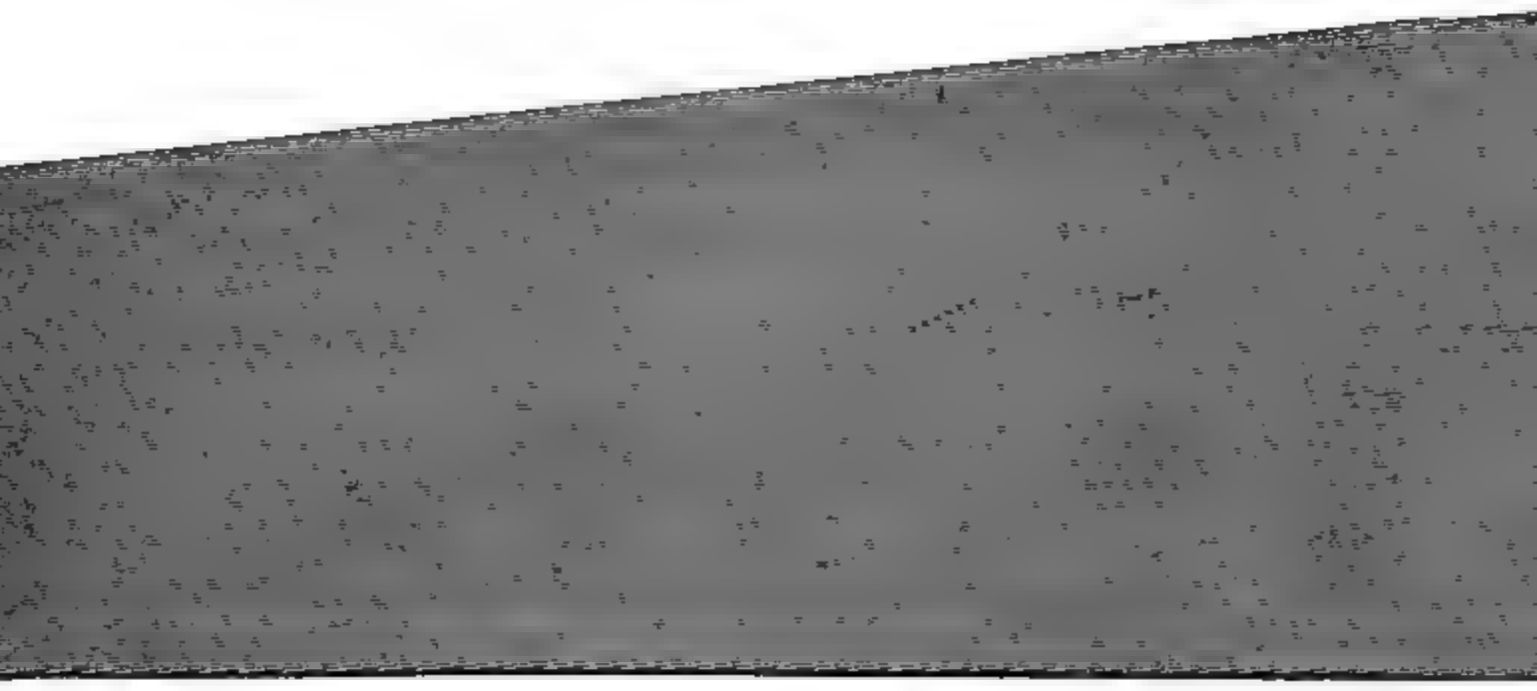
万吉さん……
どこまで
やれるか
しらんが……
この菊村……

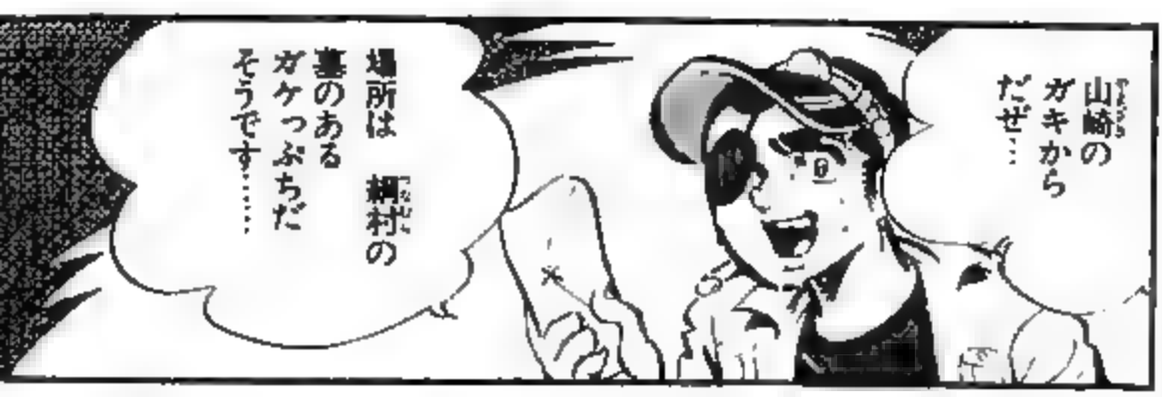
とことん
力をかすぜ……

銀次……
ウン……
ええ
大将に
あわしてくれた
れいをいうで…
……
おれたち
もな……
万吉一家だ……

ふふ……
そうだ 万吉……
おぬしには 先が あるだけだ……
いちいち うしろを ふりかえっている ひまはない……
行くんだ…… どんどん 前に…… 前進 あるのみじゃ……
新しい勝負が まっておるぞ……
東京(とうきょう)に な……

ドクター佐々木の巻




山崎のガキからだぜ…
場所は 綱村の裏のあるガケっぷちだそうです……

親分と サシの勝負がのぞみらしいが……
なんなら…この銀次が…

ン……

まえぇ
あっ……あれ
読まねえんですかい…
わいの負けやいうとけ……
そっ…そんな
ほっとくんじゃ…もう……
おんどれらもいっさいかまうな……

だっ…
だけどよう
……
あほ……
今は 綱村の
奢に服している
時だろ……

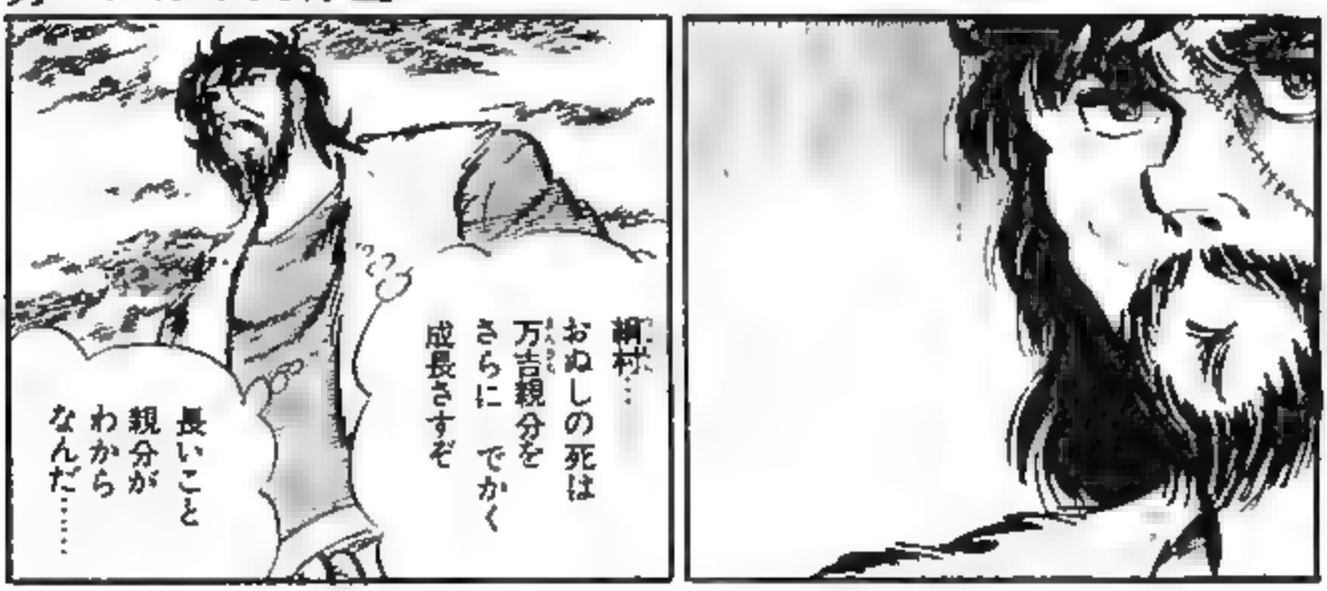
ふふ
以前
銀次が……

わかりやした
・そんじゃ
わいの
負けや
いうとけよ・

なるほどのう
あ奴め
いいよるな・
ほ～～～っ

わいに 甘さが
あるから 一千人の
子分が いると
いうた……

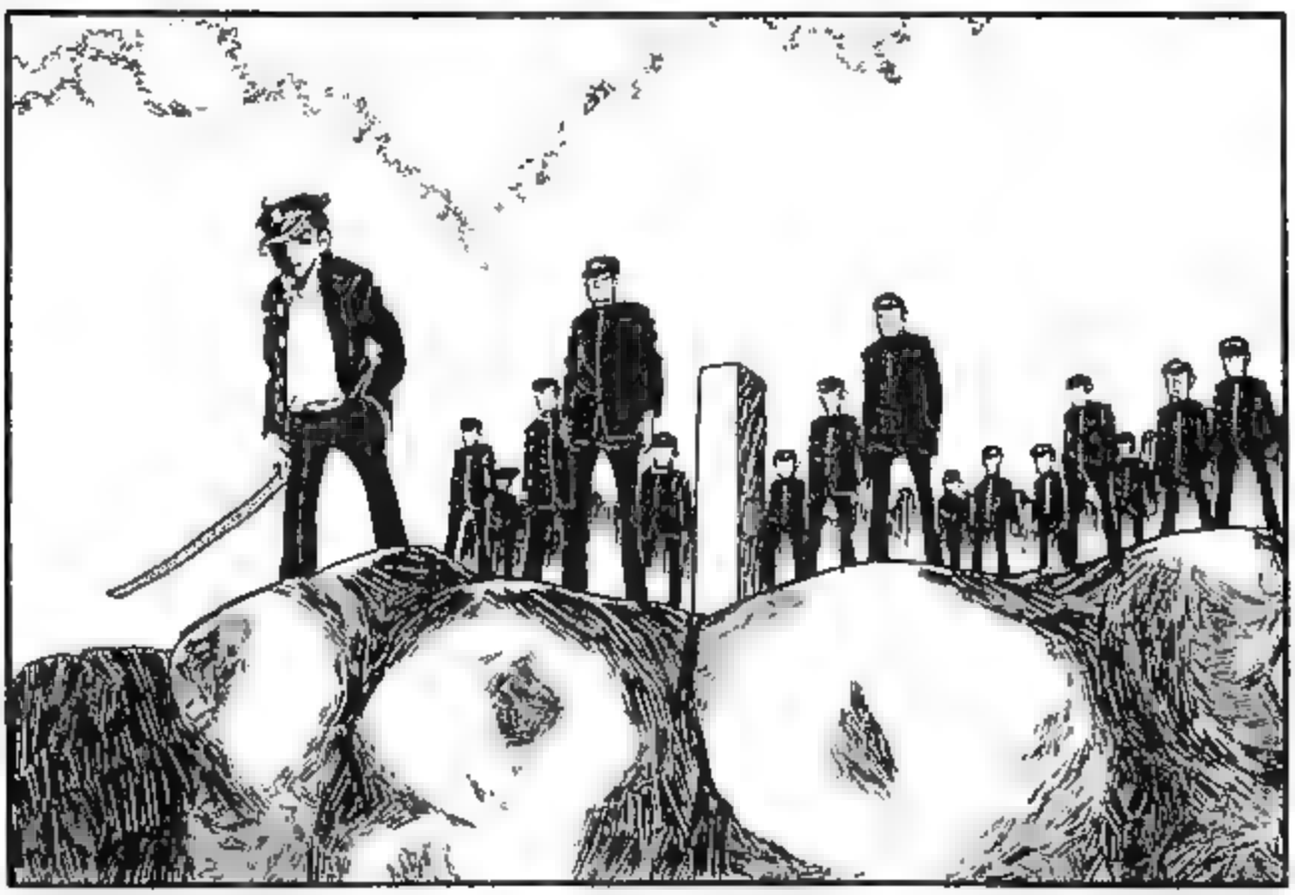
だが
その甘さのために
網村が　死んだ.
あかんのじゃ
わいのために
ぎせい者を
だしたら.
あかんの
じゃ……
わいは
ならな
あかん…
この大海原を
つっこむような
でっかい　気持ちを
もたな……
あかんね…
いつまでも…
うなりさけんどった
んでは…
あかんね…
わいが
目先だけの
感情で
動いとった
ら…
また
だれかが死ぬ
……


綱村…
おぬしの死は
万吉親分を
さらに でかく
成長させるぞ
長いこと
親分が
わからなんだ……

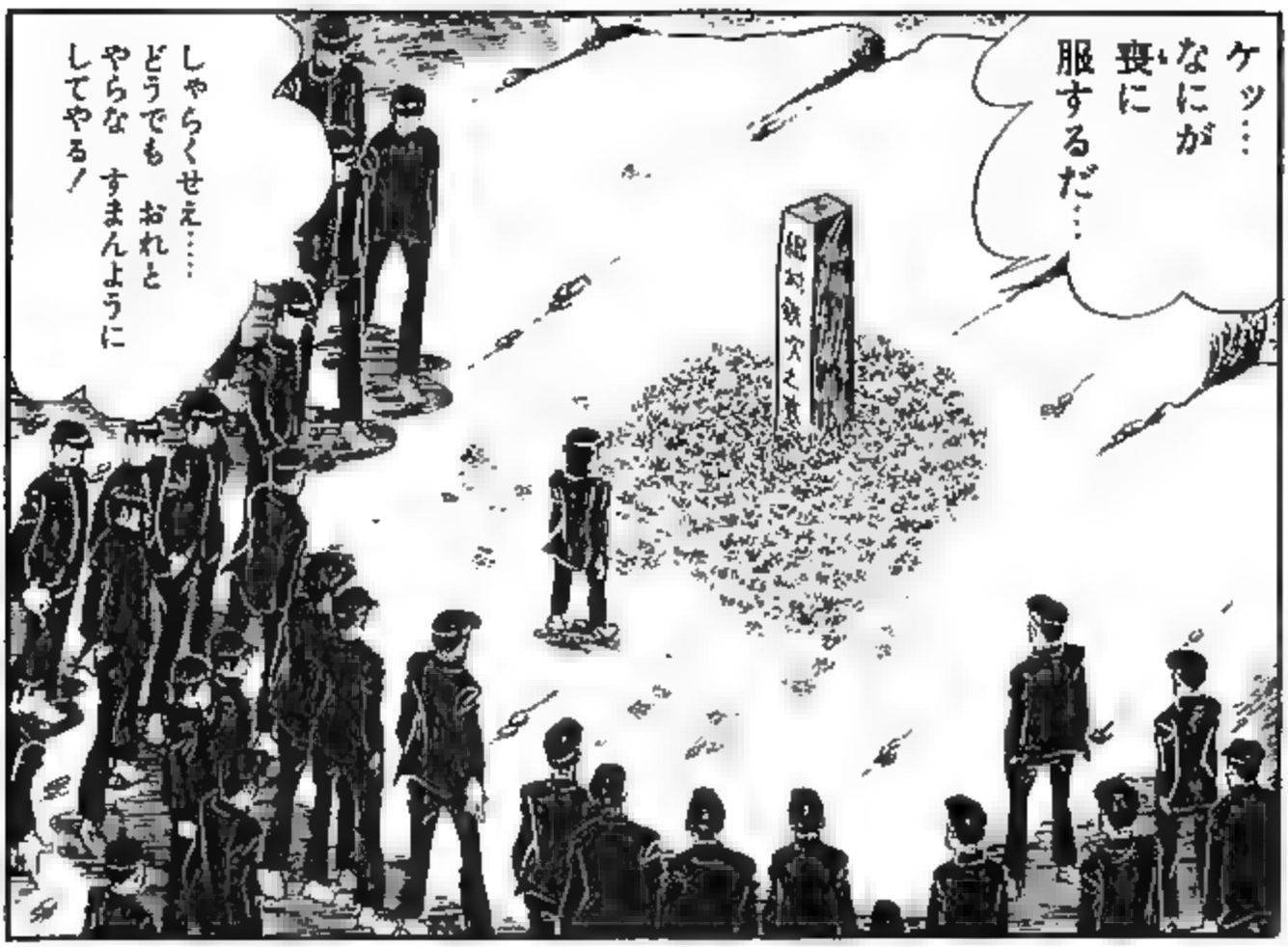
人の上に立つ
苦しさ……
こどくさを
……
教えこんだんじゃ
……

ドカッ
うわーん
わーっ
ないた
ないたー
泣き虫
ちび助…
ちんちくりん
やれやれ…
もっと
やれーっ

うわ
ん
わ
—
っ



くそ
—
っ


ケッ…
なにが
褒に
服するだ…
絶対敵穴之墓
しゃらくせえ…
どうでも おれと
やらな すまんように
してやる!

やれっ
!!
山崎さん

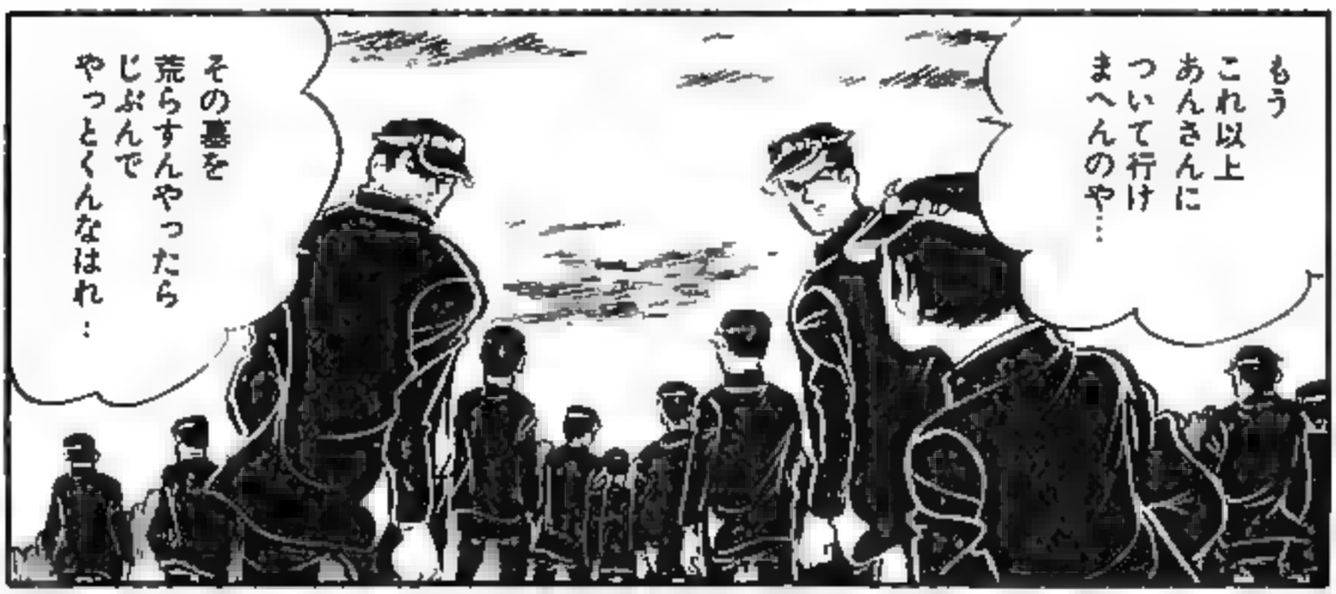
本気
ですかい
……

二度も
いわすな…
綱村

しかし……
いくら
なんだって
こいつは……
細村弥次之墓
聞けんてのかっ!!
へっ……
へえ……
あまりにもえげつないですぜ!
ぎゃっ!!
あ……
あわわ……

ふん……
いっぱしの
拳人づら……
さらし
やがって……
なっ
……

なんじゃい
きさまら
――っ


もう
これ以上
あんさんに
ついて行け
まへんのや…
その墓を
荒らすんやったら
じぶんで
やっとくんなはれ！

きっ……
きさまら
～～～～っ

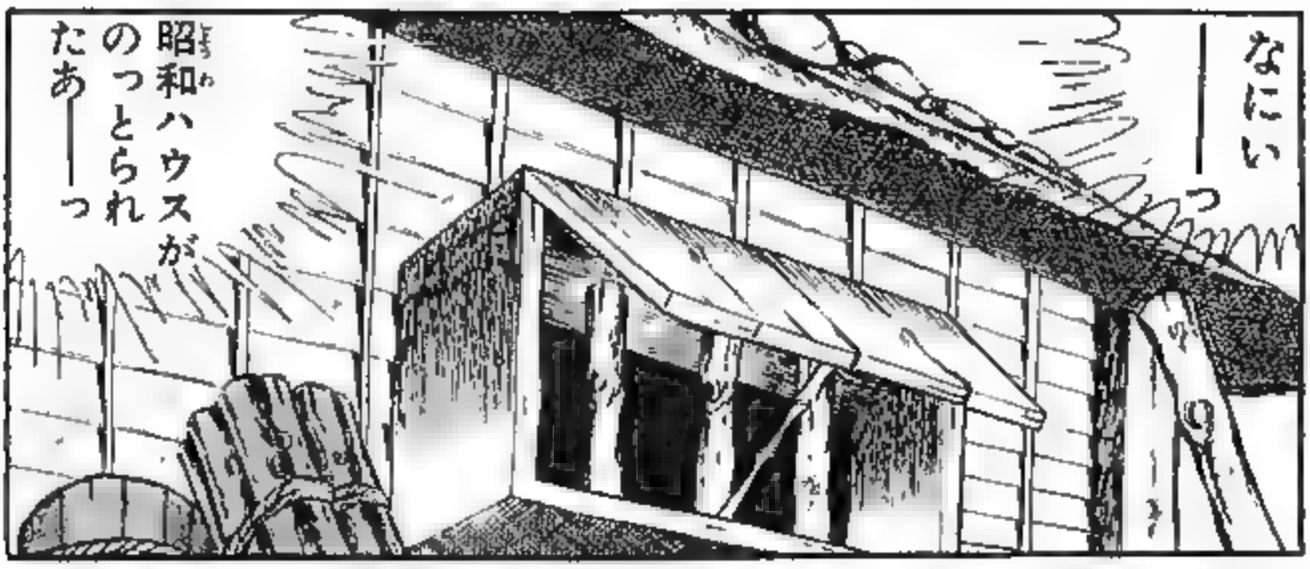
わいら……
帰りまっさ
……

わいを
なめさらす
気ィか
――っ
ぐっ
ぐわっ
!!
げっ
くそったれ共
があ～～～っ
わいを
なめてみい～～～っ

みな殺しにしたるど
じゃかましいっどちびめっ
きっ……きき
一度その木刀をすててやってみいっ
男やったらな……
うがあああ——っ

わいらは
わかったんや……
この西海へ
来てな
……
力以上に
もっと
だいじな
ことが……

わかるか……
きさまらにわかってたまるか……
綱村鉄次之墓
おれの…おれの…
くそ——っ


なにい
――っ
昭和ハウスが
のっとられ
たあ――っ

親分…
ばあさん
こんどは
本気だぜ…

やりくさり
おったな
水戸の
くそばばあ…
おんどりゃ
あ～～～

もはや
あんたに
手かげんは
せんぞ……

あの おばばの
おそろしさ……
これから まさまさと
見せつけられるかも
しれん……
わかっとる
……

わいも
以前の万吉と
ちゃうことを
思いしらせ
たる…

菊村……
われ　みんなをつれて
日本海側をまわれ……
やることは
わかっとるな
……
へい…

まかしといて
くれ
大将

わいは
東海道を行く……
松川
村田
ゴン
へい
……
へっ

おんどれら
には
この西海を
たのむで……
へっ…

ええかい……
わいらに あるのんは
金でもない
権力でもない！
明日を
めざす
若い力じゃ…

ちょっ……
ちょっと
キザかしら
……
はっはは
はは
はは
はは
……
とにかく
やったる
んじゃ
あ――っ
おお
――っ
まかし
とけえ
――っ

うわ
――っ
親分
親分
――ん
えらい
こっちゃ
――っ
じっ……
じつは……
なに
――っ
綱村の
墓が
荒らされ
とる～～っ

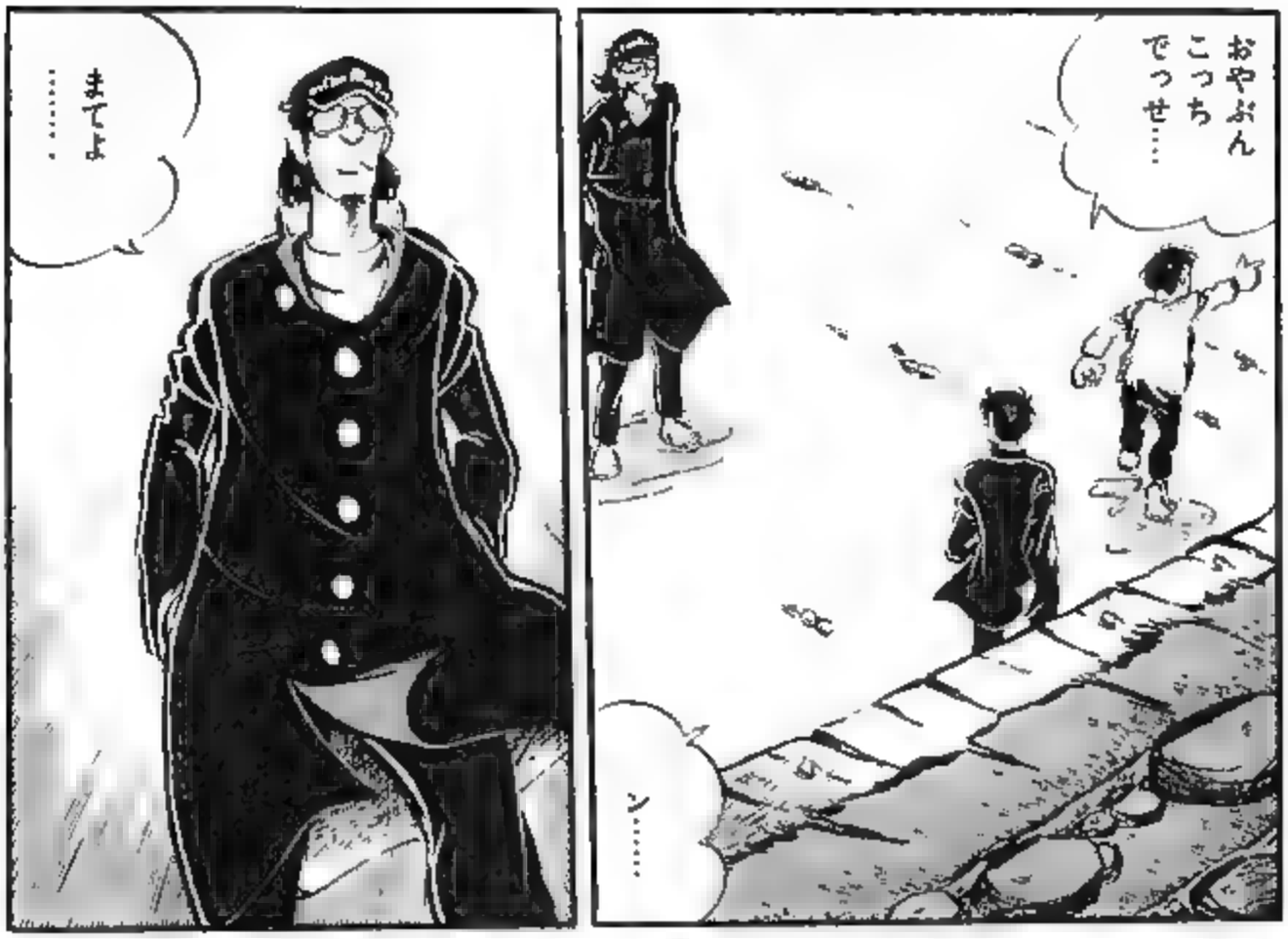
だれじゃい
——っ
だれが
やりくさった
あ——っ
そっ……
それが……
墓の前に
山崎(やまざき)がっ
あ…ああ
いたらしい
ね～～っ
やろーっ
ふざけやがっ
てえーっ
まてえ
——いっ

どこじゃ……
山崎は～～～っ…

へい……海岸にひとりで
おんどれらは来るなよっ!!

ダッ!!
あんなぁ
せえ〜!!
!!
ラバ
!!

バク進行
一家の巻


おやぶん
こっち
でっせ……
ン……
まてよ
……

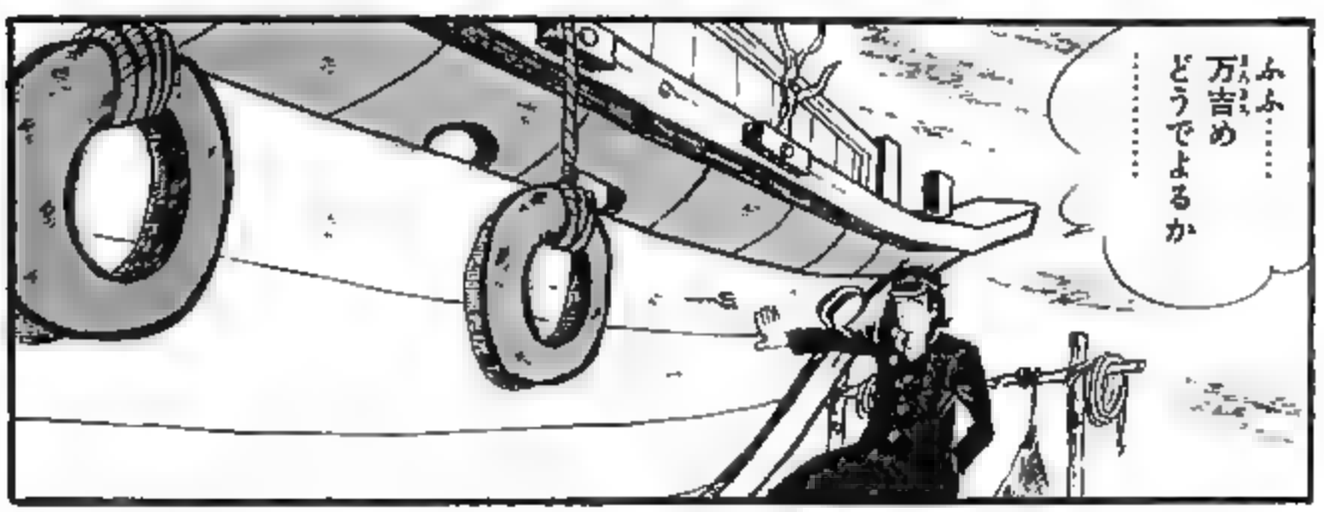
あんた あの
山崎(ヤザキ)を
どうするか
しれんが……

あんたの
でかたひとつ
で……
あの男を
だめにしち
まうぜ……
だれだ……
おんどれ……

ドクター佐々木……
その注射屋がなんの用事じゃい……
山崎という男……ありゃあ……病気だぜ……
チビだという中にもぐりこんだ……心の病気……
笑えねえ病気だ……
笑えねえ病気ほど苦しいものはないぜ……
本人にとってみればな……

帰れ
ラッパ…
ええ…

いいから帰れ…
ここは
ひとりのほうが
やりやすいんじゃ……
へっ…
へえ…


ふふ……
万吉(まんきち)め
どうでよるか
……

山崎：
きたな
万吉……
ひとりか
!!

いい度胸だ……
みてのとおりじゃい…
おれは木刀はすてねえぜ……

てめえは
体の面じゃ
おれより
数段
でけえ……
それを
おぎなうための
とうぜんの
けんりだからな……

気に
するな……

イッヤア
——
っ
はあ
——
っ

ふふ…
なにを　えんりょしている……
それで　本気にうちこんどるんけ……
かあっ!!!!

あまいぜ
まだ……
まだ……
てっ……
てめえ――っ
ふふ……
!!
あ
あ

きっ……
きさま～～～
なっ……
なんだ……
おれは
綱村の墓を
荒した男だ
ぜっ!!

おれが
にくくは
ねえのかっ
おれを
なぐりとばし
たくねえのか
よ――っ

死んだ人間より
いま 懸命に
生きようと
している人間のほうが
だいじだ……

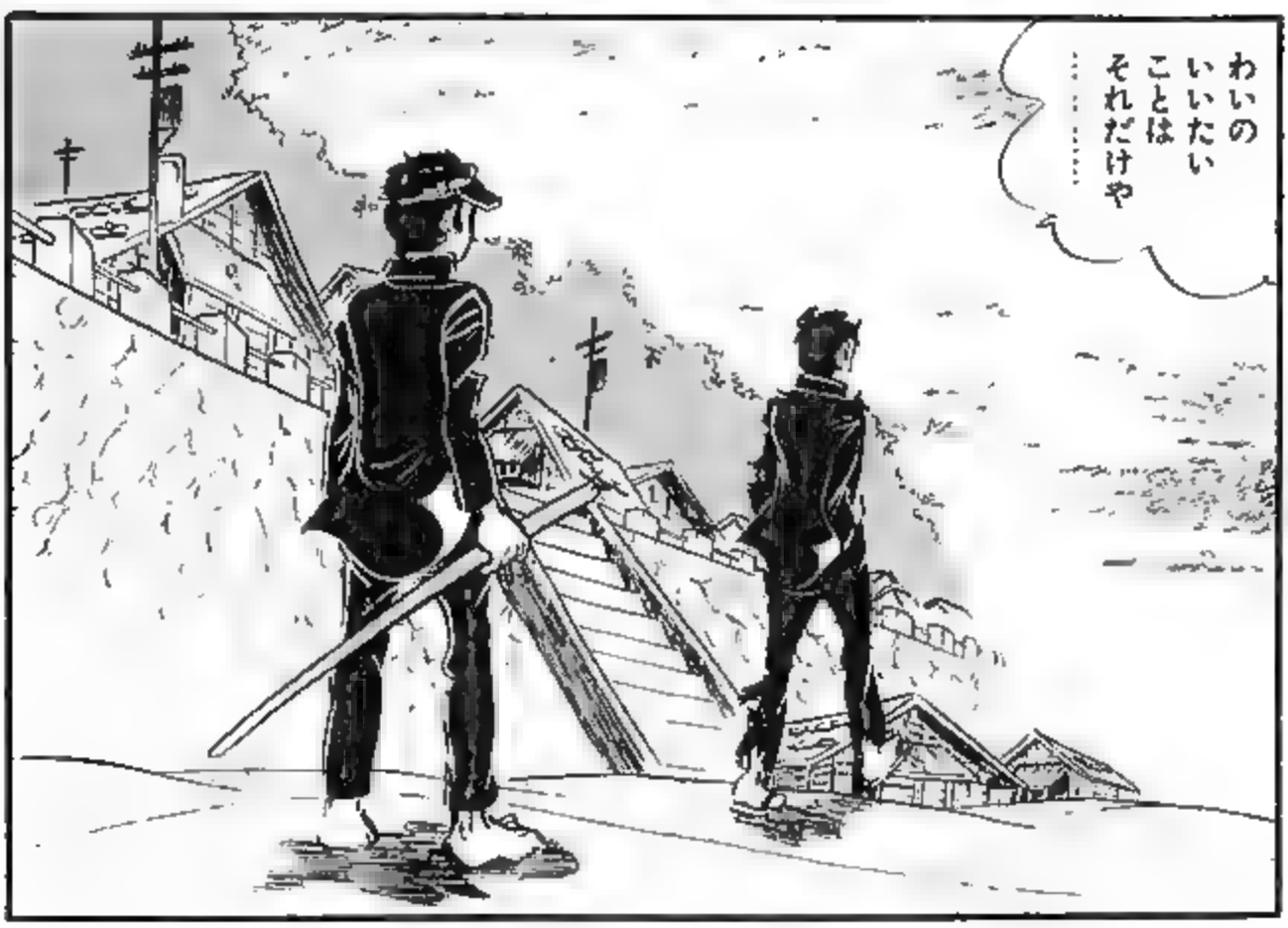
なっ……
なにい～～～～っ
死んだ人間は
思い出にすぎん……

それを
なげき　かなしむ
のは……
その人間の
かってよ……
他人に
そのかなしさを
いちいち
なすりつける
必要はない……

生きのこった
人間は
現実がある……
現実に
生きていかねば
ならんのだ……
人間ちゅうのんは
生きてこそ
価値が
あるもんじゃ……
生きてる人間の
ほうが　だいじ
なんじゃい……

どんな人間も
生きとることで
おなじなんや
……
いっしょ
なんじゃい…

体がでっかいも
ちっちゃいも
頭がいいも
悪いも……
そんなもん
関係あれへん
……


わいの
いいたい
ことは
それだけや
……

ええ
かあ——っ

これからが
万吉一家の
正念場
じゃ
西海のるすは
おんどれらに
たのむでえーっ

おお
——っ
まかし
といてくれ
大将

菊村……
たのんだでえ——っ
日本海側を……
へい……
わかっとり
ます
万吉一家の
とおったあとは
ペンペン草
一本　はやら
かすな……

綱村…
綱村鉄次の墓
見ていてくれ……
これからわいのやる大げんかを……
おまえの死はけしてむだにせん……
かならず日本一の人間になってみせる……
それがおまえに対するわいのつぐないじゃい……

行って
くるでえ
……
万吉さん
……
なんや
注射屋や
ないけ……
へっ……
この男
病気を　なおし
たいとよ……
笑いてえ
そうだ……

万吉さん……
おっ…おれも
おれも広い世界へひっぱりだしてくれ……
つれてってくれ親分…
おれみてえになにもない人間でもきっとなにか役に立つ……
山崎…
お…親分…
おれは……

消えるとするか……
まてよ……
何をしようちゅうんじゃおんどれは
ふふ……気にするなって……
そのうちわかる……
だがひとつだけいっておくぜ……
あんたがこの世に存在するように
あんた以上の人間もこの世にいることを忘れんことだな
ふふ……
何者ですかありゃあ……
ン……

へっへっへ……
へっ
ヘルス
島田!!
へっへっへ
ひさしぶりだぜ……
ごぶさたしてます…
三日ほど前でさあ…
いつでてきたんや……
そうか…
で……どうや
その後 特少のようすは……
へっへっへ……
あんさんのおかげで まるっきり天国にかわっちまったぜ……

ところで
万吉さん
いよいよ
動くらしいな
……
ああ
……
やったる
でよ……
およばず
ながら
おれたちも
力をかすぜ……

やはり
きみしそう
でしたな……
ぶじに
たったか
あゆみは
……
はっ……
ムウ
まあ…
しかた
あるまい…

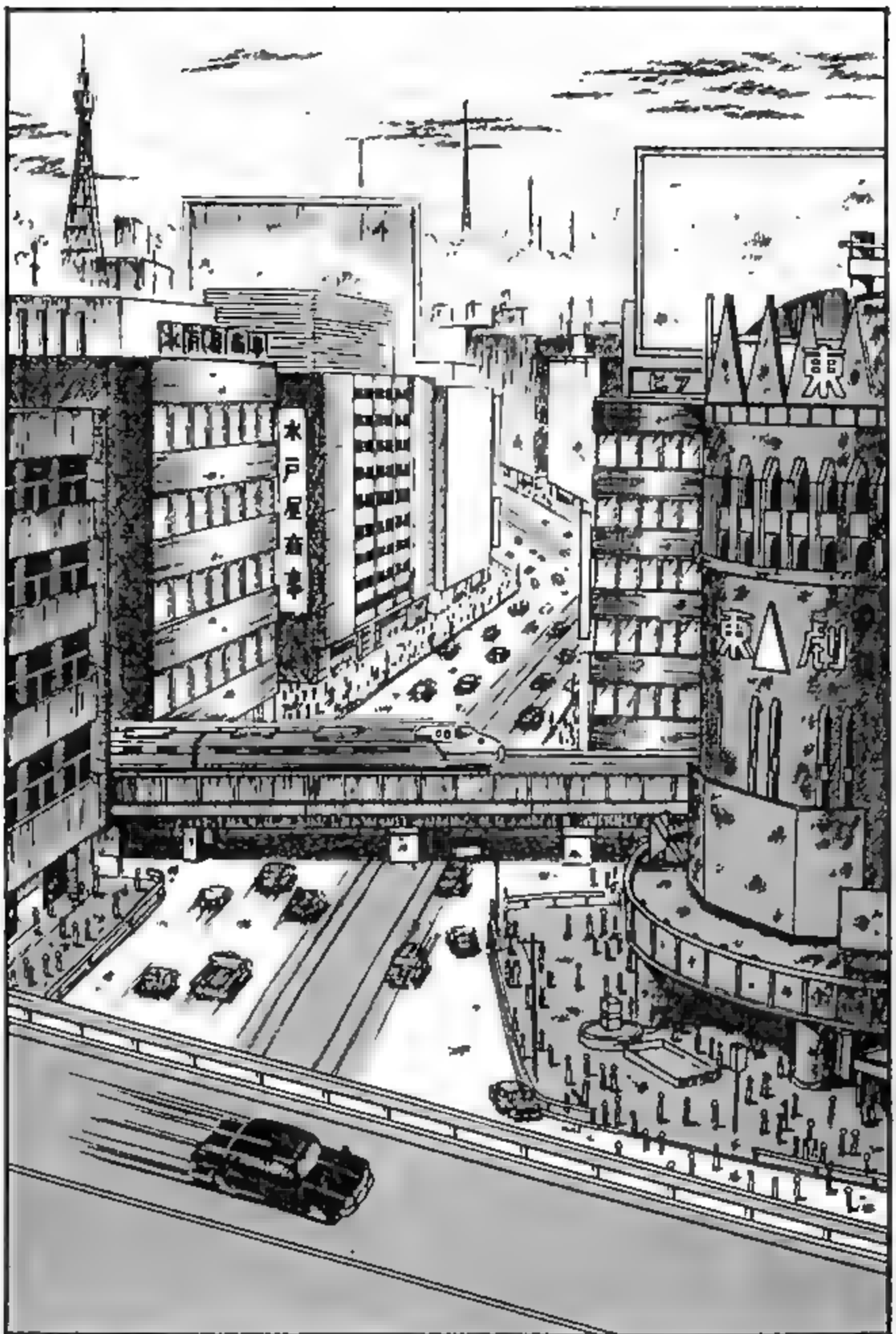
ところで
万吉(まんきち)め
いよいよ
東京(とうきょう)めざして
のぼって
くるよう
だの……
はっ……

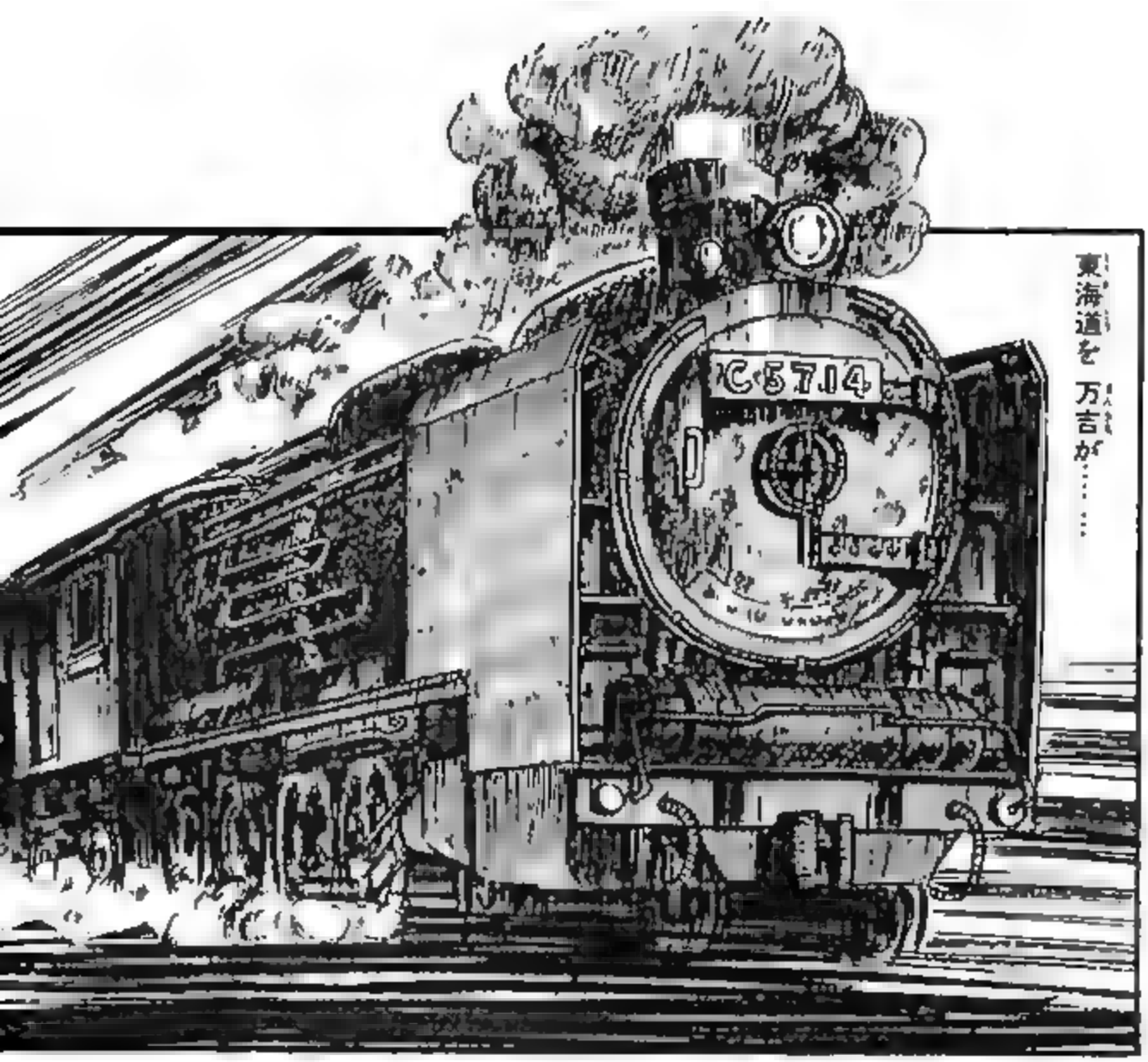
ふた手に
わかれまして
……
日本海(にほんかい)側(がわ)と
東海道(とうかいどう)を……
おそらく
その途中で…
仲間を
ふやしていく
ようすです
……

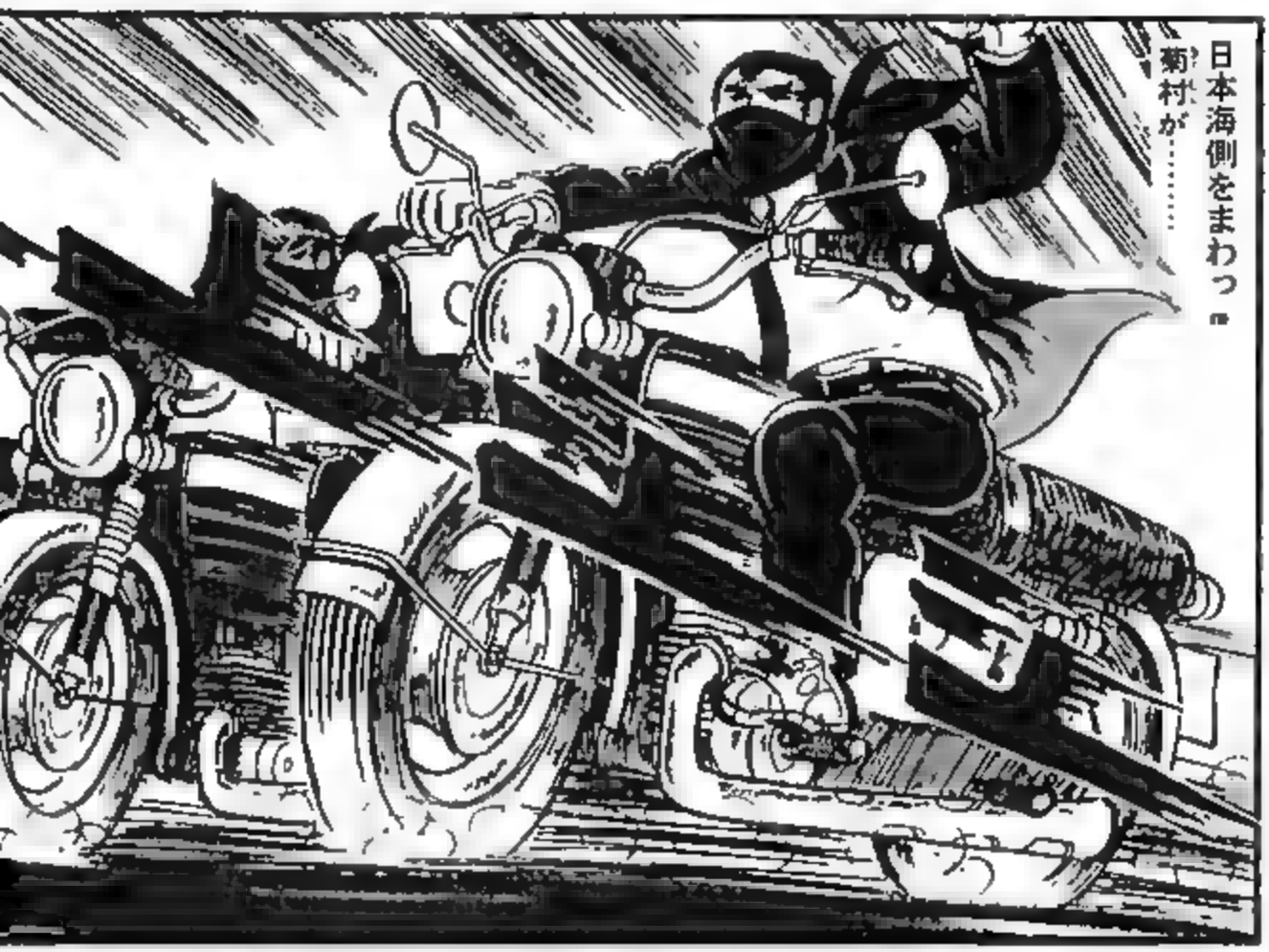
ふふ……
しゃらくさい 万吉(まんきち)め……

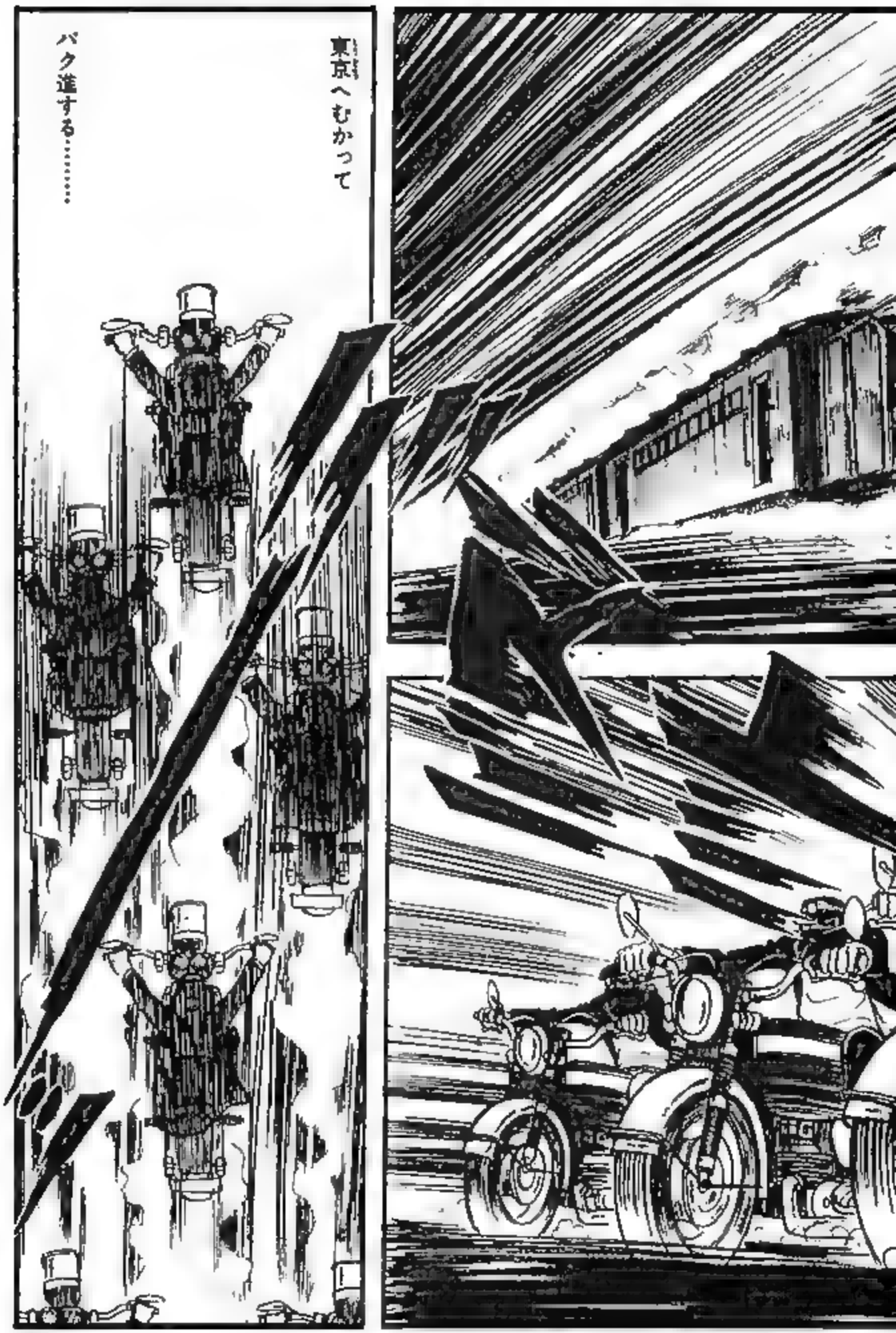
ガキが どのくらい 集まろうと なにも できはせん……
この おばばの底力(そこぢから) 思うぞんぶん 見せてくれようぞ

うわあっ
ははは
ふあっは
ははは


水戸屋商事
東


C-5714
東海道を 万吉が……


日本海側をまわっ
菊村が……


東京へむかって
バク進する……

来たーっ
来やがったぜ——っ

万吉一家がきましたぜ——っ

しゃらくせえ——っ

大将…
この紀州にも万吉が……
しゃらくせえ——いっ

うわ——っ
きたあ——っ

金沢の
菊村の巻

ざこどもが
あつまり
くさって
まっせ……
行ってこい
山崎(やまざき)……
銀次(ぎんじ)!!

ここは
おんどれらに
まかす……

けちらして
こいっ
おお
——っ

うりゃあ
——っ
てめえ
らあ
——っ

わわ
――っ
うひゃ
――っ
万吉一家にさからおうなんざ
ちゃんちゃらおかしいぜえーっ
うりゃああ――っ
おんどら
――っ

うぎゃ
――っ
助けて
ひゃあ
あ――っ
ばっか
やろう
にげる
なーっ

ふふ……

やったるんじゃ……
これからわいはせめてせめてせめまくったる…

人に　悪党と
思われようと
なんと思われ
ようと……

やりだした以上
前に進む以外
ないんじゃ

そして
わいの　せめの
第一歩は……

日本全国の
はんぱ共を
まとめあげたる
ことじゃ……

ケッ
――っ
まったく
話にならねえ
ぜ あいつら……
ふっふふ……
どうや
あの中に 男は
おったか……
じょうだん
じゃねえ
親分……
カスばかり
だ……
紀州も
ひととおり
まわったし
次へ行くか
……

まちない
万吉さん
……

また でたな 注射屋……
ふっふふ……

このまま この紀州を とおりすぎると……
あとで 後悔するぜ……

なにい〜〜っ

あんた以上の 人間が いるって ことだよ…
この紀州の 山奥に…

なっ…… なんだ この野郎
ばかなこと いうんじゃねえ… この日本に 親分以上の 人間がいてたまるかっ

こういう人間と いっしょじゃ 成長が ねえな 万吉さん
ふっふふ……

なっ
なんだと
てめえ
——っ
もう一度
ぬかして
みやがれっ!!
あんたは
まだ若い
……
こんな
カラッポ
じゃなく……
じぶんより
上の人間を
みることだ…
まだ
ぬかしやが
るかっ!!
なっ
なんだ
てめえ…

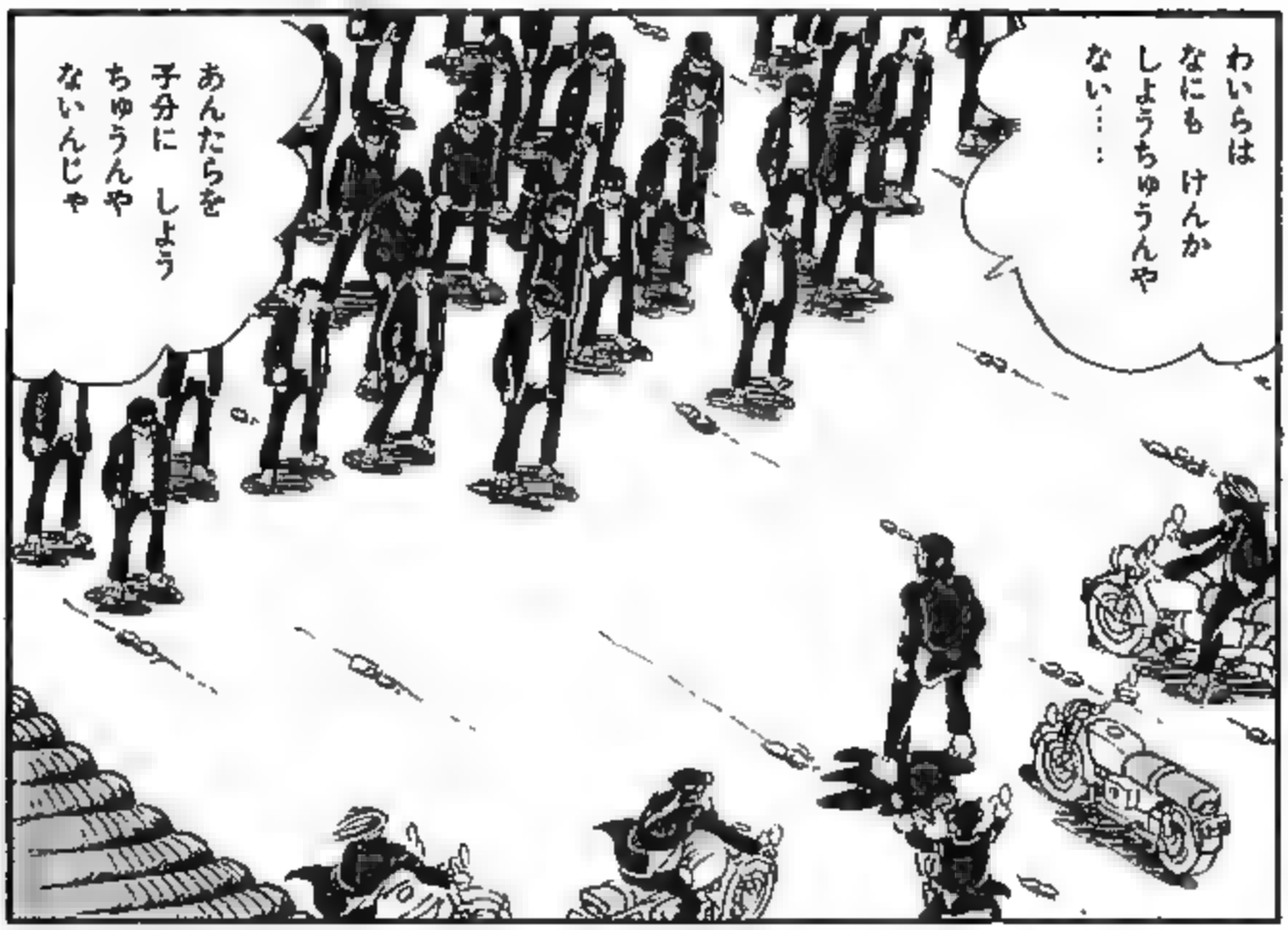
からっきしじゃねえか……
ふふ……
なぐったところで…
相手に あたえる打撃は痛さだけだ…
な……
万吉さん……
その人は人間ぎらいでな…
あいに行くとしたらひとりで 行くことだね……
名前は先生でとおっている
はっきりいう……
あんた以上の人間だ!!

なっ……
何者ですかい
あのガキ……
ふっふふ
ふふ……
あんた以上の人間だ…

おんどれら
先に
行っとれ…
へえっ
〜〜っ
あったろう
やないけっ
わい以上の人間
ちゅうのにな

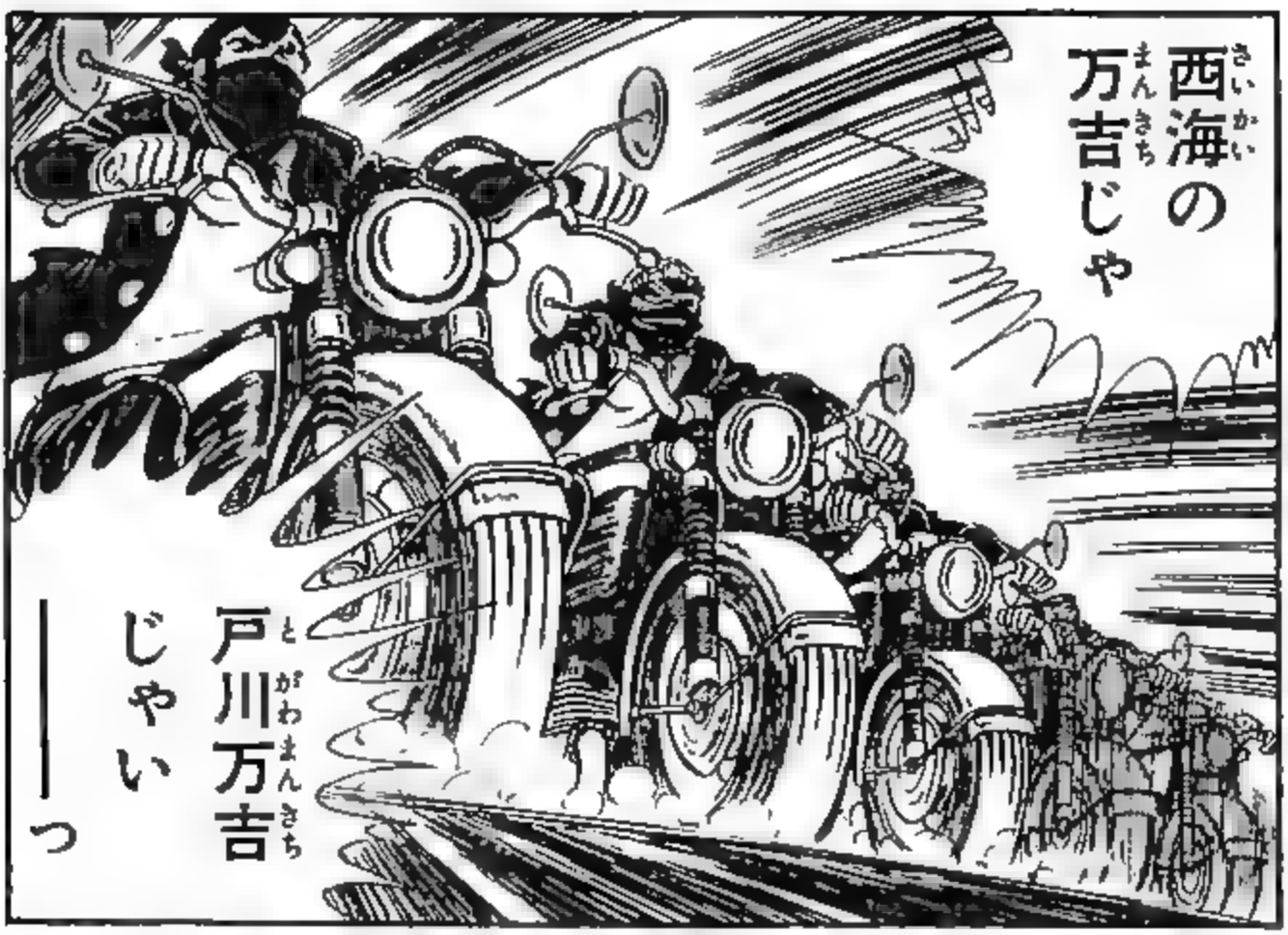
西海
万吉一家
万吉一家
じゃあ
――っ

54-11
7.0-01

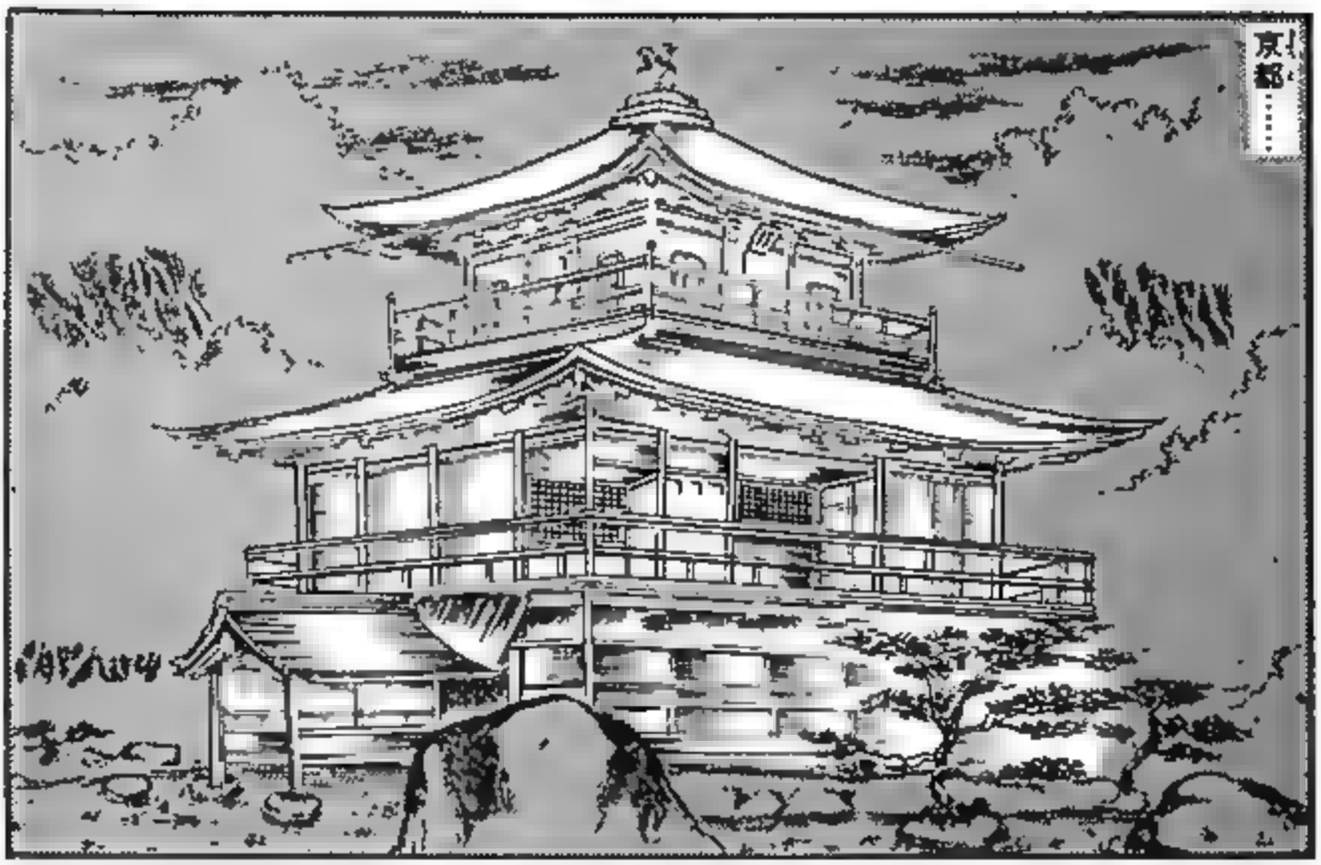

わいらは
なにも けんか
しようちゅうんや
ない……
あんたらを
子分に しよう
ちゅうんや
ないんじゃ

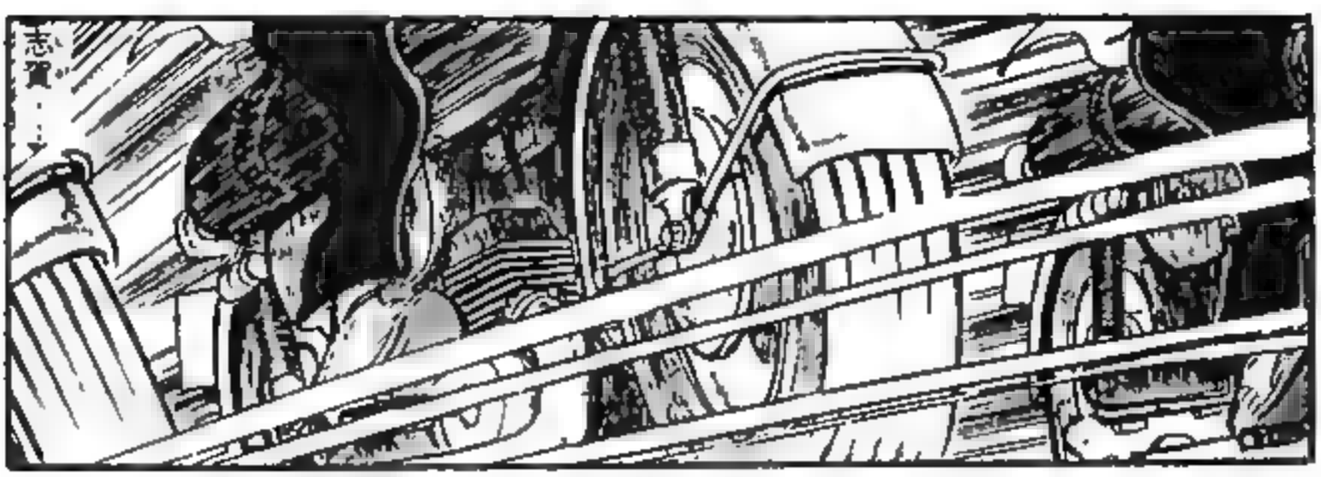
友だちとして
これから
協力しあおう
いうとるんじゃ
……
ガキ共でも
あつまりゃ
何かできる…

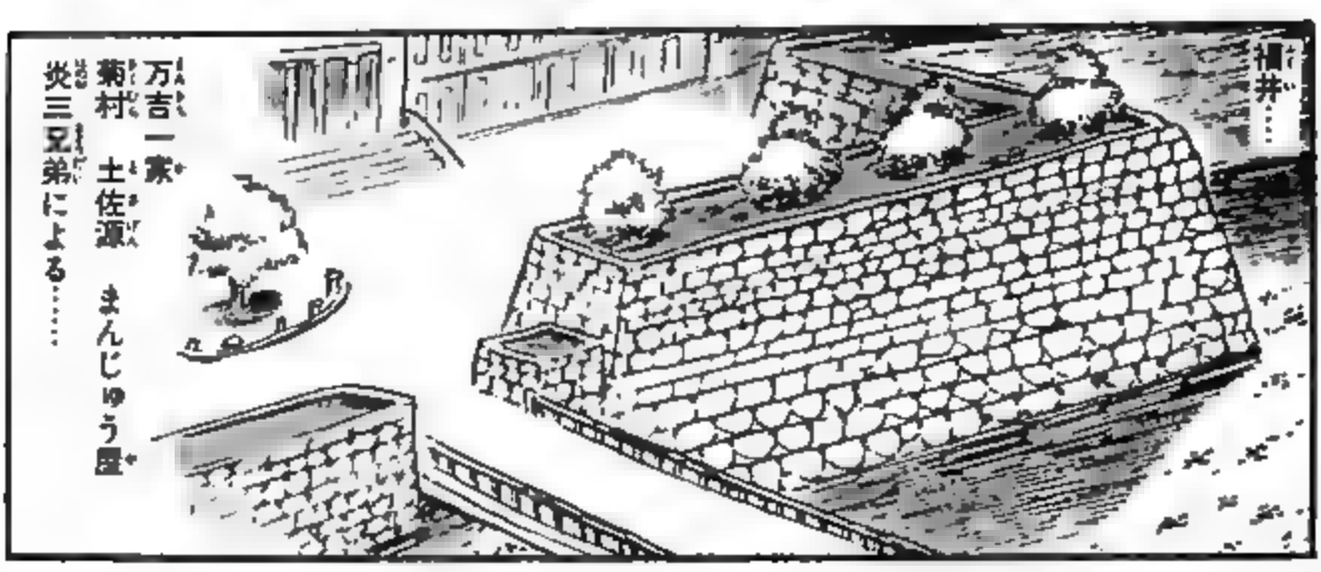
それを
いっしょに
やったろう
やんけ……

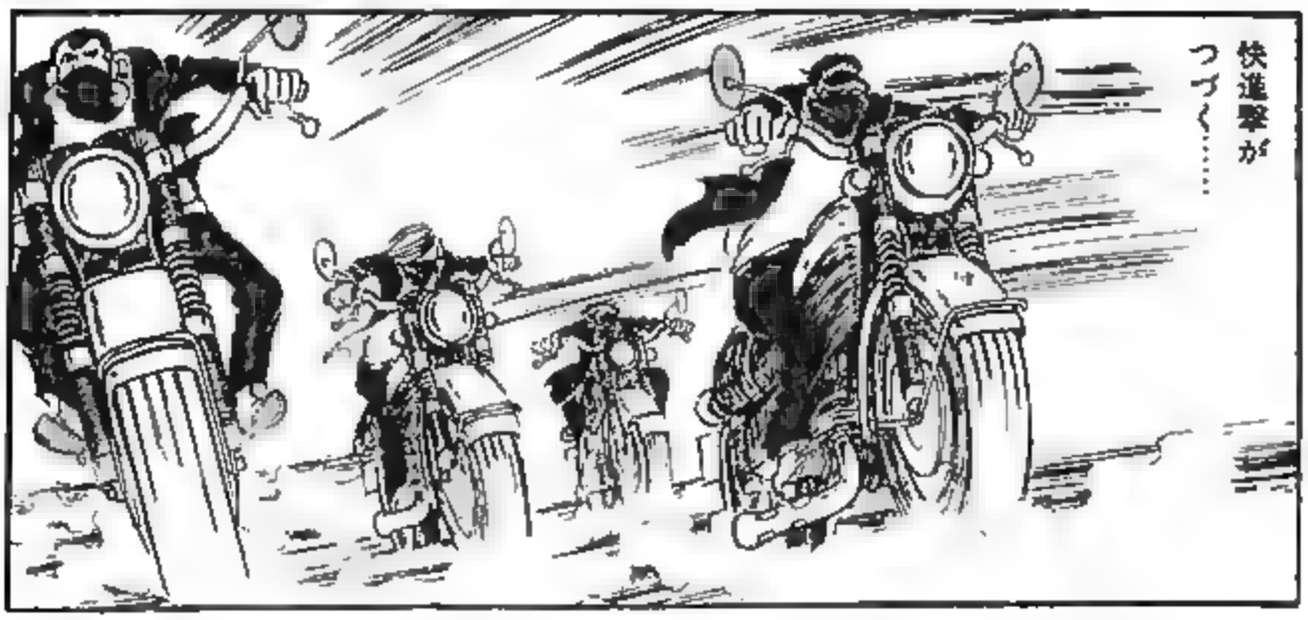

西海の
万吉じゃ
戸川万吉
じゃい
――っ

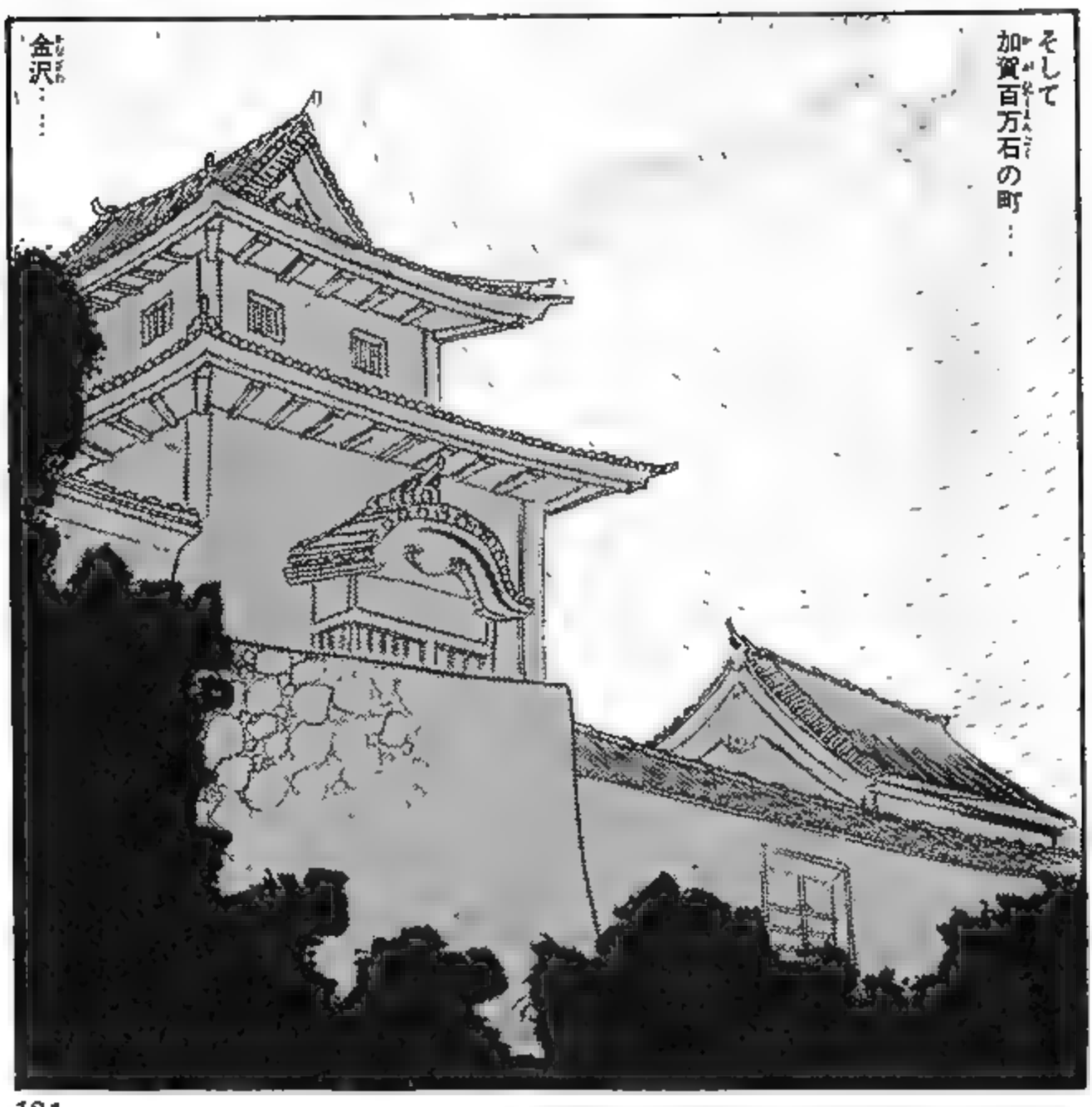
げっ
わからんかい
あほんだれ
――っ
むだなことは
やめて
わいらに
味方
さらせえ
――っ
ケガするだけ
そんじゃど
おんどれ
らーっ

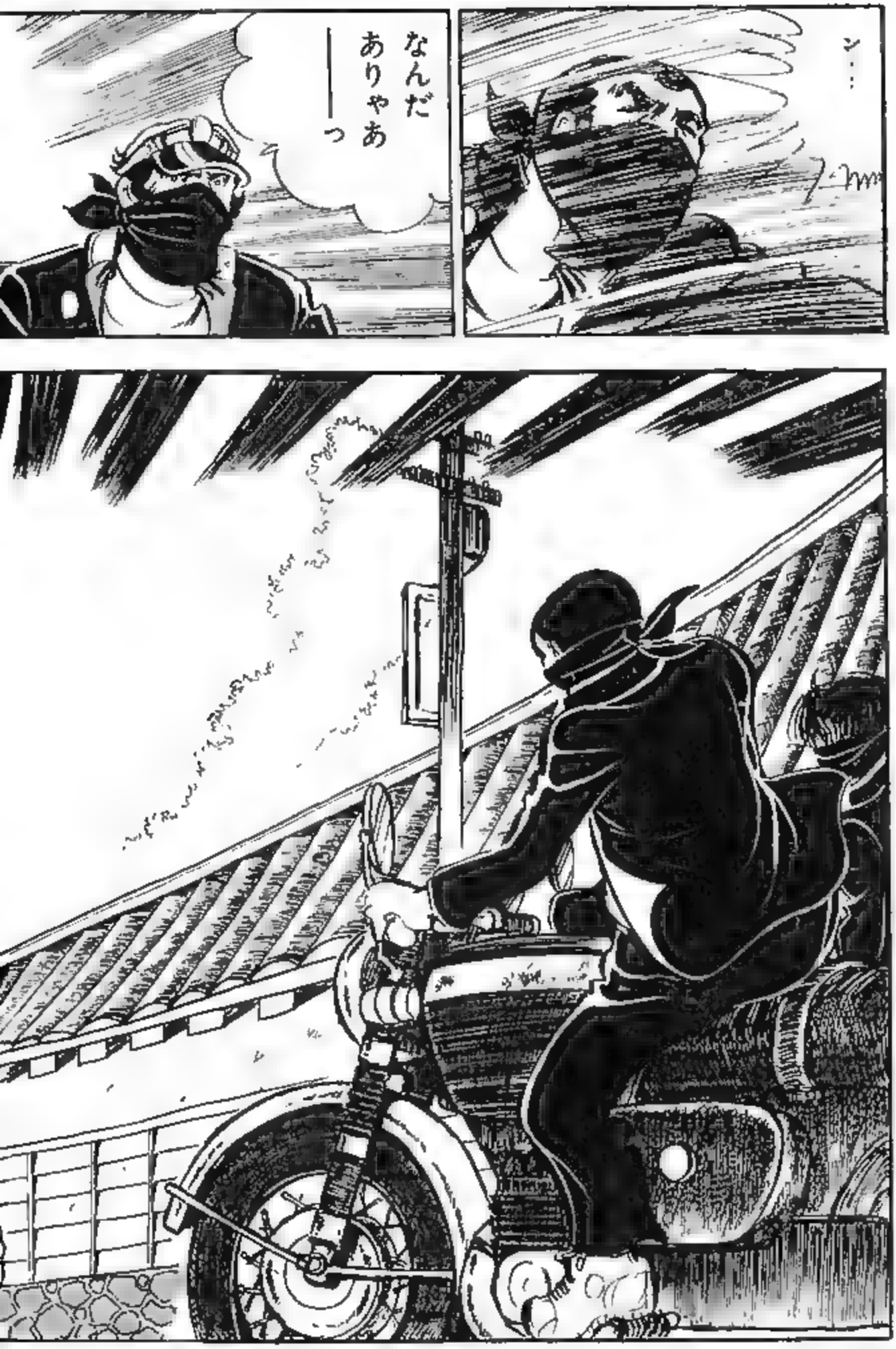

京都……


志賀……


福井……
万吉一家
菊村 土佐源 まんじゅう屋
炎三兄弟による……

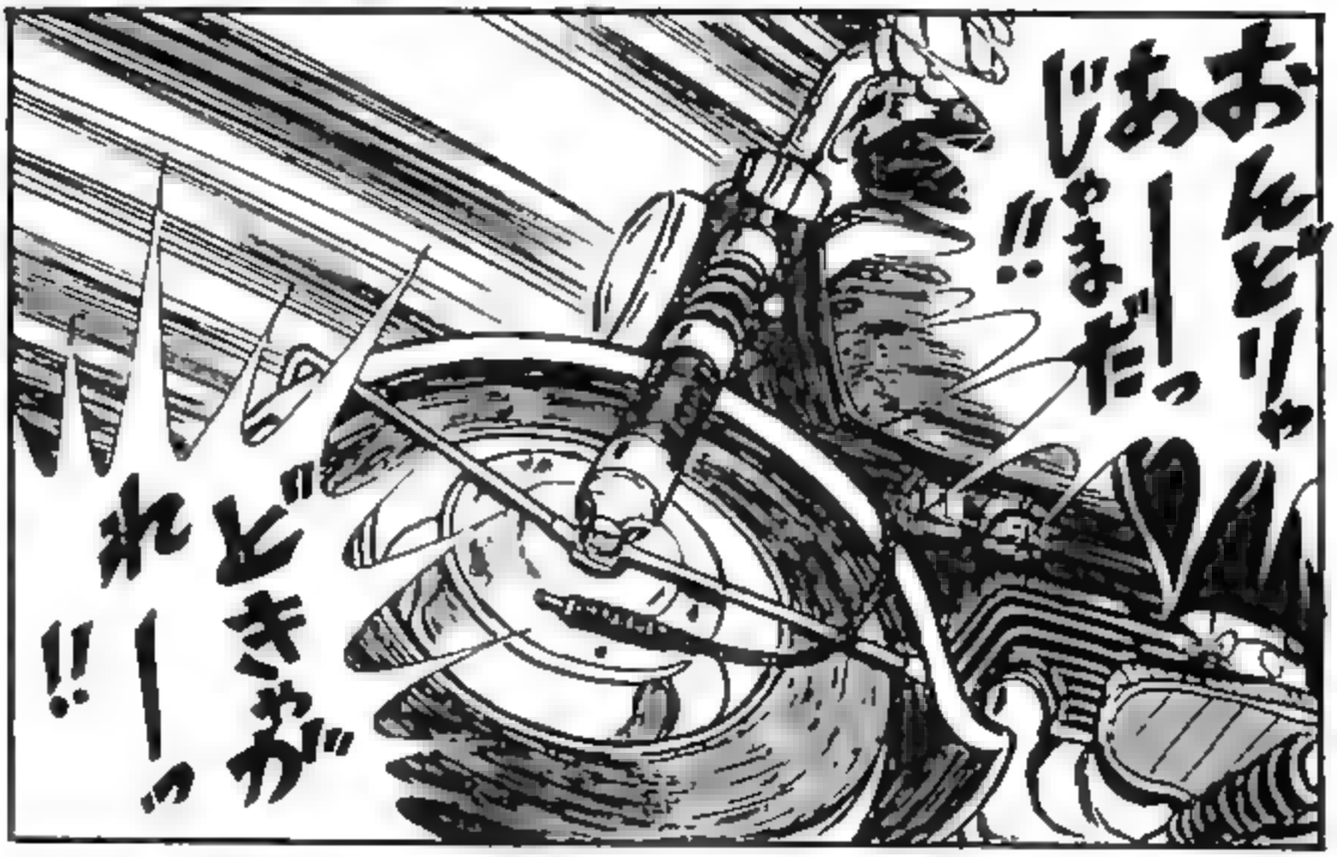

快進撃が
つづく……

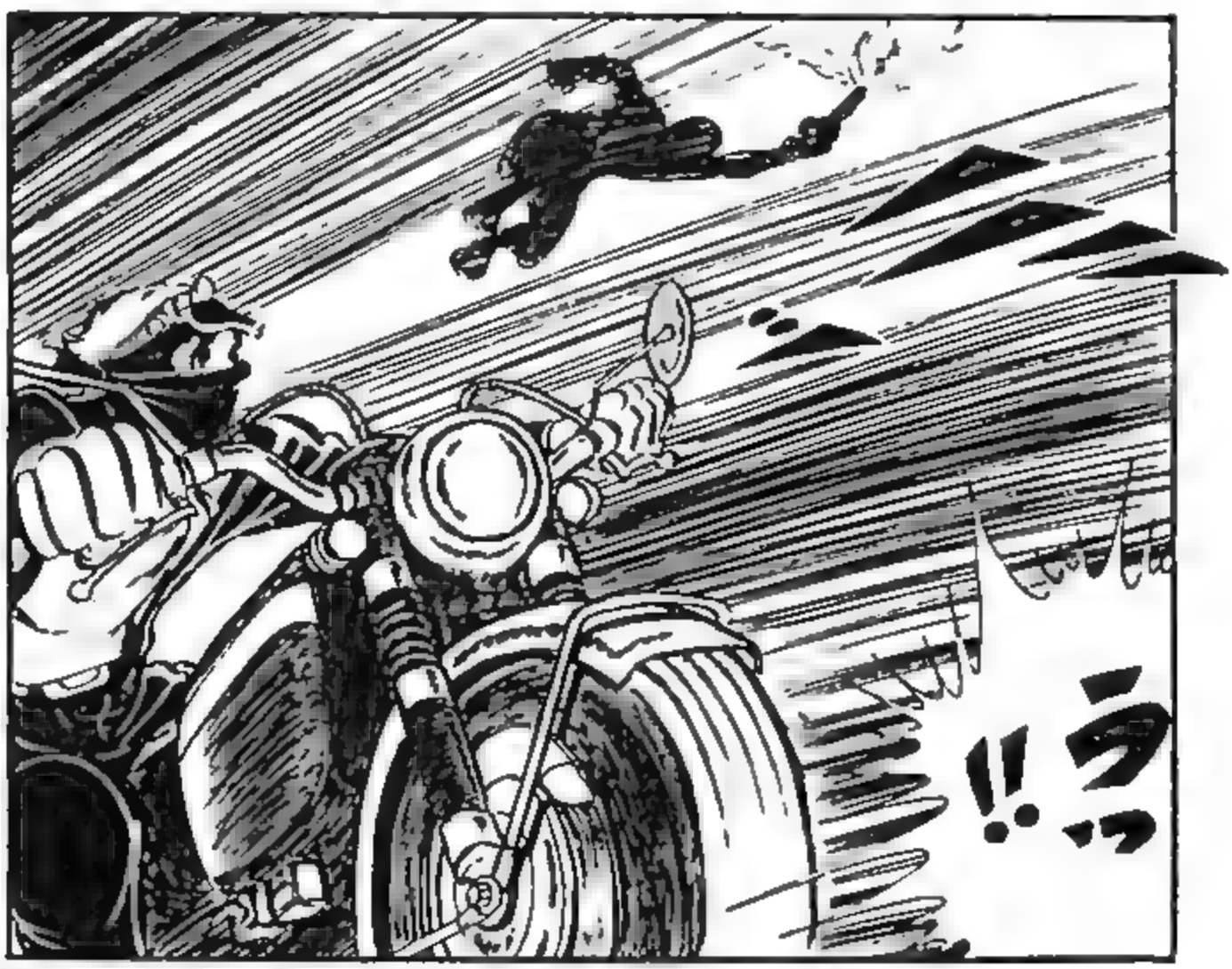

そして
加賀百万石の町……
金沢……


ン……
なんだ
ありゃあ
――っ

でたな……

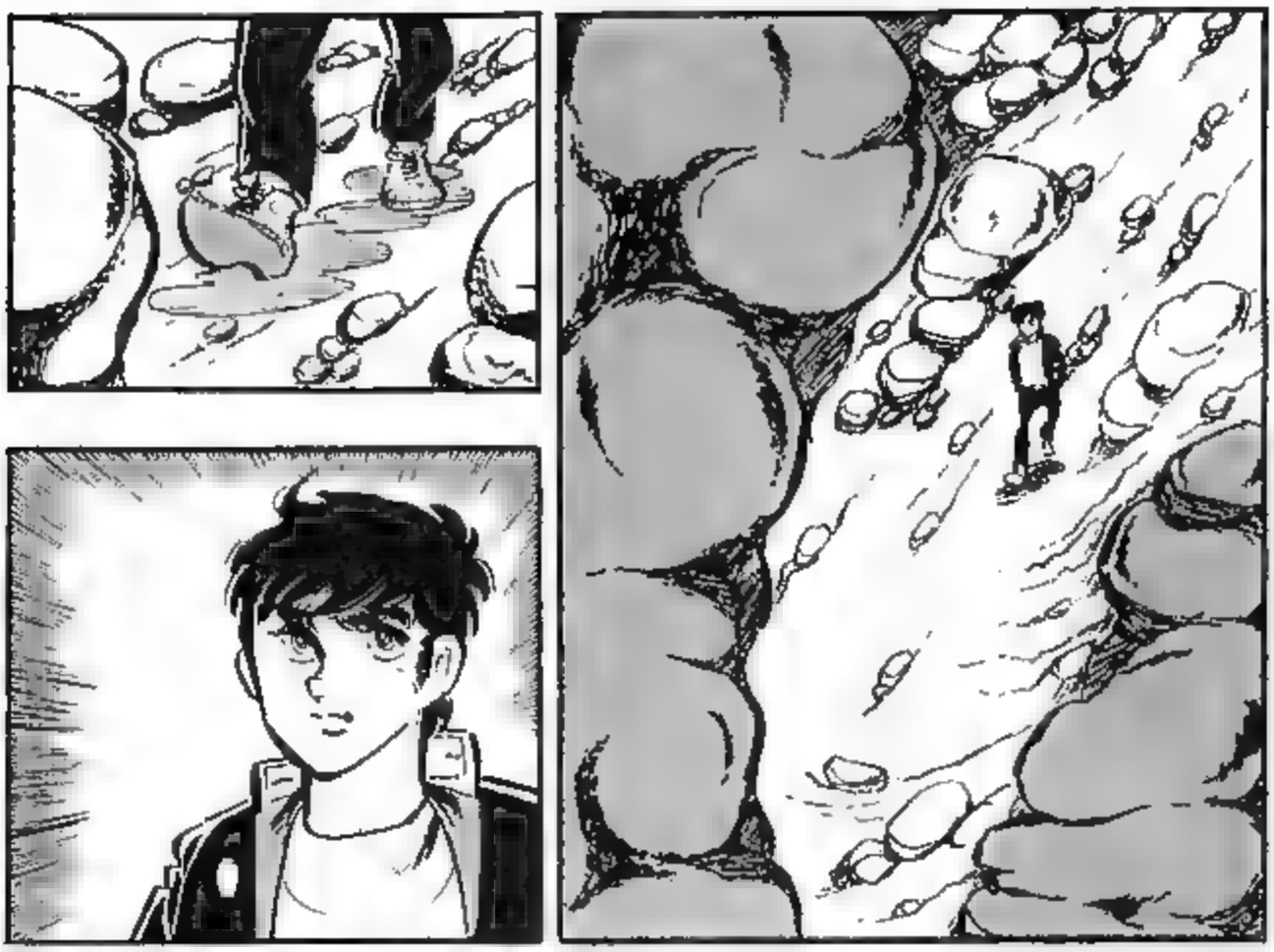
じゃまくせえ
――っ
どかしてこい
源……
おう
――っ


おんどりゃあ！
じゃまだっ!!
どきやがれ！っ!!

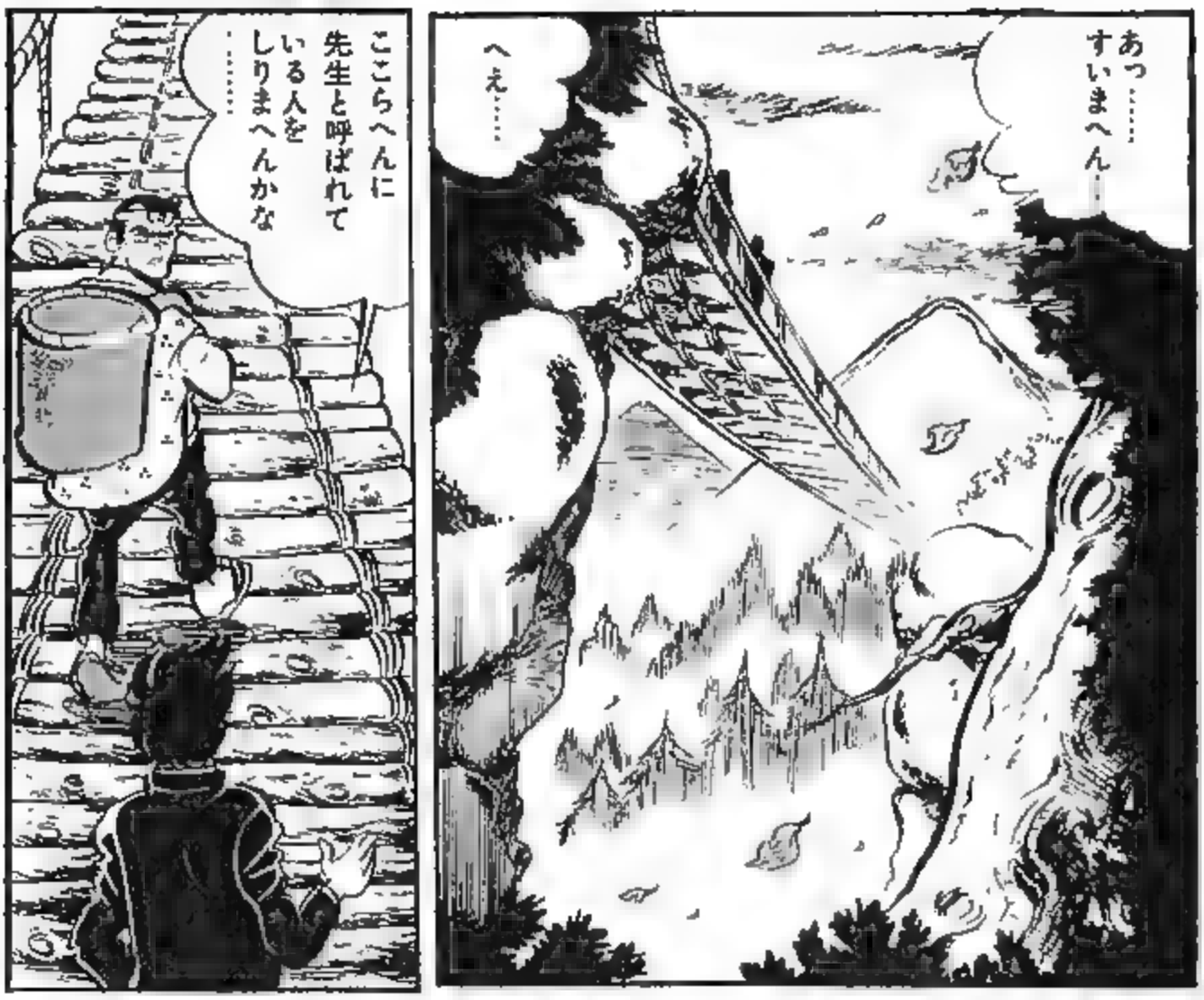

うっ!!

57-11
源!!

ふふ……
おうっ!!
っわ
お礼の名は
神島虎八!!

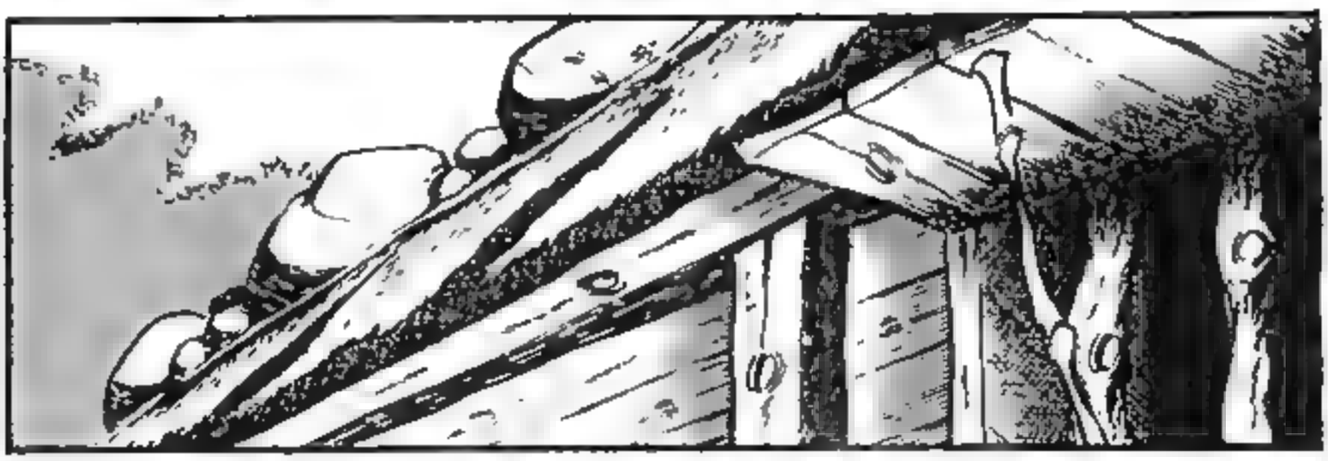


あんた
以上の人間だ……
ふっふ
……
くそ～～～っ
くそったれ
が～～～～っ

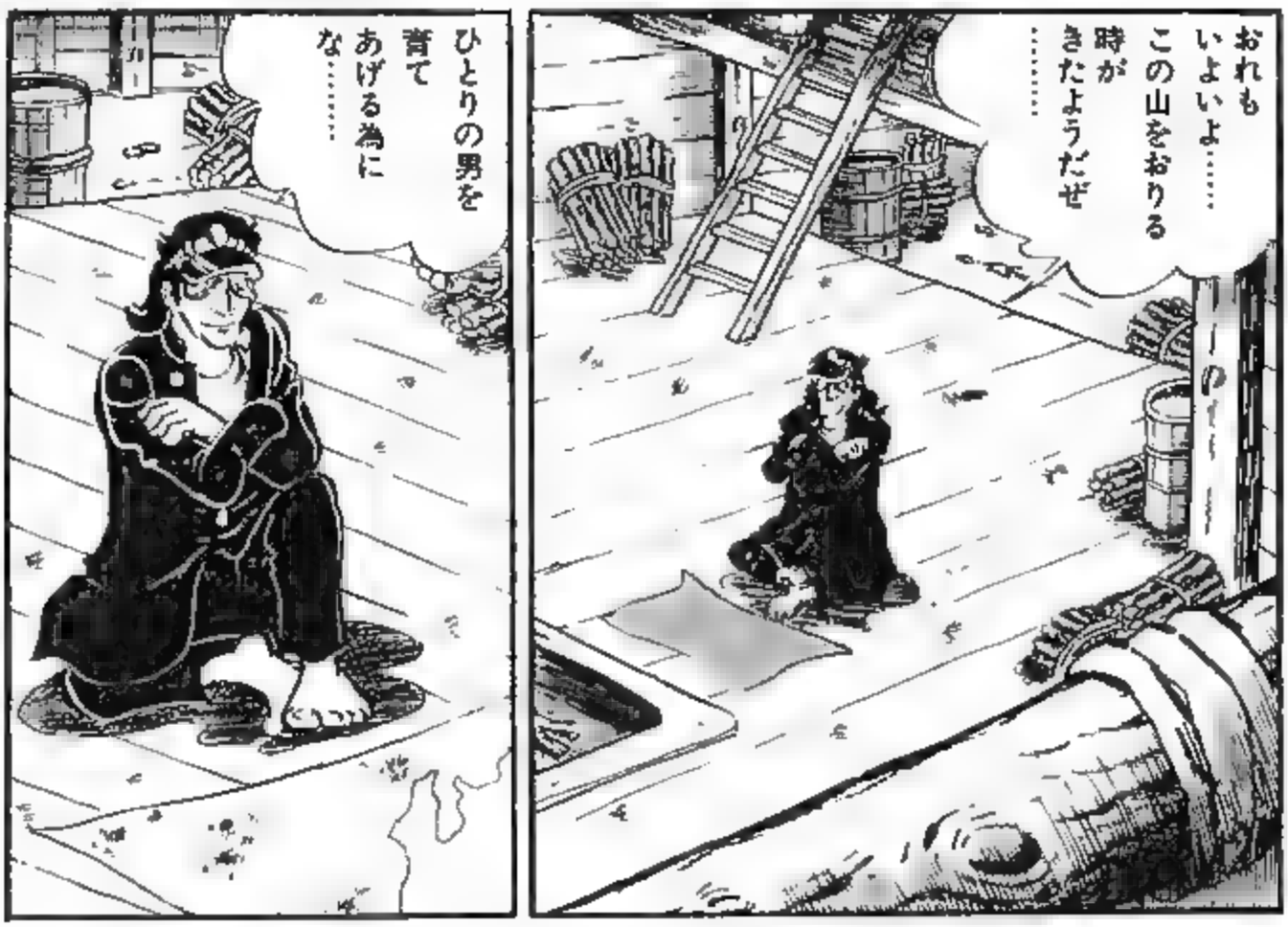

あっ……
すいまへん…
へえ……
ここらへんに
先生と呼ばれて
いる人を
しりまへんかな
……

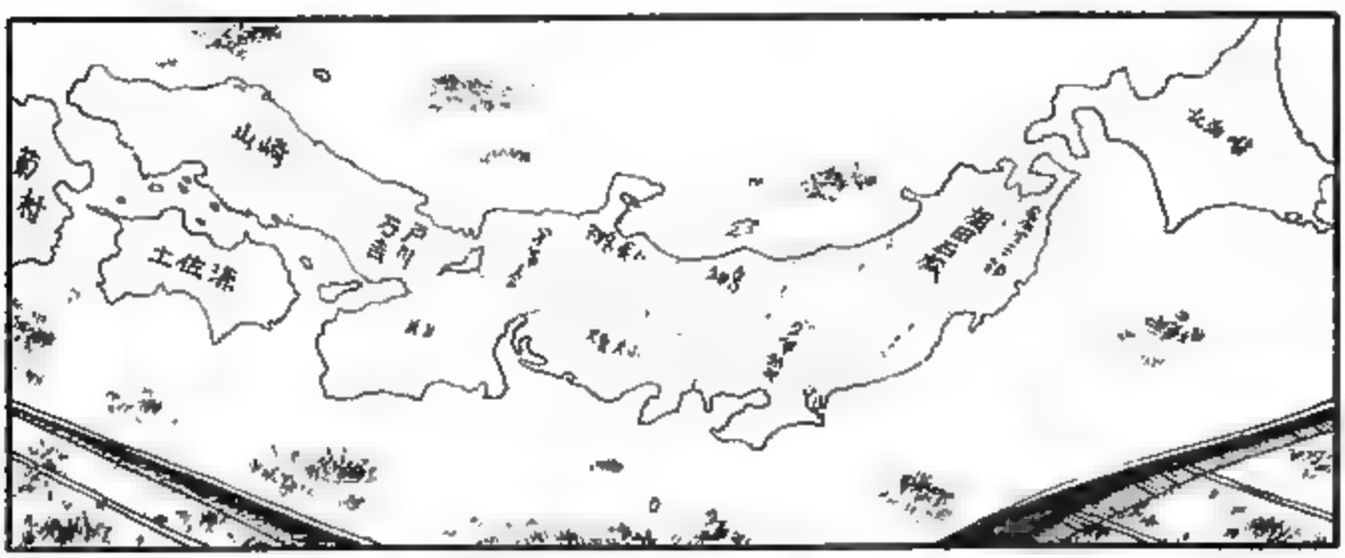
あんた……
先生に
あいに
いくのかね……

紀伊山中
放浪の巻



ふっふ
ふふ……


おれもいよいよ……この山をおりる時がきたようだぜ……
ひとりの男を育てあげる為にな……


菊村
山崎
土佐湾
紀伊半島

ふふ……

西が
戸川万吉
……
そして
東が
この男
……
堀田石松
堀田石松
いい
つりあいだ
……
ふっふふ…

あんた……
先生にあいに行く気かね……

ふ～……
なんや なんや……

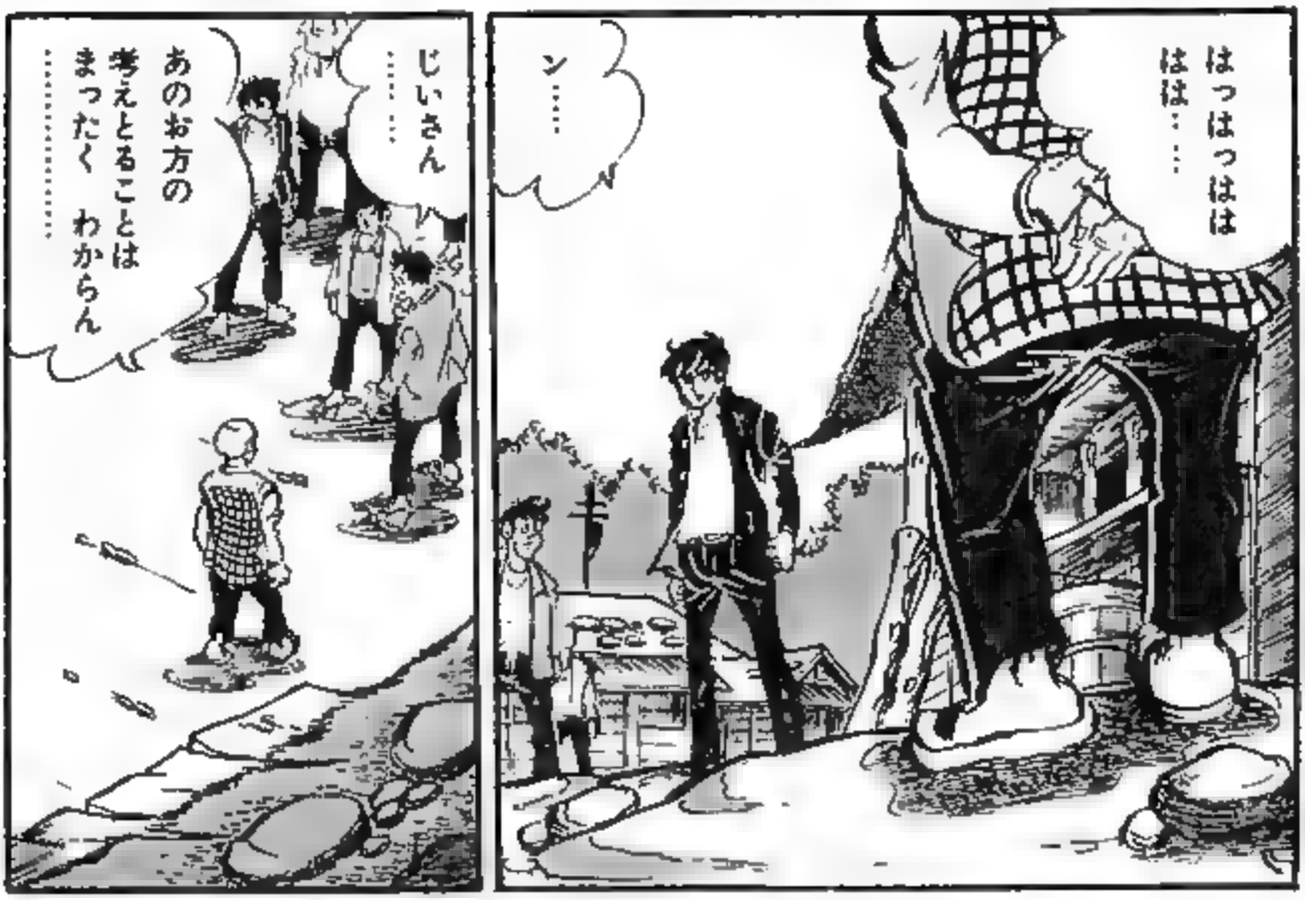
じろじろと……
ン…
するとあんたが…
戸川万吉さんかのう……
な……

なっ
なにい
～～～…
なぜ…
わいの
名を…
なぜって
……
先生の
主人に
なるん
やろう…
はあ～～
ん……
主人……
戸川万吉(とがわまんきち)という
おれの主人がくるから
途中まで
むかえに　行って
くれと……
たのまれたんや
わし
しかし
あんたがねえ
……
先生も　いったい
何を　考えとん
のやろ……
まっ…
こっちです
案内します
わいのう…

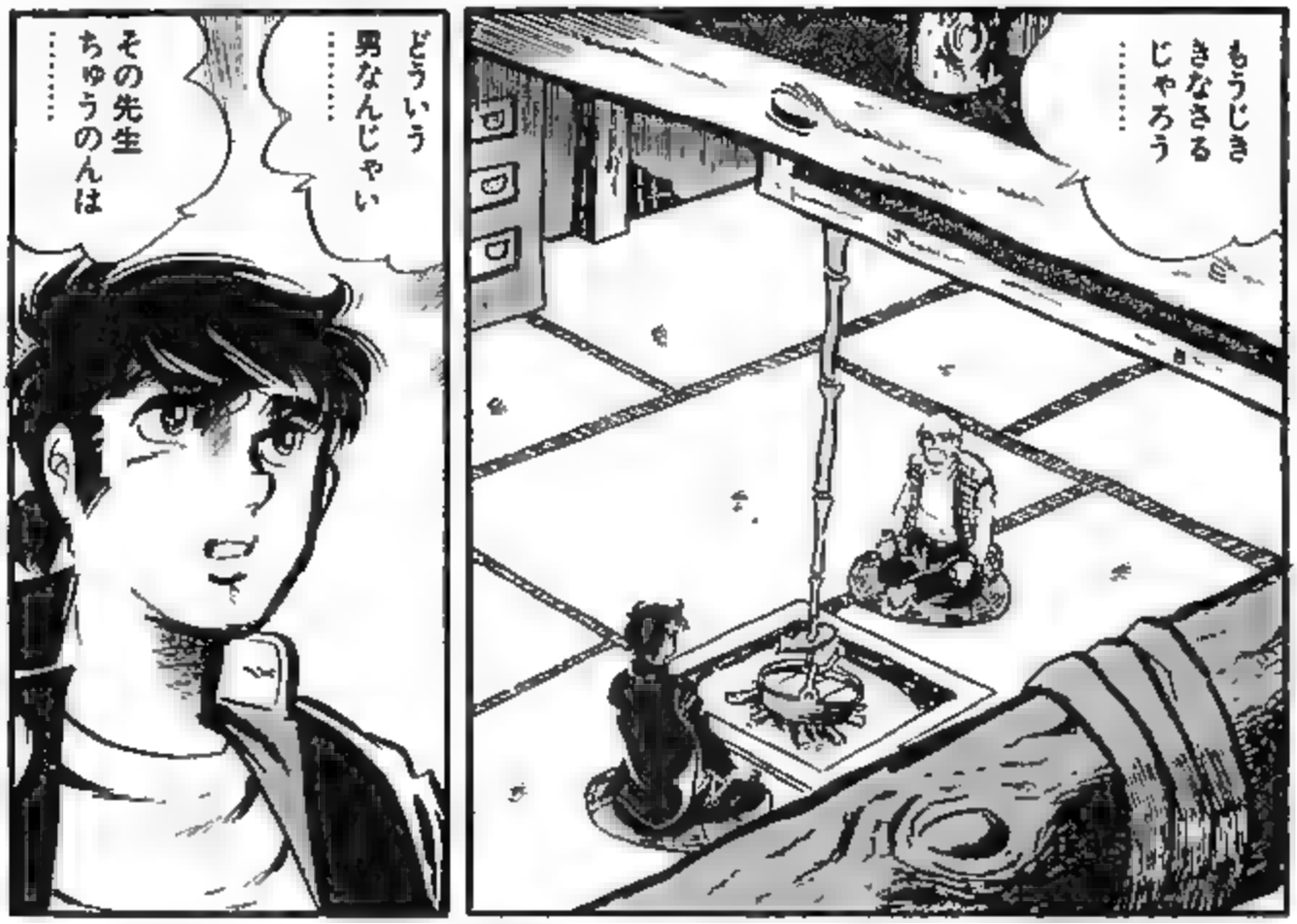
おい
先生は
どこへ
行ったか
のう…
なんや
……

客人じゃ
……
ほれ……
例の戸川万吉
さんじゃよ
……

ほう～～～
この方が
そうかい
……
あの先生の
主人ねえ
……
なっ……
なんや……
どないなっとんのじゃい
いったい……
……


はっはっはは
はは……
ン……
じいさん
……
あのお方の
考えとることは
まったく わからん
……

こっちだ
万吉(まんきち)さん
……


もうじき きなさる じゃろう……
どういう 男なんじゃい……
その先生 ちゅうのんは……

この寒村が 生んだ たったひとつの 自慢……
大天才 じゃよ……

な…
五つで 読み書きを おぼえ 十五歳で 大学を 卒業し
わずか 十六歳にして 医学博士号を とられた……

なぬ——っ
だが…どうしたわけか……
いきなり大学の研究室をやめて この村へまた帰ってこられたんじゃ……
しばらくこの村でわしらを診察しながらのんびりとしておられたんじゃが……
なにをおもったのか……
よけいなことはいうなじい……
うっ!!

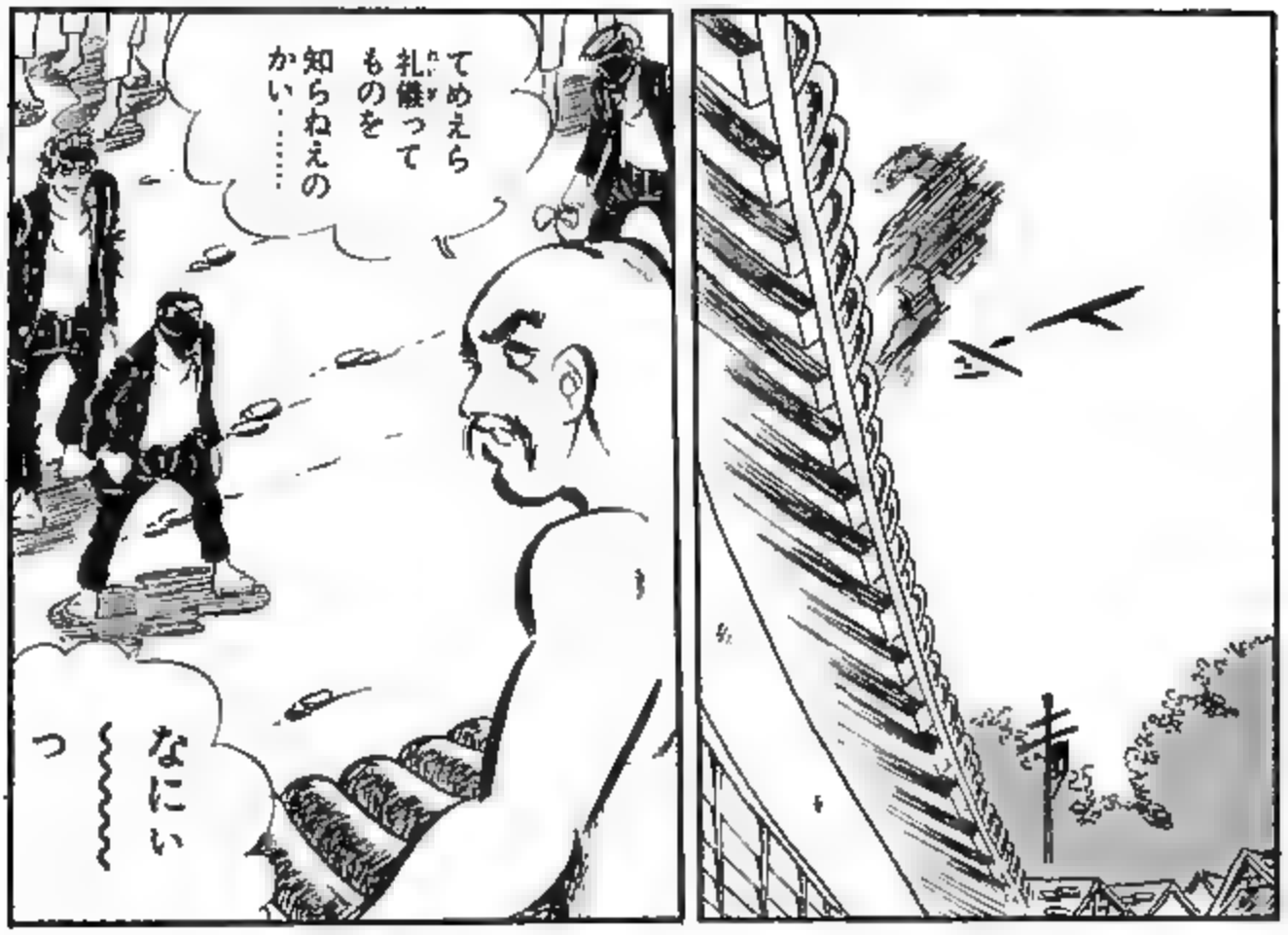
うわっ
源…
源蔵!!

だっ
だいじょう
ぶか…
あっ
ああ
ふっふふ
ふ

やろっ!!

なめたまね
さらしやがってえ
――っ

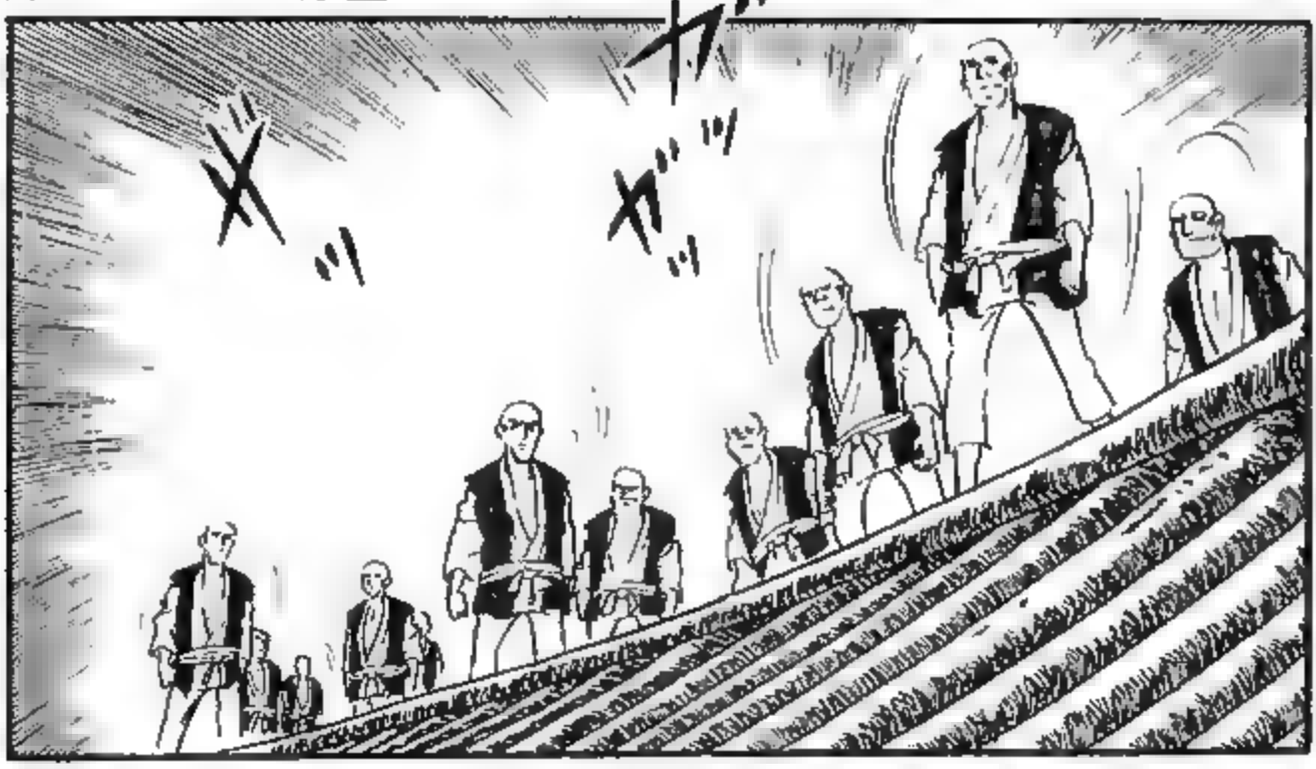
がぁ
!!
――っ
うっ
……
おお
――っ


てめえら 礼儀って ものを 知らねえのかい……
なにい〜〜〜っ

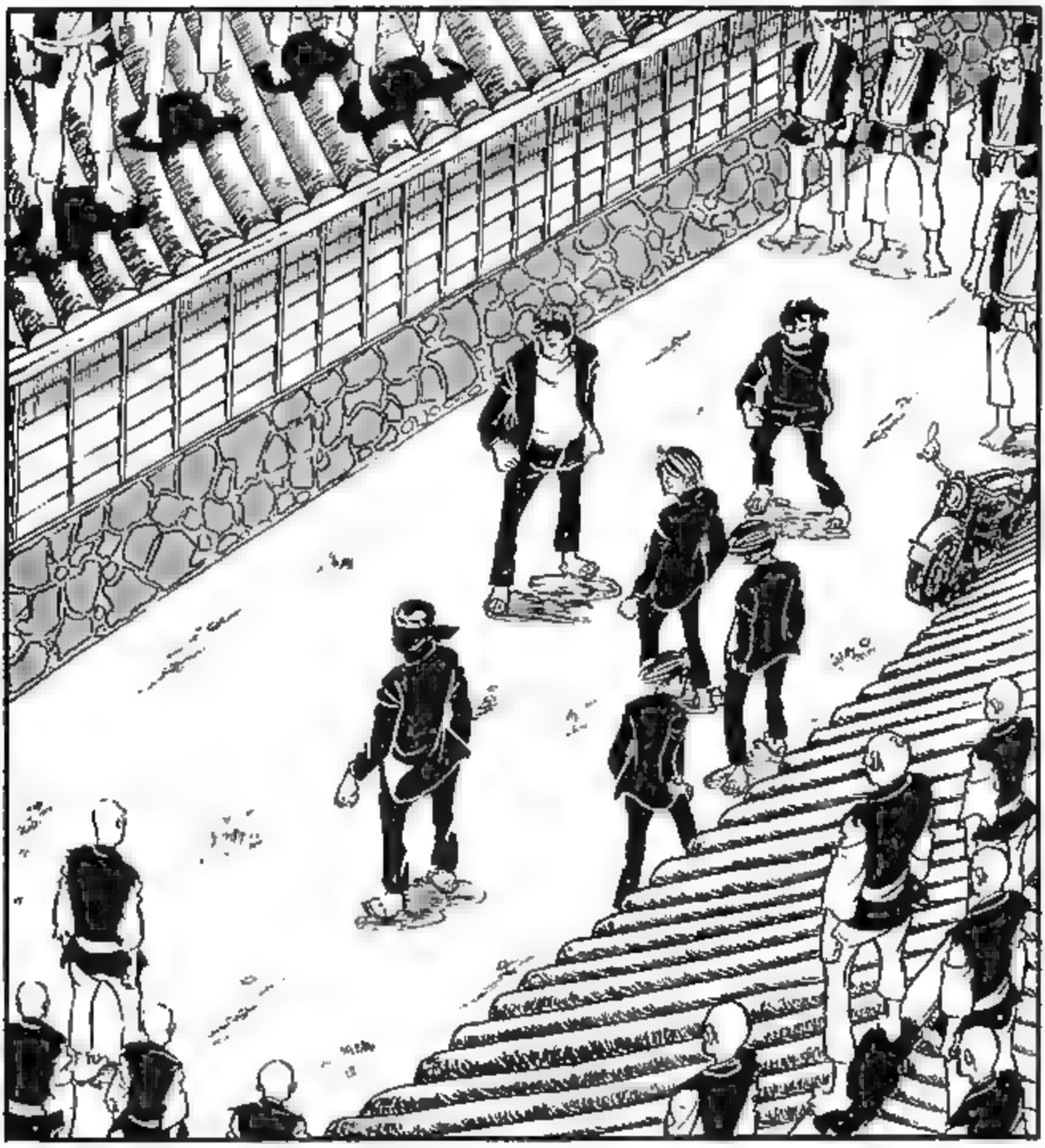
西海の 万吉ってなあ あいさつ ひとつ… 知らねえのかって てんだよ……
この北陸へきて あまり調子に のって もらっちゃ こまるのよ……

この北陸の虎 神島虎八さんが いるかぎりな……

ほう…
あんたが 北陸の
神虎さんかい
……
あら…
わたしのこと
知ってて
くれたの……
ああ
北陸に一匹
変なやつが
いるってことは
聞いたぜ
……
ン…
いうわね
あんた…


ガ"
ガ"

チ……
ン…



日本全国を
征覇
しようとしている
らしいが…
ここから先は
やめた方がいい
死にたく
なかったら
なあ
――っ

まて…
わいらは
何も…
いいわけは
聞かん
!!

とにかく
出てうせ
ろっ
この金沢(かなざわ)
からなっ

ふふ
神島(かみじま)さんよ
あんたも
たいした
もんだぜ…
ここまで
くるあいだ 西海(さいかい)の
万吉(まんきち)一家と聞いただけで
みんなびびった…
それを いい
度胸だぜ
ほめて
やるよ…

西海の万吉か…
ふふ…
たしかに
たいした野郎よ
……
だがな
東北の堀田石松…
でかい
男だぜえ
……

なにい
～～～っ
堀田石松
……

ふふ…
まあ
すわれよ
万吉さん…
あっ
あんたは
……
びっくり
したか……
なぜや…
なぜ そんな
大天才の
あんたが…
医者を
やめて……
あんたの
子分になるって
ことかい……
あっ
ああ…

生きた
人間の中で
人間と人間の
ぶつかりあいの
中で……
自分の
頭脳を
使って　みたく
なったのさ…

いくら……
頭の中で
わかっても
……
人間と
人間だ
頭の中で
どんなでかい
ことを
思いついても…
人をひきつける
力のない男には
しょせん無理だ…

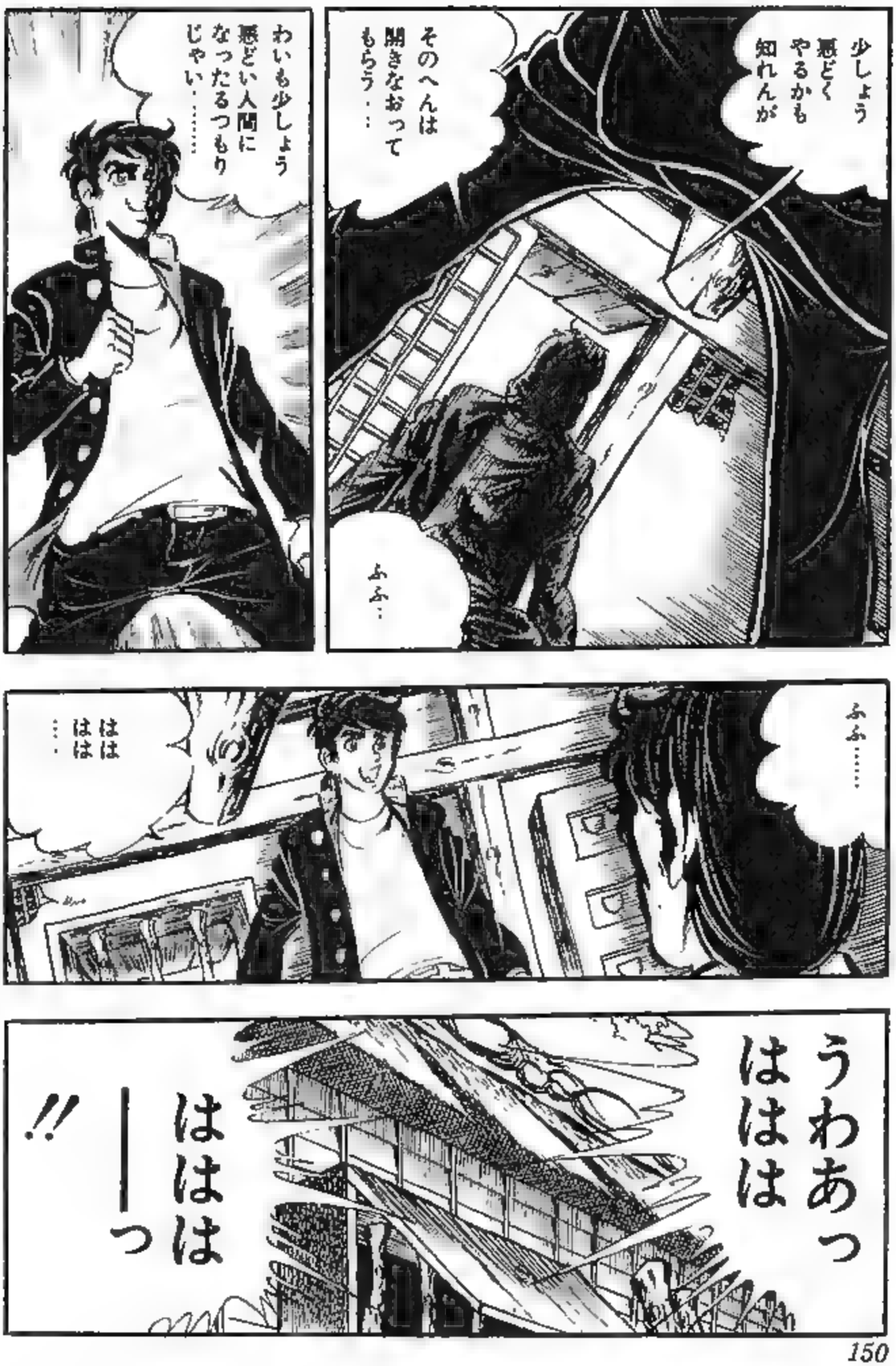
おれには…
人を
ひっぱる力は
ない……
おれは
あるところで
あんたを
みた
あんたに
預けてみたく
なったんだよ
おれの頭脳を
……

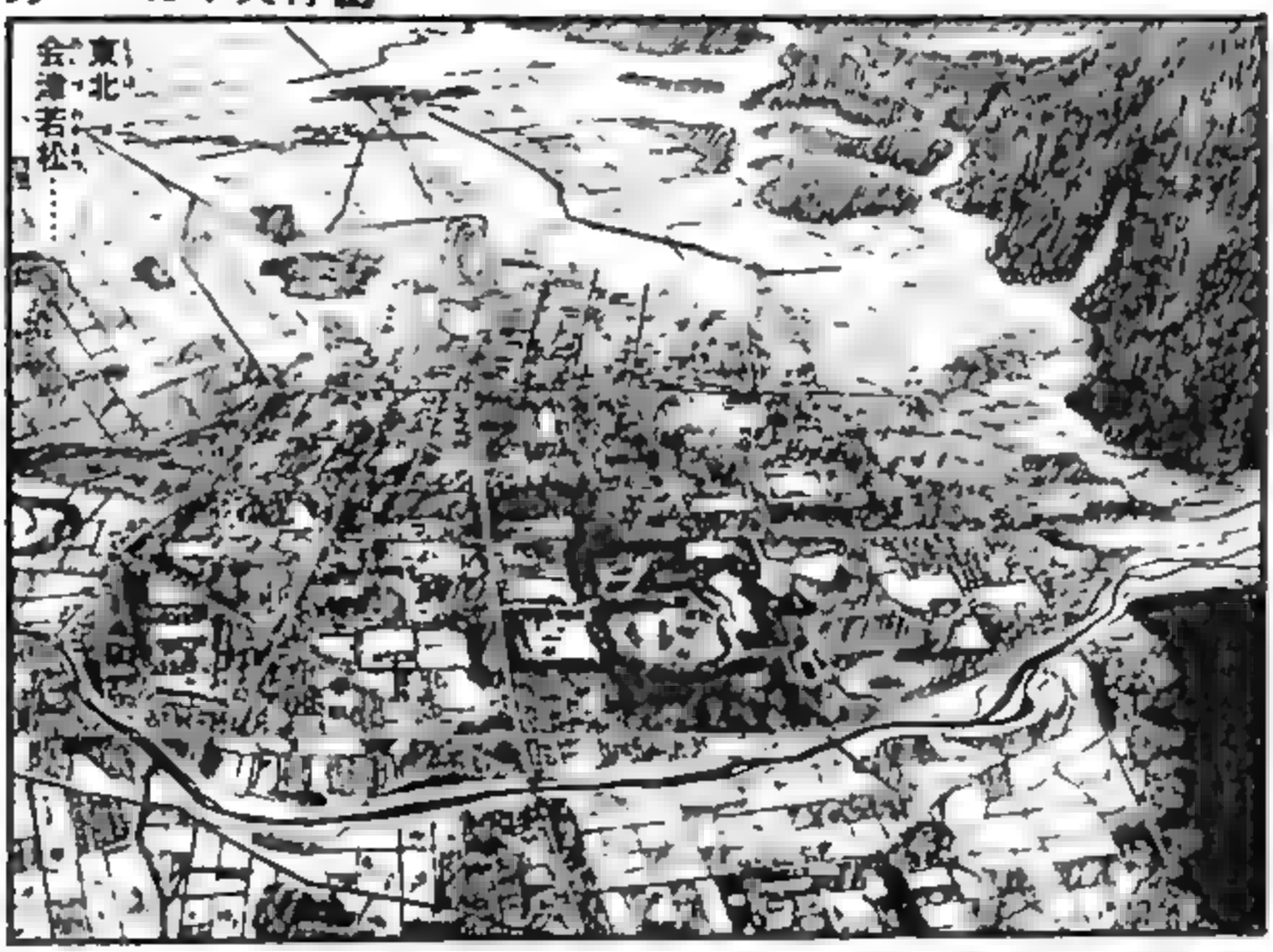
ええやろう……
おんどれの頭を わいが預かったる
そして わいの体をおんどれに 預けたるわい……

よし……
それではまず最初にあんたに日本中の

悪たれガキどもの……
総大将になってもらう……

しかもはでに日本中に 知れわたるやり方でな……
その方があとあと動きやすくなる……


少しょう悪どくやるかも知れんが
そのへんは開きなおってもらう…
ふふ…
わいも少しょう悪どい人間になったるつもりじゃい……
ふふ……
はは
はは
……
うわあっ
ははは
ははは
――っ
!!


東北
会津若松……

牛田一丁目

佐々木はまだか…
へえ いま駅にむかえに行ってます
奴め…… おれの大事なチエ袋だからな ふっふふ…

佐々木さんが帰ってきましたぜ
ムウ〜〜

東北の実力者の巻

わかっとる……東北へは一歩も入れん……
堀田さん……
入れんのではこまる……

万吉めの地ばんもかっさらう
西のほうもこのさい……ぶっつぶしてしまうんだ

つまり 日本をまっぷたつに東と西にわけて大げんかをやるんだよ……
……
……

本気か……
このけんかには
日本全国の
はんぱ学生どもを
ぜんぶ集める……
そこで
勝ってみい……
全国の総大将
だぜ……

つまり
関カ原の
戦いだ……
勝てば
いやでも おうでも
あんたの天下に
なる……

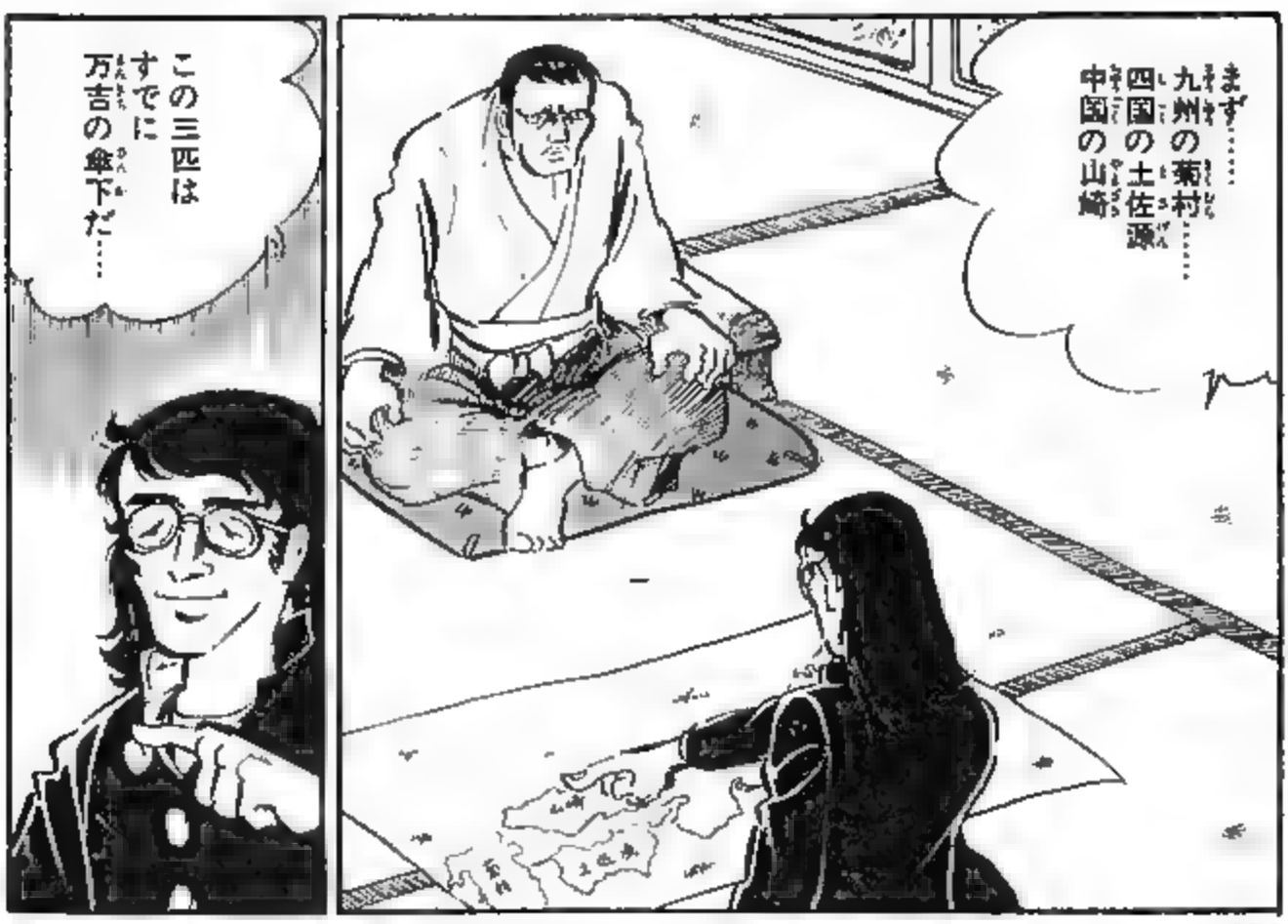
あ……
あんた
考えることが
でけえ……
さっ……
さすがだよ……
ふっふふ
……
ここで
一番だいじな
ことは……

なるべく
はでな
けんかに
することだ
そのために
名のある
ガキ大将を
ぜんぶ参加させる
ことだよ……
西のほうは
おそらく 万吉が
掌握するだろう……

東のほうは
堀田さん……
あんだ
……
できるか……
東のほうを
まとめあげることが
……
ふふ……

やってやる
この堀田石松
……
なにがなんでも
わしの天下を
作ってやる!!

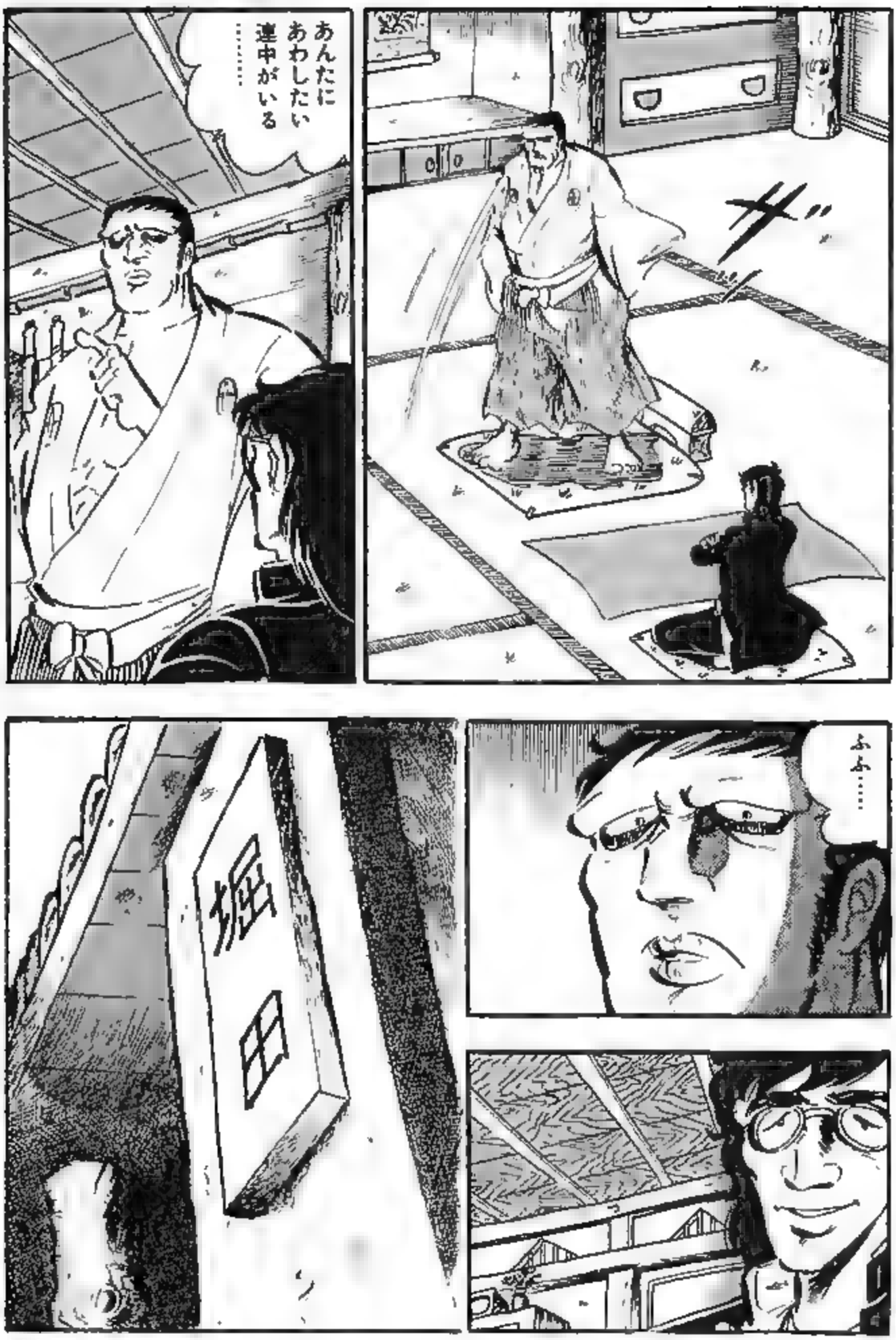
よし
まあすわれ
堀田さん……
ううー

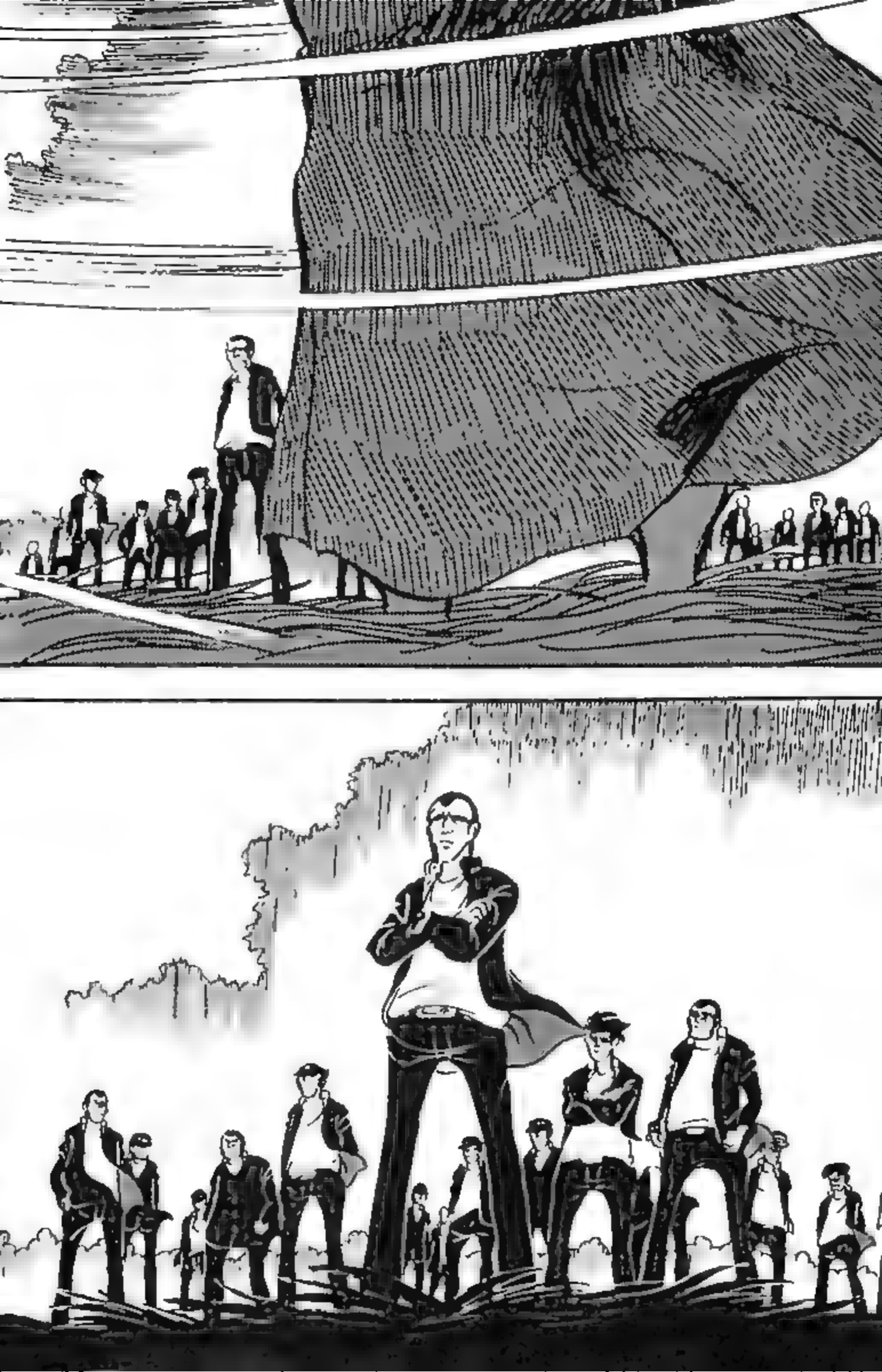

まず……
九州の菊村……
四国の土佐源
中国の山崎
この三匹は
すでに
万吉の傘下だ……

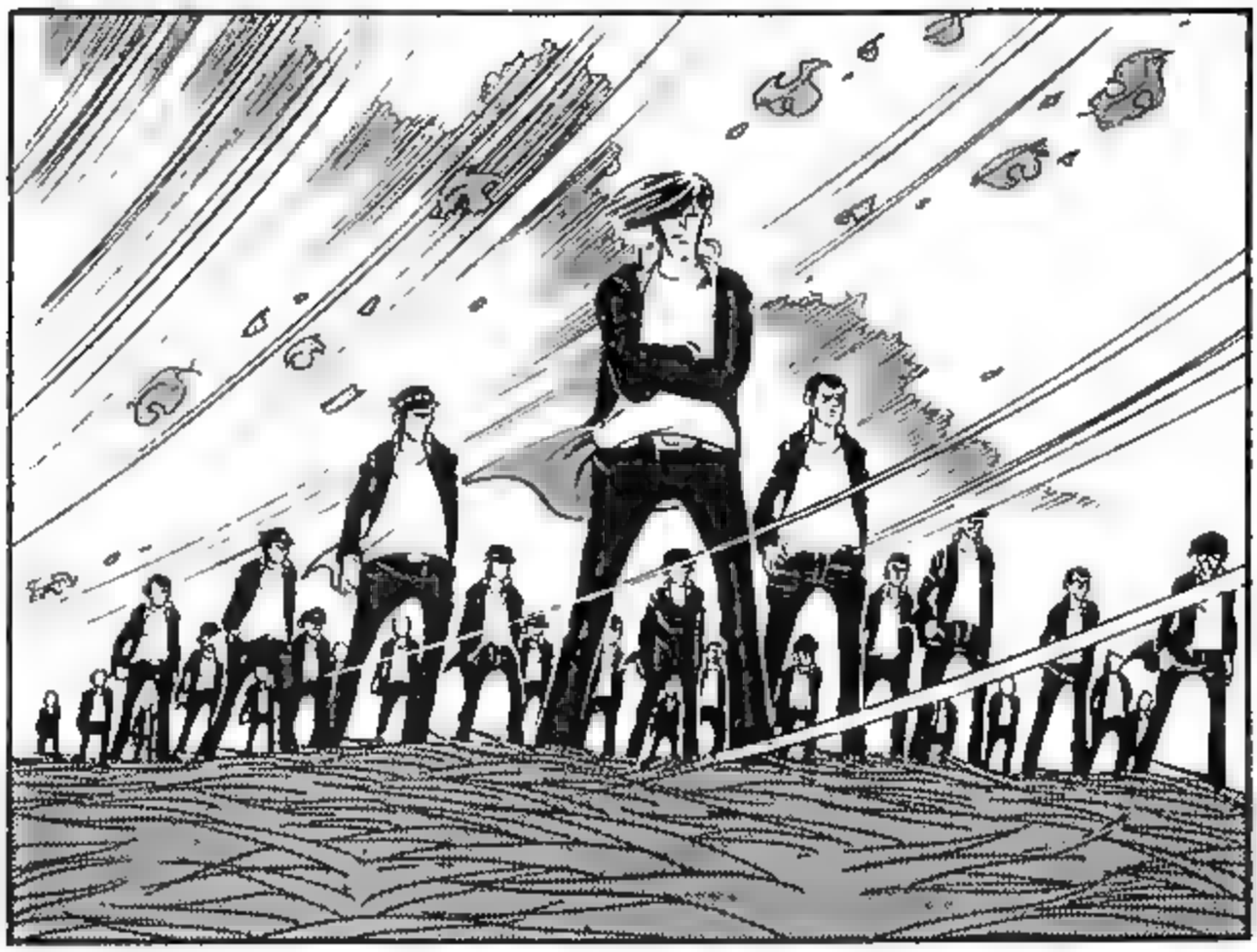
そして
近畿で ひとり…
万吉についた……
だれだ
そいつあ
……
おそらく
その男も
おれと
おなじことを
考えて……
万吉を
動かすだろう
……
ふふ……
おれとおなじ
役目の男だ
……

名古屋の
川畑幸明……
関東の
大島光克
中部の山の中に
熊坂玉樹
北陸の
神島虎八

そして
この東北に
三人……
仙台の加賀正吾…
新潟に水島佐吉
青森の水津良
ふふ……
そして
北海道の……
ジャコ万の
健
これだけの
ガキ大将どもを
どれだけ掌握
できるか……
あんたが……
万吉の動きを
さぐりに行って
いる時……
わしとて
ねむっていた
わけではない
……


あんたにあわしたい連中がいる……
ふふ……
堀田



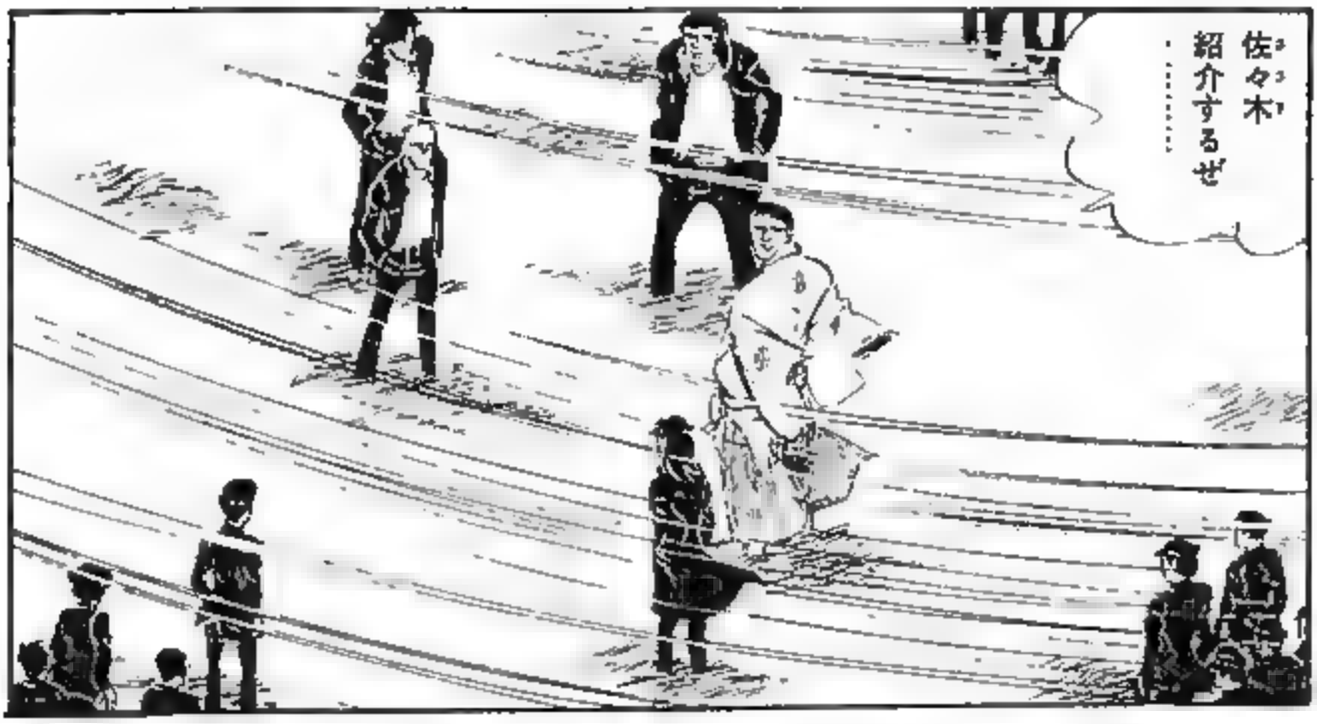


みんな
――っ
遠路……
会津くんだりまで
きてもらって
すまねえ――っ

堀田石松
このとおり
ありがたく
思っとるぜっ……

なあ～～に
堀田さんよ……
礼には
およばねえぜ
……

戸川万吉だか
千吉だか
しらねえが……
そんな野郎に
わしらのすみかまで
あらされてたまるけえ…
まったくよ……
身のほどしらずも
いいとこだぜ……


佐々木
紹介するぜ……

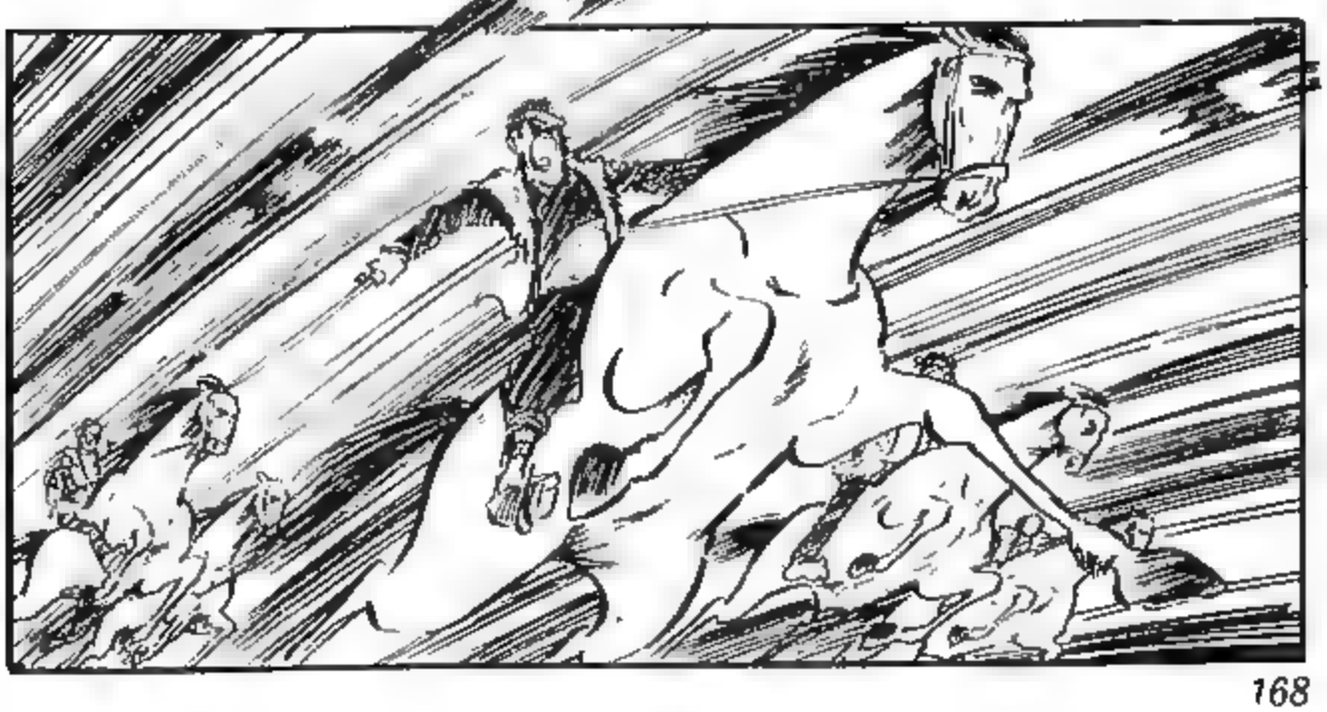
こちらさんが
仙台の……

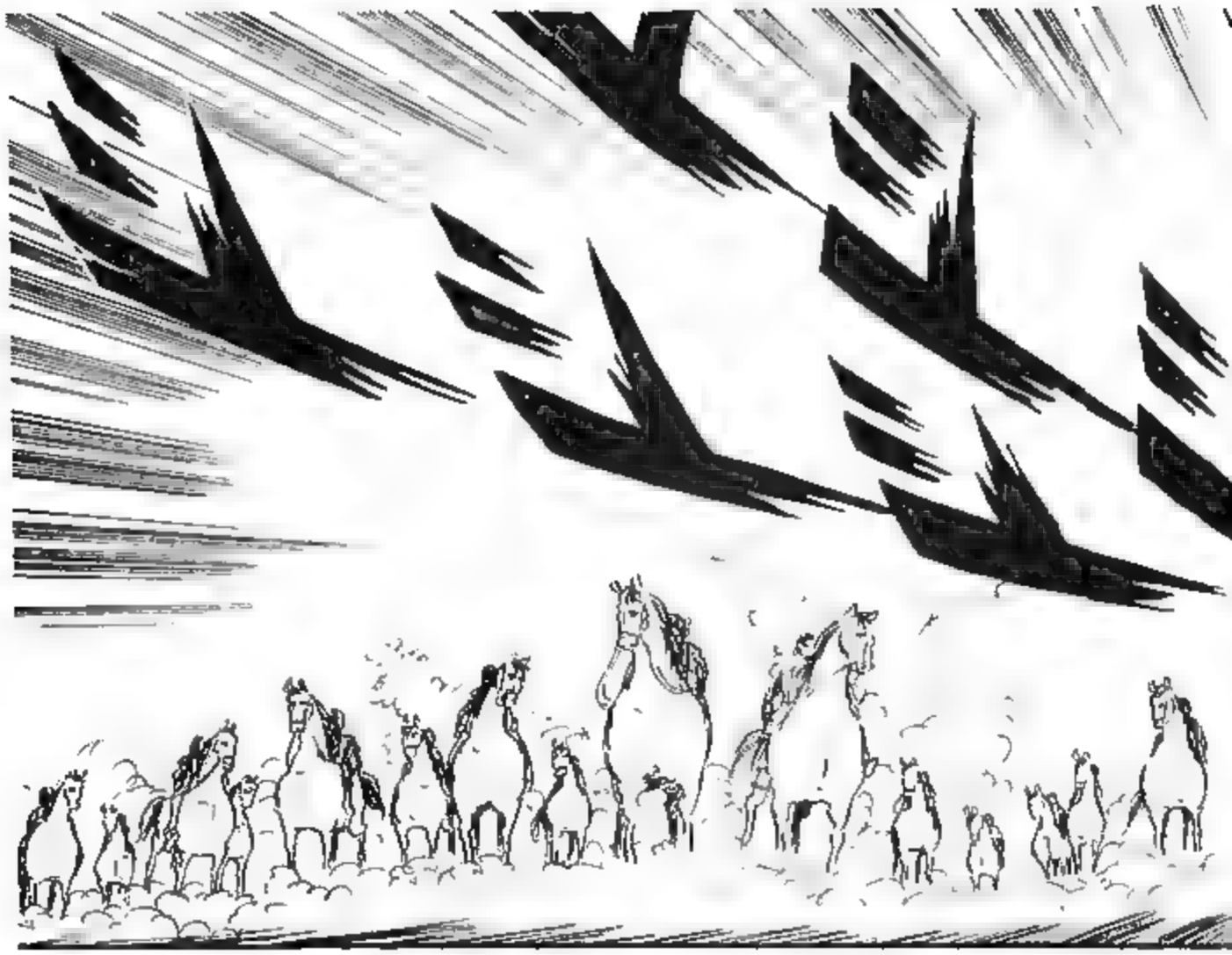
加賀正吾……

青森の
水津だ……

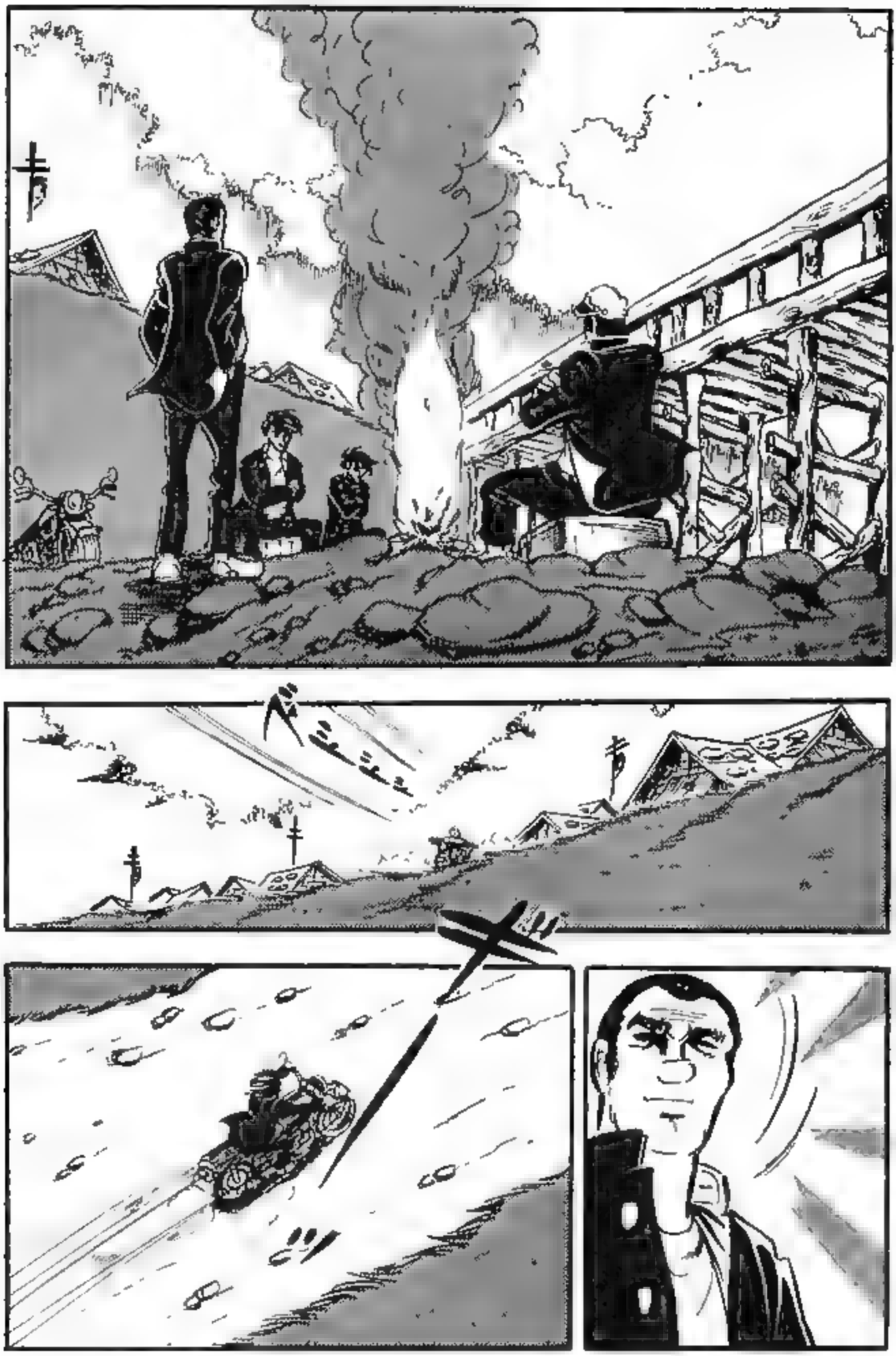
新潟の
水島……

北海道のジャコ万は……
まだきてねえんだが……
なに～～～っ
まもなくくるだろうよ……
ちっ……おれのよびだしだってのにおくれやがるとは……
なめた野郎だ
ン……





いやはあああっ!!



どうだった
あ――っ
だっ……
だめだ
菊村(きくむら)きん……

やはり あの
神島(かみしま)のガキが
いってたように
……
東北(とうほく)の連中
やはり
団結しているらしい
……

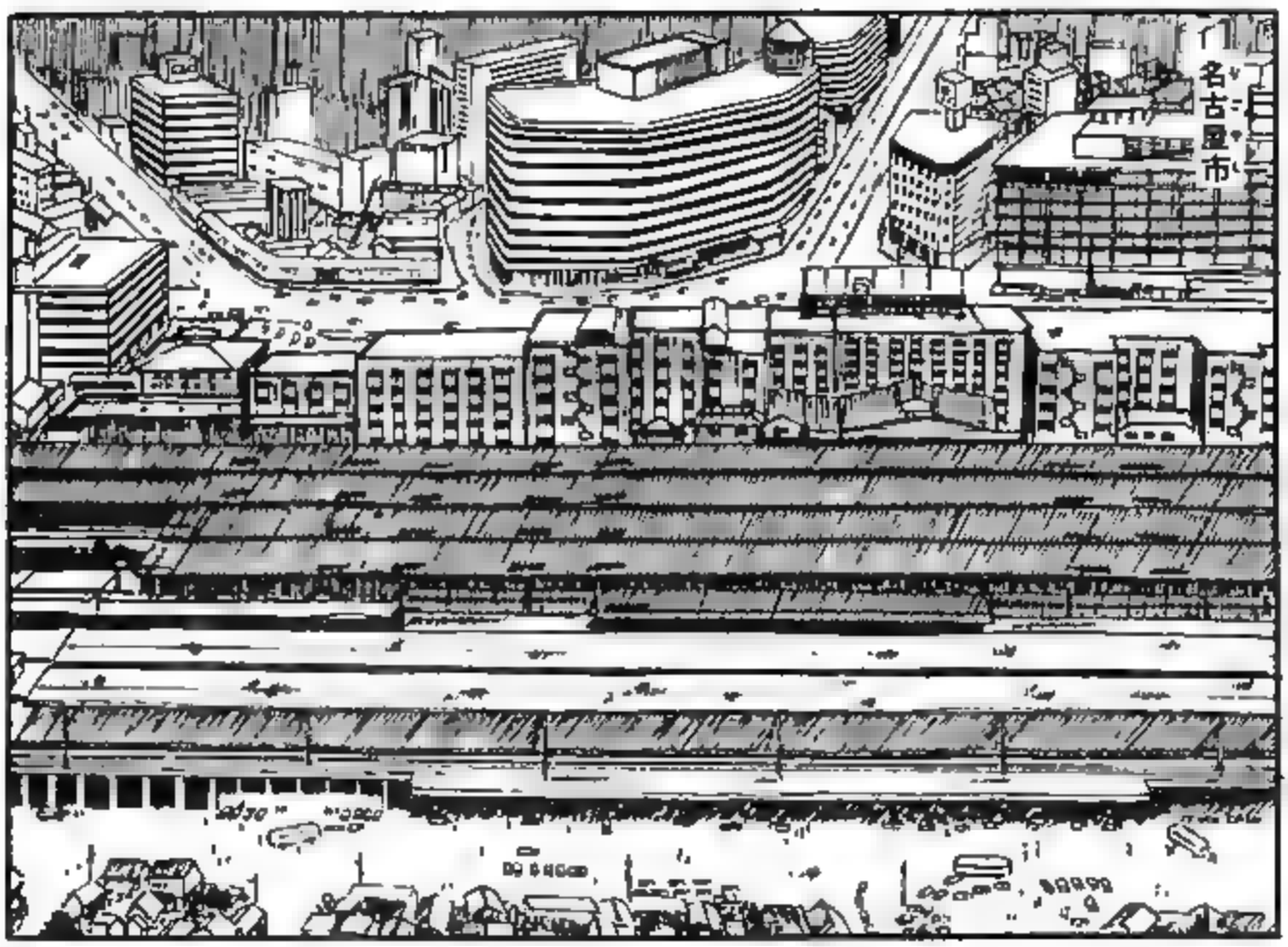
北陸(ほくりく)は
おろか
これ以上 北へは
入れねえ……
ムウ～～っ

これ以上コマを進めるとなると……
こいつぁ……
でかいけんかになるぜえ〜〜〜っ

わしらの一存じゃどうにもならん
いったんひきかえして親分に　相談する以外ねえ……

おまえら先に東海道の万吉親分に合流せえ……
あんたは……

おれか……
ふふ……
おれは……
あのフンドシ野郎をみやげにしてから行く……


名古屋市

ふ～～～んなるほど…
それじゃ……ここらへんの大将ってのは……川畑善明ってのかい……
はっ…はい…

だったらよ……その男につたえてくれや…
はっ…は…い

万吉一家が用事があるってな……

わっ
はっ
はい……
だいじょうぶかね……
あっ……
あわわ……
かっ……
川畑さん……
なにい
——っ

ははは……

けがはにゃあかね……
あるく時は前を よくみてちょうよ……
はっ…はい

うっ
ン…
なっ
なんだ
てめえ——っ
問答
無用!!

東と……
西の
けんかっ……
うわさは
聞いている
でよ

このわしもどっちかへつかねばなるめえ……
おれたちへついてくれるよな……
いやなら……
カづくでもってのかい……
ああ……
ふっふふ……
むだなことはやめたほうがいいでよ……
どうだかな……

うっ

あうっ……

第一
万吉さんが
いねえようだな
……

おれも いちおう
一国一城の
あるじだ……
三下じゃ
話にゃ応じられ
ねえ……

三下じゃあな……
やっ…
やろう
〜〜〜っ

待ちやがれ
てめえーっ
まてっ
銀次(ぎんじ)!!

北陸(ほくりく)へ行く前
へたに動くなと
親分に
いわれたろう
ここは やはり
親分を
まつべきだぜ…

くっ…
くそ
〜〜〜っ

それに
万吉(まんきち)が
おれんとこへ
くる前に
いっとけ……
川畑喜明(かわばたよしあき)
力じゃ動かん
ましてや…

なにわ節なんかじゃ
さらさら動く気は
ねえとな……

うわあっ
ははは
はは……
金本イトウヤ
欲の皮のつっぱった野郎だ……
ふふ……
みかえりをのぞんでやがる……
奴が力をかすだけのほうびをよ……

激突!! 北陸の空の巻

全部で
九千人……
万吉のほうも
おそらく
そんなところ
だろう……
すると
後は…
関東の大島
中部の熊坂
……
名古屋の
川畑
北陸の神島
……
この四人を
どう味方に
ひき入れるか
だ……
それは
おれにまかして
もらおう……

おそらく
決戦の場所は……
富士のすそ野
あたりだ……
となると
関東の大島
大島
光克
こいつを
味方にしとかんと…
後から……やられる……
反対に
名古屋の川畑
川畑
豊
……
仲間に
しておけば
後からたたける…
ふふ……
なんにしても
このふたり
味方にする
必要がある……
信頼して
いるぜ
佐々木さん……
まかして
おけいっ……
おれの意地に
かけてもな……
ふっふふ
……

なんだあ
――っ
きさま
――っ

問答
無用
――っ!!

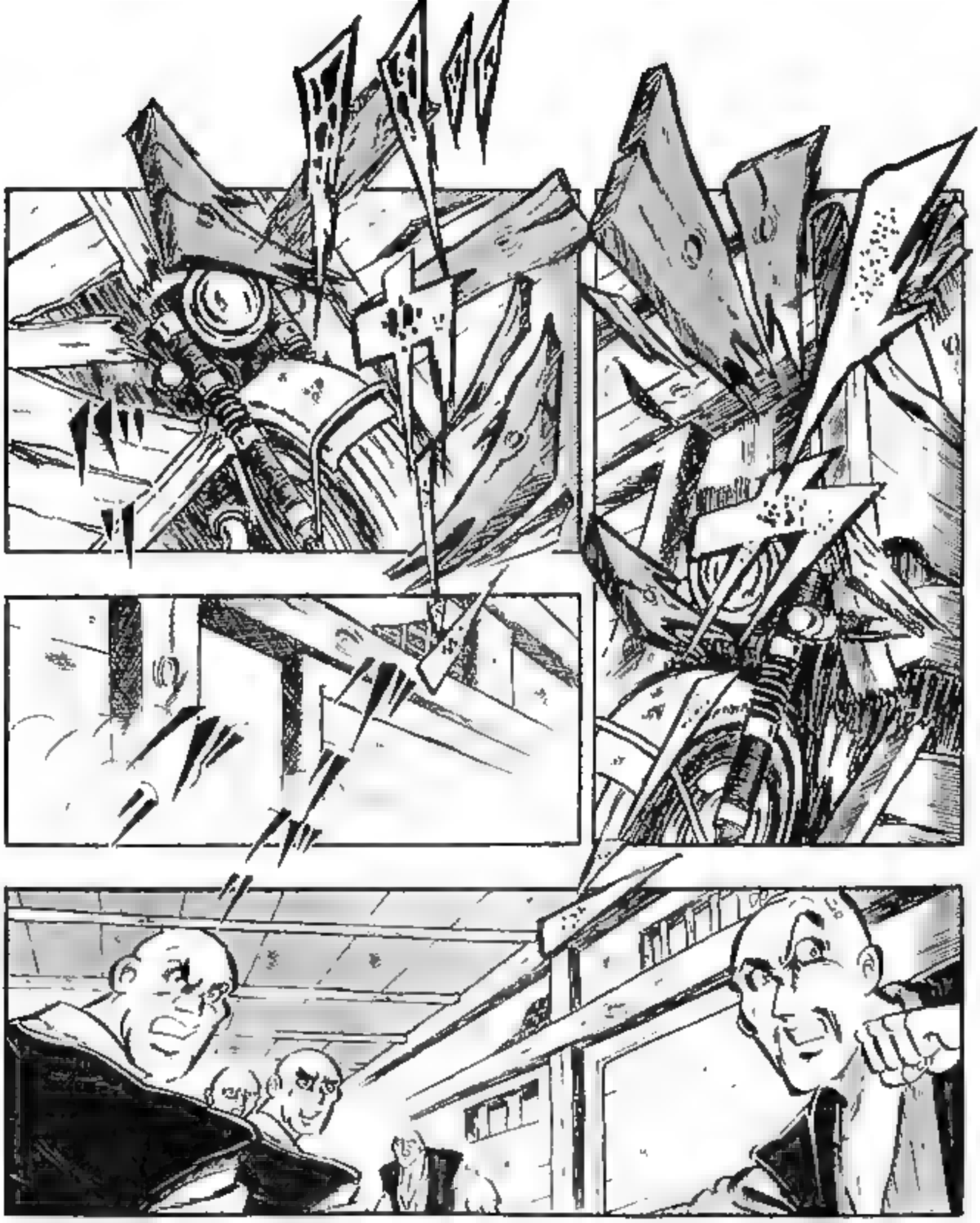
!!ナ
!!ッ

うりゃ——っ
わっ
どおりゃあ——っ

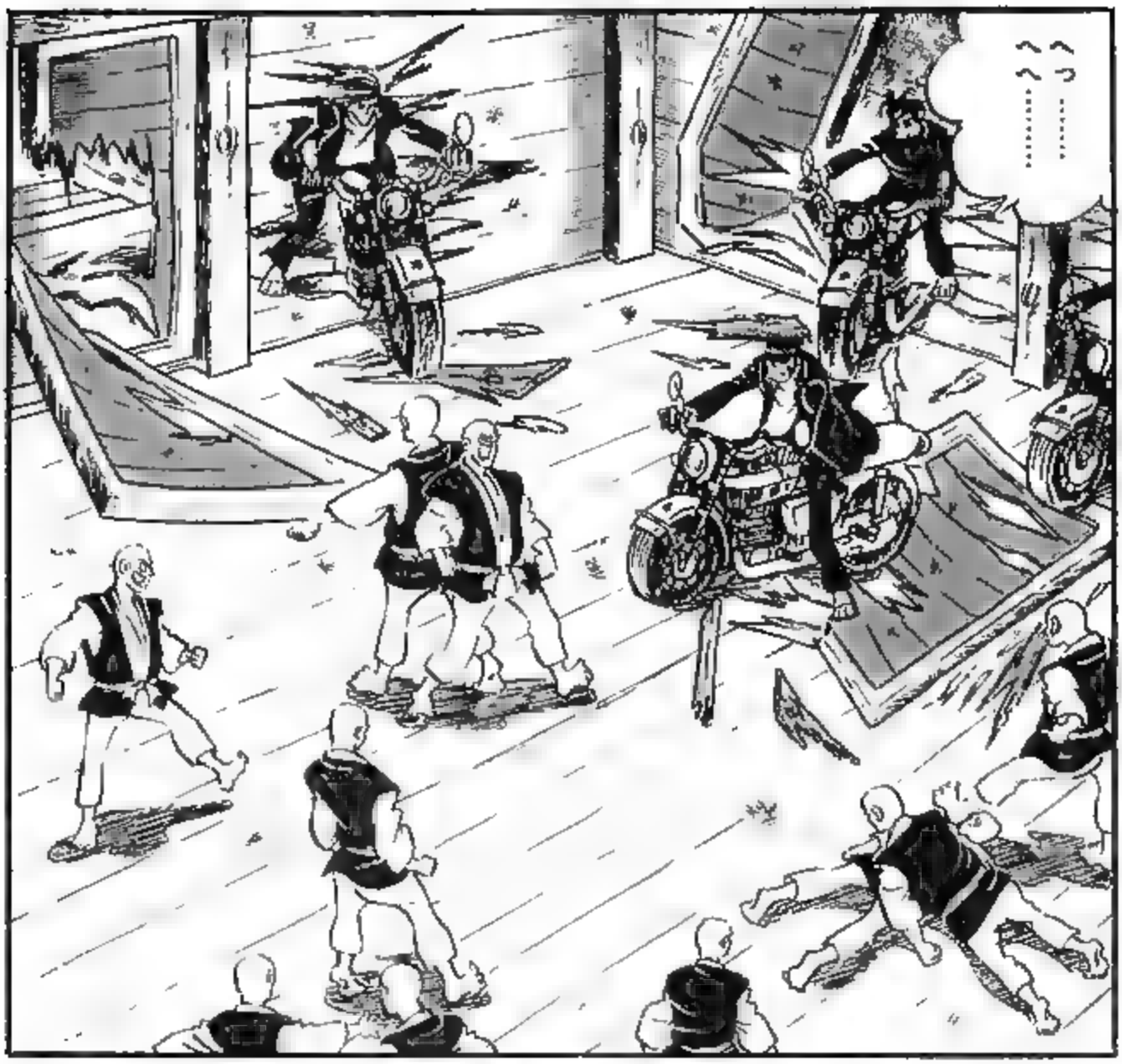
ケーッ!!

やっ
やろう
〜〜っ
なんだと思って
やがるんだ
人の家へ いきなり
なだれこんで…

くそったれがあ
——っ
めったためたに
してやれ
——っ
お ——— っ



なんじゃい
おはんら……
先に行っとれと
いったはずだぞ……

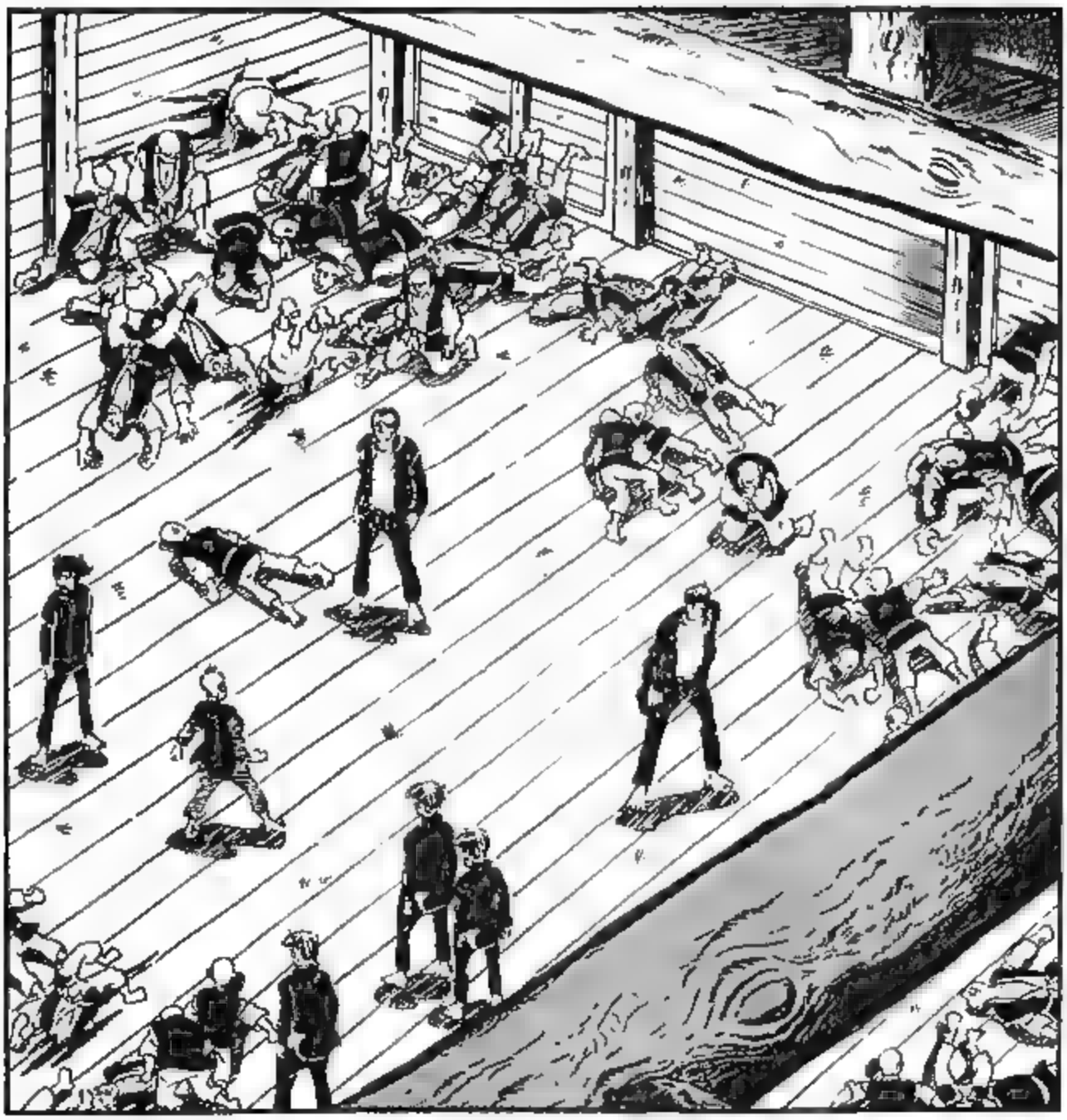

へっ……
へへ……

あんた　ひとり
なら……
一時間
かかるだろうが
……

おれたちも
まざれば
十分でおわる

そりゃあ
――っ
ぷち
のめしたれ
いーっ
げえ
ーっ
ケエ
――ッ
へへへ
――ッ
ぐわ
――っ
!!

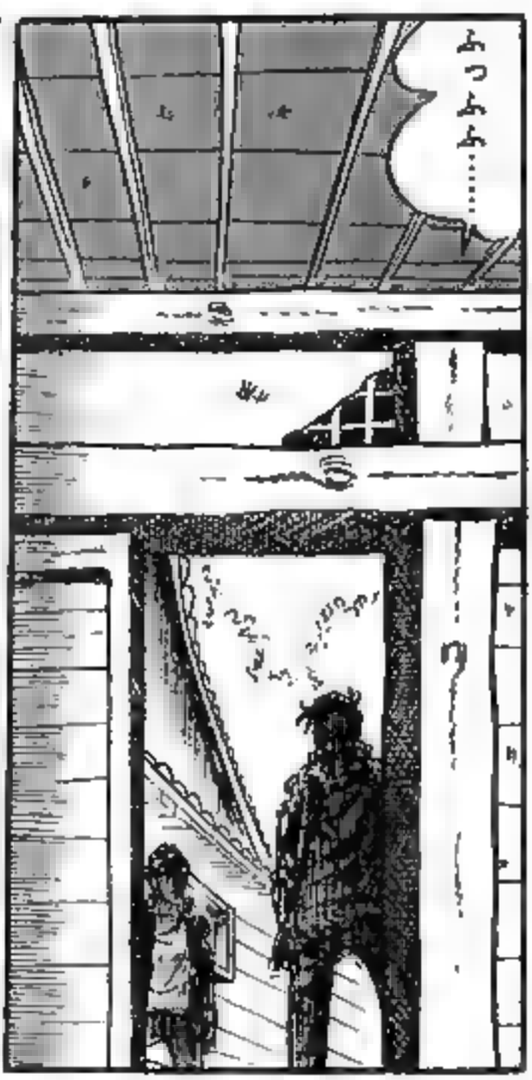
げえ
おお——っ
てっ……
てめえらあっ



ふふ……
どうする……
あんた ひとりに
なっちまった
ぜ……

きっ……
きさまら
〜〜〜〜っ

てめえらの
やってることは
侵略だぜ
はずかしく
ねえのかっ
!!


ふっふふ……
……？

ン……

あっ
くあああ
——っ
!!

あ
おっ…
親分
いっ……
いつ こっちへ
……
さっ
さっき
だ……

てっ……
てめえかい……
万吉ってのは……
ふふ……
神島さん……

おれたちの
やっとることを
ただの侵略だと
おもうんなら……
こまいぜ
あんた…
ぬかしやがれ
おれたちは なにも
てめえに 害を加えよう
ちゅうんやない

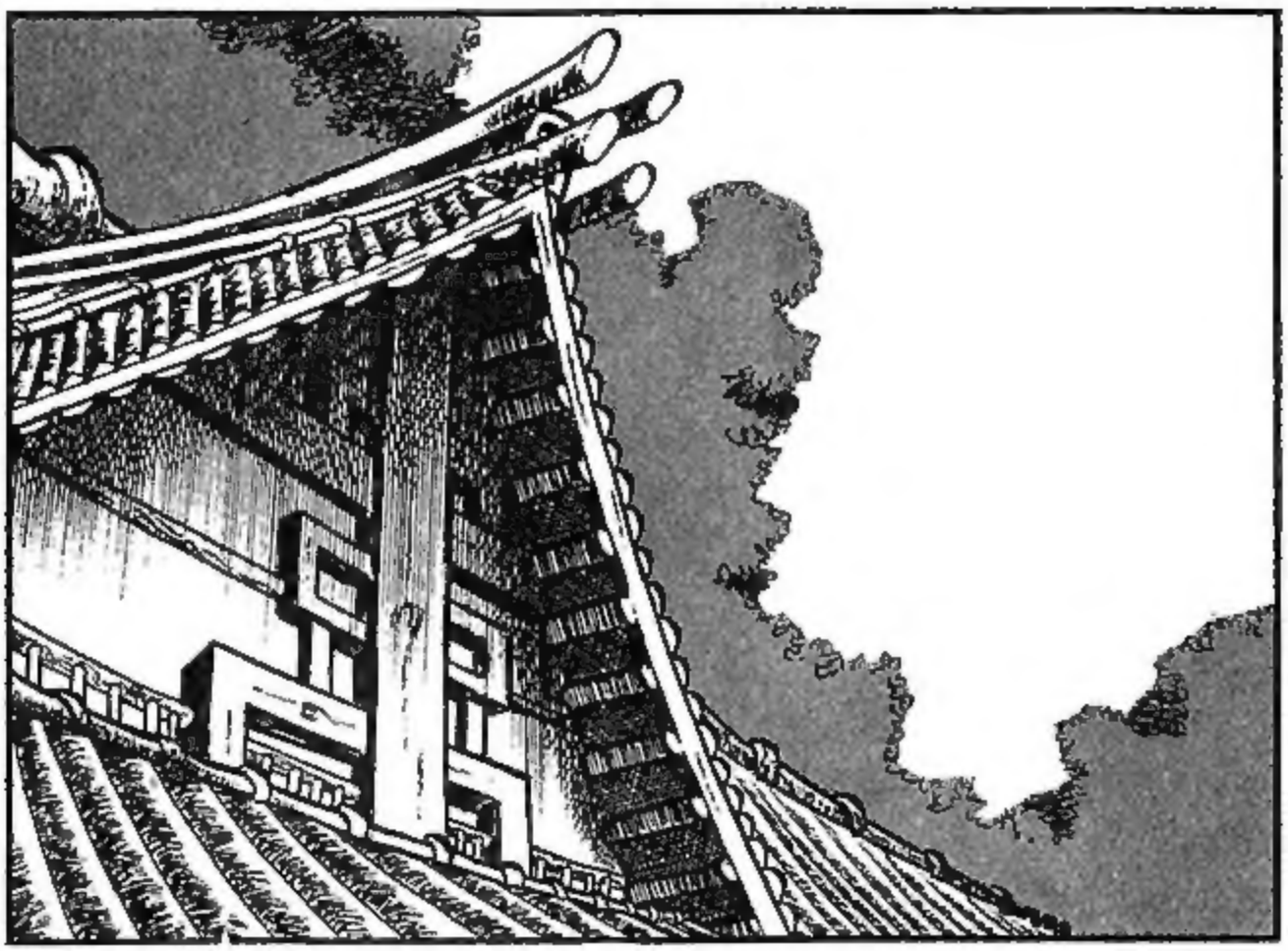
おとなしく
やっとるもんに
なぜ　攻撃を
くわえな
ならんのじゃ
攻撃されたく
なかったら……
北陸の虎などと
いって
のさばるな……
おんどれが
北陸で
ブイブイ
いうのんも……
わいが　日本全国を
ブイブイ
いうのんも
おなじこっちゃい……
ただ……
おんどれは　北陸が
目いっぱい……
わいは　命が相手
それだけのちがいじゃ……
命……
そうじゃ
命じゃ……

つまり
自然じゃ……
せやから
西海も北陸も
日本も地球も
宇宙も……そんなもん
せいげん　あれへん……
わいにはな……

わいの命が
とまった時
……
そこが　わいの
限界なんじゃ

わいの命が　とまるまで
わいの限界など
ないっ!!

よう考える
こっちゃ……
われのもってる
力を　どうすれば
いちばん生かすことが
できるか……



親分……
これから
どうしますか…
それだ……

これ以上 北へ
行くな……

と……
いいますと
……

ふふ……
ひとりふたりは
めんどうじゃ
……
一気に
たたき
つぶしたるっ……
菊村(きくむら)……
兵隊をよべっ……
なるべく
多くな……
場所は富士
おお
――っ

やろうども!!

西のほうの
こざかしい
ガキどもを
たたきつぶしに
前進
じゃあ
――っ